地域コミュニティの担い手をめざして

新かがんばる商店街選



~「新・がんばる商店街77選」刊行に当たって~



商店街は街の顔であり、その地域の人々の暮らしを映す鏡です。それぞれの商店街には個性溢れる商店が並んでいて、通りを散策するだけでも楽しく、私に活力を与えてくれる場所であります。

一方で、昨今の厳しい経済情勢から、かつては賑わいを見せ た通りに空き店舗が増え、人影もまばらになっているところも 一部に見られております。

しかし、全国には地域の英知を結集し、個性豊かな取組により活気ある街づくりに貢献している商店街も多く存在しております。商店街には明日があると私は確信しています。 私は、3年前の経済産業大臣の時、商店街に光を当て、街ににぎわいを回復することを期待して、「がんばる商店街77選」を始めました。

この取組をさらに広げるため、今回の「新・がんばる商店街77選」では、高齢者・子育 て支援や環境・リサイクルなどの地域住民のニーズに応えたり、地域の魅力を発信したり することにより、地域の皆さんから信頼され、愛される商店街を紹介しております。

これらの商店街は特別な商店街ではありません。地域の常識やしがらみにとらわれず、 熱意を持ち、新しい発想で積極的に行動する方々が、自らの商売だけでなく、商店街、ひいては地域の発展のために知恵をしばり、汗をかき、様々な創意工夫を重ねた結果なのであります。

経済産業省としても、この国会に提出している「地域商店街活性化法案」を柱として、 地域のために積極的に行動する商店街を全力で応援していきます。

本書やこの法案がきっかけとなって、全国の商店街の皆さんがさらに素晴らしい取組を 行われ、日本全国に元気な商店街が増えていくことを祈念して、刊行に当たってのごあい さつとさせていただきます。

平成21年6月 経済産業大臣



全国の『新・がんばる商店街77選』

本書は、商店街の活性化あるいは地域コミュニティの担い手をめざして、 日々がんばっておられる皆様の取組の参考としていただく目的で、全国の 商店街や地域の皆様のアイデア事例を集めたものであります。事例の収集 にあたりましては、全国の経済産業局のネットワークを活用し、また地方 公共団体や全国商店街振興組合等の中小企業団体のご協力を得て行いまし た。

今回の事例選定にあたりましては、集まった情報の中から地域コミュニティに主眼をおきつつ、商店街や地域に特色のある取組で実際に商店街やまちのにぎわいにつながっているもの、特に独自性のある取組など、他の商店街や地域の皆様の参考になる取組を選定するという観点から、アイデア性に着目し、中小企業政策審議会商業部会に設置した事例検討小委員会(委員長:石原武政 関西学院大学商学部教授)の検討を経て選定されたものであります。

少子高齢化や人口減少の差異等、地域によって置かれている状況は様々であり、本書に掲載されていない商店街や地域でも活性化に向けた懸命な努力が続けられております。本書は、そのような商店街や地域の皆様の取組の一助となることを期待して作成されたものであります。

新。がんばる商店街77選選定事例=覧



「いわない楽座」

北海道 岩内町

台 岩内町名店往

P 1

●「楽育&寿」2つのコミュニティとゆるキャラで商店街活性化

岩内町名店街協同組合では、商店街の空き店舗を活用し、多機能コミュニティスペース「いわない楽座」を設置。地域の特産品を扱う「アンテナショップ」、高齢者向けコミュニティスペース「寿コミュニティ」、子育て支援に特化したコミュニティスペース「楽育コミュニティ」等を運営し、商店街の活性化を図っている。



「ぷらっと。てついち」

北海道 室蘭市

2 輪西商店街

P.3

●コンパクト化で蘇った「鉄のまち」の商店街

かって「鉄のまち」として栄えた輪西地区の商店街を再生するため、商店街が中心となって中心部に輪西のお茶の間づくり(「暮らしの広場」構想)を推進。複合商業施設「ぷらっと。てついち」には、地元スーパーを核に16店舗が入居するほか、子育て支援施設「ワニワニクラブ」を設置。また、エコ商店街としての取組などにより、様々な交流が生まれ、「鉄のまち」を支える商店街が復活。



「白老消費者協会内のアンテナショップ」

北海道 白老町

3 白老大町商店街 (NPO法人白老消費者協会)

●消費者協会が、商店街に新たな風を

消費者協会が商店街の空き店舗を活用し新規出店。高齢者の憩いの場、農商工連携による地元農水産物のアンテナショップ、環境・リサイクルコーナーの設置・運営、観光客向けの情報発信等により、商店街の活性化に一役買っている。



「古紙のリサイクルに取り組む下土手町商店街」

青森県 弘前市

4 下土手町商店街

Ъ.

●資源リサイクルを構築・運営している商店街

商店街振興組合の有志組合員(個店)が「弘前下土手商店街古紙サイクル協議会」を組織し、参加 個店との連携のもと、可燃ごみとして輩出していた段ボールや新聞紙、雑誌などの紙類を分別し、 資源として回収する「古紙リサイクルシステム」を構築・運営。



岩手県 花巻市

5 東和町土沢商店街

DO

●美術館と住民が連携し、まちなかアートでにぎわいあふれる商店街

商店街の交流人口の増大と活性化を図るため、花巻市、土澤まちづくり会社(旧TMO)、萬鉄五郎記念美術館及び住民参加により、商店街全体を美術館に見立て(まちかど美術館事業)、空き店舗などを活用したまちなかアートを展開。



宮城県石巻市

6 アイトピア商店街・橋通り商店街 P11

●エコイベントで活性化する商店街

商店街に活気を取り戻したい! という想いで両商店街が合致。商店街とお客さまが一緒となった商店街づくりを目指し、商店街とお客さまが一緒に取り組むことができる「エコ」と「レトロ」の二本をテーマ(「街に恋(こい)祭り~ええコト(eco)しよう! 石巻』)に、新たな取組を行う商店街。

「イベント告知や商店街マップを盛り込んだ新しいタイプの新聞回収袋(恋袋)」



「志津川おさかな通りの様子」

宮城県 南三陸町

7 志津川おさ<u>かな通り</u>

P 13

●水産資源と地域ネットワークを活用して活性化する商店街

親潮と黒潮が交わる三陸沖の志津川湾の豊富な水産資源を広くPRするとともに、「志津川おさかな通り大漁市」や「南三陸志津川寒鱈まつり」などのイベントの実施や観光事業とも連携し、地域の特色を活かした他の商店街にない商店街づくりに取り組んでいる。



「空き店舗を活用したアート展」

秋田県 大館市

8 大町商店街 (ゼロダテ)

P 15

●アートをテーマに回遊性向上を目指す商店街

地元出身のアーティストがアートユニット「ゼロダテ」を組織、空き店舗を活用した街なか美術館を提案。市民ボランティアや商店街、若手アーティストが連携したアート・イベント(ゼロダテ / 大館展)により、商店街の回遊性を高め、市民が身近に芸術に親しむ機会を提供。「ゼロダテ」は、春の東京展、夏の大館展、冬のアメッコ市展など通年を通して活動を展開している。



「山王ナイトバザールの様子」

山形県 鶴岡市

9 鶴岡山王商店街

P17

●「山王まちづくり憲章」の理念のもと、より美しく、住みよい山王を掲げる商店街

商店街の賑わい創出のため、山王ナイトバザールは、5月から10月までの第三土曜日に開催されている。庄内地方の名産品の直売、有志によるフリーマーケット、スタンプラリーやゲーム等が行われ、市内だけではなく県外からの来街者も集め、毎回の賑わいをみせる。「山王まちづくり協定書」を策定するなど、意慾ある商店街。



「幼稚園児から大人までが楽しめる "音楽&パフォーマンス・ビンゴ大会"の様子」

山形県 長井市

10 本町大通り商店街

D10

●もとまち青空フェスティバル

まちなかに市民を呼び戻そうと地元商店街、商工会議所等が市民参加型の商店街活性化イベント(もとまち青空フェスティバル)を開催。その後、長井市では様々なイベントが行われているが、その 先駆けとなる。また、地域循環システム普及・促進による「安心・安全」な街づくり、健康・健全な街づくりにも取り組んでいる。



一店逸品運動「逸品発見!お店回りツアー」

福島県 いわき市

11 いわき駅前商店街

P 2 1

●商業者中心のプロジェクトチーム組織により、コンパクトシティを推進

駅前再開発ビルのオープンを機に、官民一体となった「いわき駅前賑わい創出協議会 / コンパクトシティ推進PT」を立ち上げ、ハード施設に街としての命を吹き込むソフト事業を展開。PTには4つの部会を立ち上げ、「一店逸品運動」、「街なか空き地・空き店舗有効利用」、「街なか情報発信」などコンパクトシティの実現を目指す。



「北条ふれあい館岩崎屋」

茨城県 つくば市

12 北条商店街

P23

●米 (マイ) コミュニティ構想

筑波北条米という地域資源を活かし、人とモノの交流による街の活性化を目指し、地元住民・商店主と大学生(筑波大)との連携により、新しい事業(北条市・北条米(マイ)スクリームなど)を展開し、地域の魅力を発信している。また、商店街と地域住民のコミュニティ形成をめざし、筑波北条米を担保とした米本位制の地域通貨「マイス」を発行、流通実験にも取り組む。



「地元大学生の運営によるチャレンジショップ」

栃木県 鹿沼市

13 まるにえる1

P 25

●「よそ者・若者」も取り込み、商店街と連携した町づくりにチャレンジ

地元大学との連携により、駅前商店街を活用した通年営業のチャレンジショップを開業。地産地消の飲食店、新名物「にら焼きそば」などを提供。「よそ物・若者」を取り込み、地元商店街のバックアップによりチームワークを活かした街作りを行っている。



「賑わう下町夜市の様子」

群馬県 館林市

14 たてばやし下町通り商店街 P27

●イベントから生まれる交流により、新規創業者の創出と地域の活性化

空き地を活用した「下町夜市」での交流(チャレンジショップ事業など)は、新規創業者の創出に貢献。 「夜市」の開催、商店街で開設した「したまちパオ」(地域の寄り合い所)の運営などにより、地域 住民のコミュニティ創出の場として機能している。



埼玉県 入間市

15 アポポ商店街

D 20

●地域との強い連携でにぎわいづくり

近隣の大型店と隣接商店街とで構成する「いるまんなか協議会」、大学(駿河台大学)や地元の団体との連携で多彩な事業を展開。単なる商店街のイベントではなく地域イベントとして成り立たせ、商店街の賑わいづくりを展開。

「アっいうまに人がポこポこ集まる街 アポポ商店街」



「稲毛あかり祭り~夜灯 (よとぼし)~の様子」

千葉県 千葉市

16 稲毛せんげん通り商店街

●「稲毛あかり祭り~夜灯 (よとぼし)~」の継続が地域コミュニティの再生に貢献

「稲毛あかり祭り〜夜灯(よとぼし)〜」。半農半漁のまちであった頃に行われていた遊びの漁「夜灯しの漁」をモチーフに、イベントの準備段階から地域住民(大学生・町内会・ガールスカウトなど120の地域団体)と連携・協働し、手作り燈籠でまちを照らし、地域コミュティの形成を育む取組を展開中。また、商店街の取組も、一店逸品運動、地域の安心・安全に向けた取組など幅広い。



「昔ながらの鳩の街商店街」

東京都墨田区

4 鳩の街通り商店街

P33

●商店街のアートスポットから地域の魅力を情報発信

昔懐かしい建物が点在し、昭和の面影を色濃く残す商店街であり、芸術や建築関係者の人気を集めている。昔ながらの商店に加え、木造長屋を改装したカフェや工房ショップが人気を集め、地域の魅力を発信しながら地域に活気を与えている。



東京都 品川区

18 声越銀座商店街

P35

●商店街のオリジナル商品開発が大成功

全国で初めて商店街のオリジナルブランド商品の開発を行い、ヒット商品を次々と生み出した。日本一住みやすい街を目指して地域に根ざした取組を継続した結果、平日でも賑わいあふれる商店街が復活した。また、新たに大学生とタッグを組んで"コロッケの街づくり"にも挑戦している。

「とごしぎんざのアーチと子供に大人気の銀ちゃん」



「ヨルイチに賑わう商店街の風景」

東京都 あきる野市

19 五日市商和会 (ヨルイチ実行委員会) P37

●昔なつかしい「市」(ヨルイチ)の再現と地域資源を活用して魅力度アップ

「古」「静」「暗」「スロー」「和」などをテーマにした昔懐かしい「市」を再現。人を集める事が目的ではなく、また、当日に「モノ」を売るのも目的ではない。 ヨルイチ以外の364日の経営のために、毎年テーマを決めてヨルイチは開催されている。



神奈川県横浜市

20 鶴見銀座商店街

D 30

●多彩なイベントで地域住民を巻き込みにぎわい創出

約10年の歳月をかけ、イベント事業を軸としたスタッフの育成と仕組みづくりを進める。この結果、少人数・短時間で企画する毎月のユニークなイベントで毎回多数のお客さんを集める。子供達が商店街活動に関わることで地域への愛着が増し、商店街が身近な存在となっている。



-ケード改築中の上古町商店街」

新潟県 新潟市

古町商店街

●街なかサロン、まちづくり情報拠点など地域コミュニティと空き店舗解消に取り組む

上古町商店街振興組合は、2006年3月、4つの商店会が一つになって発足。組合は、振興とい うより街づくりの性格及びソフト面の独自性が強い。特に空き店舗対策では、入居希望者、不動産 業者、家主の間に入り調整。家賃相場の安さや歴史を背景にした商店街全体のブランド力で入居希 望者は待ちの状態。全店舗の35%が若者の店。



「城下町高田花ロード」

新潟県 上越市

田本町商店街

●商店街を舞台とした「城下町高田花ロード」の開催

花いっぱいの城下町の再現を目指し、花をモチーフにした作品を公募し、商店街の軒先や基盤状の 道筋をその花の作品で飾るイベントを実施。地域のコミュニケーションの広がりを獲得し、人が花 を結び、花が人を結ぶ上越市の秋を彩るイベントとして定着。



富山県 富山市

折凹商店街

P45

●商店街の真ん中に生まれた障害者就労支援の場

全国的に有名な「おわら風の盆」期間以外のにぎわい創出が課題。このため、障害者の経済的基盤 づくりを考えていた社会福祉法人と商店街が連携し、空き店舗を活用したコミュニティ施設「工房 風のたより」(街なかの障害者就労支援の場)、観光物産館「風の館なりひら」、定期市「なりひら 風の市」で通年のにぎわいを創出。

「カラフルなテントが立ち並ぶ " なりひら風の市 "」



「最新クラフトショップ "D. front"」

富山県 高岡市

市中心商店街(末広開発株式会社)

●高岡版家守事業で空き店舗再生

まちづくり会社が、高岡市、高岡商工会議所と連携し、高岡版家守事業(大家に代わり入居者の誘 致や育成、マネジメントを行う)で空き店舗の再生に取り組む。本格的な空き店舗再生事業である 高岡版家守事業の第一弾として、高岡のものづくり文化を反映した、国内外で評価の高い最新のク ラフトを扱うアンテナショップをオープン。



「近江町再開発事業 完成間近」

石川県 金沢市

武蔵地区商店街

●武蔵に四つ葉を育て、りっぱな花を咲かせよう

近江町再開発事業(近江町「いちば館」など)、広場や通路等のハード整備を契機として、近隣の マンション新住民を新たに呼び込んだり、更なる活性化を図るため、地域ぐるみで組織(「武蔵に ぎわいラボ」)を立ち上げるなど、にぎわいの創出、再生へ取り組んでいる。



「山中温泉南町ゆげ街道」

石川県 加賀市

26 川山温泉南町ゆげ待

P51

●観光・漆器産業との協調による、歴史と文化に出会えるまちづくり

地域の観光資源である温泉と漆器産業との協調により、山中漆器を中心に一店舗2業種事業(例えば、「山中漆器と加賀漬物」、「オルゴールと山中漆器」など)を展開し、個店の経営努力で魅力の向上、地域の魅力発信に積極的に取り組む商店街。



福井県 小浜市

27 小浜駅通り商店街

P53

●話題性を活かした多彩な活動による商店街の活性化

「市民参加で、人の集まる商店街を!」を合言葉に、多彩な活動(旅館を改装した商店街活動拠点「はまかぜプラザ」、社会福祉協議会や医療専門学校生と連携したイベント「やさしさいっぱい!まちなか夢通り」、期間限定みやげ物屋「若狭屋」・・)を展開し、商店街の活性化に取り組む。



「壱の市で賑わう様子」

福井県 越前市

28 越前市まちなか商店街

P 55

●4つの商店街の連携によるまちなかの活性化

「蔵の辻」周辺の4つの商店街が「まちなか商店街」を結成し、昭和浪漫をテーマとして定期的に 開催され、賑わっているイベント「壱の市」と連携して来街者が商店街を回遊する事業(無料休憩所、 まちなかサロンの開設など)を実施。また、観光客等に地元の情報を発信する「まちなかプラザ」 の運営にも協力。



「身延駅前しょうにん通り商店街の様子」

山梨県 身延町

29 身延駅前しょうにん通り商店街 P57

●「平成の古都」と名付けられた美しい和風の街並み

「平成の古都」と名付けられた美しい和風の街並み。個人的な利害よりも街の将来像を優先させようという住民の思い(統一した街並みの形成を目指し、住民どうしの紳士協定として「和風」をコンセプトに10項目の建築申し合わせ)が、街づくりを成功させ、商店街の活性化に結びついた。



「つれてってカード」

長野県

駒ヶ根市/飯島町/中川村

30 駒ヶ根市周辺3市町村内商店街(つれてってカード) P59

●全国初、商店街カードと行政・金融が連携し地域貢献

全国初、商店街カードと行政・金融と連携して地域貢献。ICカードによる電子マネーからスタートし、住基カードとの連携で商業振興から地域貢献に寄与。地域を越えたカード展開で消費者への利便を追求。さらに、近接する伊那市で同様に展開する「い~なちゃんカード」とも利用提携開始。伊南4市町村全てで利用者がどのカードでも共通ポイント・プリペイドサービスが享受可能となった。



「新たに開設された岩村田寺子屋塾」

長野県 佐久市

ハわむら だ ほんまち 讨田本町商店街

P61

●地域住民の利益が優先、地域密着顧客創造型商店街づくり

「手作り・手仕事・技の街。地域と共存し、共に生き、働き、暮らす街をつくる」をコンセプトに、 商店の利益より地域住民の利益を考えた地域密着顧客創造型商店街。最近では、子育て支援と空き 店舗活用の一環として、地元の学習塾に運営を委託し、「自主学習ができる子供を育てる」をコン セプトに「岩村田寺子屋塾」を開校。地域貢献に積極的に取り組む。



岐阜県 岐阜市

新生! ~「大衆演劇の街」に一新へ~

商店街の活性化を担うキーパーソンが率いる広域商店街。新たな組織体制の構築(5つの委員会に よる役割分担と責任の明確化)や個店の魅力向上 (有料参加による実践セミナーの開催) などに次々 と着手。新生柳ヶ瀬を目指し、大衆演芸場「豊富座」を核に商店街の活性化を目指す。



「まちひとぷら座かんかこかん」

岐阜県 高山市

山市中心商店街

P65

●「まちひとぷら座かんかこかん」が、市民の交流の場に

「まちひとぷら座かんかこかん」は、連合会が行政・NPO団体や市民グループと協力して運営する ことにより、子育て支援や情報発信、交流の場として定着しており、また、買い物客や観光時にお ける児童の一時預かりといった各種コミュニティビジネスの試みがなされるなど、まちのコミュニ ティ機能を担う、商店街の新たな取組として実績をあげている。



「高校生のチャレンジショップ"吉商本舗"」

静岡県 富士市

「原商店街 (NPO法人東海道・吉原宿 P67

●全国的にも有名な高校生のチャレンジショップがある商店街

「チャレンジショップ・吉商本舗」、地元商業高校商業ビジネス部と NPO 法人の協働で運営する常 設店舗は、全国的にも高校生チャレンジショップのトップ・ランナー。高校生が商店街で部活動と して " 駄菓子屋 " を運営、多くの若者が多様な主体として街を盛り上げている。また、高校生に職 業観を育成するために販売実習やオリジナル商品開発等の講義も担当する。



愛知県 名古屋市

●学生や福祉団体等と連携した地域に根ざした「縁側的な商店街づくり」

大学や地域団体との連携により、地域に根ざした "縁側的"な商店街づくりを目指す。地域コミュ ニティ機能の担い手とのして役割を果たすとともに、シンボルマーク(さくらっぴー)の作成・活用、 「さくらやまーけっと」などにより商店街のブランド化を図る。

「リニューアルオープンした"さくらやまーけっと"」



愛知県 一宮市

36 一宮市本町商店街

P7'

●「やろまい!」からの街づくり~空き店舗を埋めよまい~

商店街活性化を目指し、商業者自らが空き店舗解消のために活動、魅力ある店舗(「鉄道模型カフェ 浪漫」)や施設(「ほんまちサンプラザ」(ボックスショップ)、「ちゃらん家」(コミュティハウス)、「本 町たいよう保育園」(24時間子育て支援施設))が次々と開設。新たなコミュニティを創出している。

「空き店舗を活用したコミュニティーハウス ちゃらん家」



「農家が直接販売を行う八日朝市」

愛知県 豊田市

37 桜町本通り商店街

P73

●「八日朝市」で賑わい創出、景観整備で来街者にやさしい「歩いて楽しい」街づくり 地産地消にこだわった「八日朝市」で賑わいを創出、桜のデザインをあしらった統一ファサードや 商店街名の入った統一看板、統一ロゴ、タペストリー設置など、徹底した景観整備で、歩いて楽し い街づくりを目指した取組を行っている。



「こども四日市の様子」

三重県 四日市市

38 四日市諏訪西商店街

P 75

●四日市商店街から「夢」、「好奇心」、「遊び」の世界へ

子供に経済概念を学ばせ生きた勉強ができる「こども四日市」により社会体験の場を創出し、商店街が地域コミュニティの役割を担うとともに、商店街活動に参加しにくい夜の飲食店が一丸となって「はしご酒スタンプラリー」の実施による顧客確保・個店の利益につながるよう工夫した、話題を呼ぶ、特徴的な取組を行っている。



「ふくふくまつりの様子」

三重県 伊勢市

39 伊勢高柳商店街

P77

●「ユニバーサルデザインのまちづくり宣言」で、福祉に取り組む商店街

「ユニバーサル・デザインのまちづくり宣言」をきっかけに、福祉に取り組む商店街。社会的弱者にやさしい商店街を目指し、地域住民の福祉への理解を広げつつ、福祉事業 (バリアフリー化、「ふくふくまつり」、「ふくふくカード」等) に重点的に取り組んでいる。



-「古民家を活用した喫茶ギャラリー」

滋賀県多賀町

40 多賀門前町商店街

P79

●神様の住まうまち~地域資源と学生を活用した地産地消のまちづくり~

地域資源「歴史文化(多賀大社の門前町)」、「古民家」、「多賀そば」そして「学生との連携」、「農商工連携」など地産地消のまちづくりに取り組む。「笑う門には副来たり」の意味を込めた「笑門」を商標登録し、地域の魅力を発信している。



「おこしやす sanjo ねこバック(エコバック)」

京都府 京都市

4 京都三条会商店街

P81

●地域に支持される商店街未加入ゼロの商店街

スタンプ事業(リボンスタンプ)を柱に、地域の買い物客の取り込みで地域の支持される商店会未加入ゼロの商店街(平成19年には、商店街の加入店舗100%達成)。リボンスタンプのポイントと交換入手できるエコバック(おこしやす Sanjo ねこバック)など作成し、「環境にやさしい商店街」を目指す。また、地元の大学等と連携した子育て支援にも取り組む。



京都府 京都市

42 伏見大手筋商店街

P83

P85

●子育てステーション「ぱおぱおの家」開設、地域コミュニティと商店街の活性化 空き店舗を活用して、地域子育てステーション「ぱおぱおの家」を開設し、地域の若い親同士が気軽に集える場を提供。地元大学と連携し地域コミュニティの核施設「コスモス」を開設し、商店街の賑わいの創出と地域コミュニティの構築に寄与。



「長屋を改装した商業施設『惣(そう)』」

大阪府 大阪市

43 空堀地区商店街(からほり倶楽部)

●老朽化した長屋の再生をとおして、まちの魅力を再発見

大阪市の中心部にある空堀商店街界隈に残る古い長屋や町家を、チャレンジショップなどが入居する商業施設などに再生することをとおして、地域住民の「まちに対する誇り」を喚起し、まちを活性化している。また、アーティストが街中に作品を展示するイベント「からほりまちアート」を毎年開催し、多くの来街者を惹きつけている。



「千日前道具屋筋商店街の様子」

大阪府 大阪市

44 千日前道具屋筋商店街

●大阪の賑わい創造の主役として、大阪の文化・楽しさ・夢を売る商店街 大阪の賑わいの主役として、大阪の文化・楽しさ・夢を売る商店街。「道具屋筋ならでは・・・」 の特徴を活かし、大阪の「笑い」、「食」、「商い」という3つの文化を学べる「大阪商い体験」を実施、 地域の活性化、賑わいづくりに貢献。特に、「商い」では、商店街講座、あきんど・丁稚体験、実 演販売体験などさまざまな体験学習を通じて、大阪商人魂を学べる。



「サンロード瓢箪山の入口アーチ」

大阪府 東大阪市

45 スマイル瓢箪山

P89

●地元密着!地域住民とともに歩む商店街

4つの商店街等の組織からなる連合体「スマイル瓢箪山」が、地元の大学と連携して商店街を舞台にこどもたちが活躍できる場(「瓢箪山探検隊」、「瓢箪山ちびっこみこし」)を創出したり、また高齢者向け宅配便事業や「ひょうたんから逸品」事業を実施するなど、地域住民に愛される、地域に密着した商店街を目指す。



兵庫県 神戸市

46 新長田地区商店街

P9'

●「大人が3時間楽しめる街」を目指したまちづくり

「大人が3時間楽しめる街」を目指したまちづくりを展開中。震災による壊滅的な被害から、商業者自ら掘り起こした地域資源(「ぼっかけ」、「鉄人28号」など)の活用により、まちの魅力を発見・創造・発信してまちを活性化。

「世界一巨大なアニメキャラクターオブジェ"鉄人28号"がこの夏完成」



「これがカバンの自動販売機!」

兵庫県 豊岡市

47 宵田商店街

P93

●地元の特産品である「かばん」をアイテムとした商店街活性化

豊岡の地域資源である"かばん"をアイテムとした商店街を活性化! 商店街を「カバンストリート」と位置付け、商店街の若手で検討・開設したギャラリー「カバンステーション」を核に、"かばん産地豊岡"の情報発信。そのほか、自動販売機でオリジナルのかばんを販売するなど、他に例を見ない活動も行っている。



「フレッシュマートオーケストの様子」

奈良県 奈良市

48 奈良もちいどのセンター街 PS

●商業インキュベーター施設などの拠点整備により、まちの賑わいに貢献 歴史が、 西等くび、ストラー施設などの拠点を備により、 まりの賑わいに貢献

商店街が、商業インキュベーター施設(「もちいどの夢 CUBE」)を開設したり、地元に不足していた食品系スーパーを大型空き店舗を活用し誘致(「フレッシュマートオーケスト」)することにより、商店街を活性化。商店街の通行量が3割増加。



「地元の大学生が実施する " 青空市 " で 賑わう天理本通商店街」

奈良県 天理市

49 天理本通商店街

P97

●「年中夢中! てんりストリート」でまちづくり

地元の大学と連携し、商店街の賑わいづくりの拠点として空き店舗を活用して「てんだりーcolors」を開設。商店街マップの作成やイベント企画・実施、大学のサテライト講義を行うなど、商店街に若い力を取り込み活性化を目指す。また、「中心商業活性化実行委員会」は、商店街と地元大学が初めて連携した取組で、商店主らとの意見交換により新たな雰囲気が作られつつある。



「教育助成券を付与したポイントカード " イルカカード "」

和歌山県 田辺市

並加工的 商店街

pga

●「安全・安心、歴史と伝統ある商店街」を地域住民や若い経営者に継承

「安全で安心な街、歴史と伝統のある商店街」を地域住民や若い経営者に残すため、商店街が連携して取り組む。今年のテーマを「個店、商店街のファンづくりと商いは心から」として、商店街が連動して活動。また、ポイントカード(イルカカード)による販促事業に、教育振興の目的とカードの利用促進を図るため、「教育助成券」を追加した。



「シロウオ祭りの風景」

和歌山県 湯浅町

ゆ あさちょうない

51 湯浅町内商店街(湯浅町TMO) P101

●住民との協働による、身の丈にあった手作りのまちづくり

商店街・自治体と地元街並み研究会、和歌山大学等が連携し町並みの景観整備に努め、平成18年に、 北町・中町・鍛治町の町並みが重要伝統的建造物群保存地区の選定を受ける。これらの地域資源を 活かしながら、伝統的なシロウオ漁の復活、回遊マップの作成、語り部育成など地域住民との協働 による身の丈にあった手作りの町づくりを実践。



「第1回DARAZトライアスロン世界大会」

鳥取県 米子市

52 元町通り商店街・本通り商店街 P103

●「市」と「K | HACH | 祭り」で、商店街に賑わいを

おかみさんパワー(「プロジェクト米子」)とDARAZ精神(独創性・チャレンジ精神)で商店街を舞台に、商店街を元気にする「市」(戸板市)や「祭り」(KIHACHI祭り)を開催。地域の魅力を発信し、多くの出店者と来街者を集め、賑わいが回復。



「福の神に会えるまちづくりを推進する"あきない中心倉"の会長」

鳥取県 倉吉市

53 本町通商店街(あきない中心倉) P105

●福の神にあえる街「あきない中心倉」

賑わいの回復を目指し、地元の商店主グループが「あきない中心倉」を設立。周辺地域の歴史や文化を掘り起こし、地域資源として再生・活用。「福の神に会える街づくり」を推進し、それぞれの店舗に木彫りの「福の神」を設置、福の神に関連した事業を展開し、地域の魅力を発信。観光客の誘客と商店街の活性化に取り組む。



「老舗旅館を改装した " 蓬莱荘 "」

島根県松江市

54 松江まちづくり株式会社 P107

●松江の歴史と文化を感じさせるまちづくり

昭和初期の趣を残した和風旅館(蓬莱荘)をリニューアルして、松江の食文化の情報を発信する新たな観光スポットとして再整備。レトロな空間として松江文化(茶・食)の発信地への転換を図り、新たなまちの魅力で商店街の活性化を図る。



「七夕フェスタの様子」

島根県 浜田市

55 紺屋町商店街

P 109

●人に優しい対話のある街を目指して~空き店舗がなくなった~

地域住民の声を反映し「人にやさしい対話のある街」を商店街のコンセプトに、環境整備(レトロ街路灯、商店街の美化、さわやかトイレの整備)、通年を通したイベントの開催、高齢者向け宅配サービスなど各種の事業を重ね、商店街の知名度、認知度向上。この結果、空き店舗がなくなった。



「表町商店街の様子」

岡山県 岡山市

56 表町商店街

P111

●商店街の個性発揮と大型店との連携で商店街を活性化

八力町の各商店街が独自のイベント事業や協同事業に取り組むだけでなく、商店街周辺の大型店を 巻き込んで、イベント情報の相互広告掲載や協同販促事業などの連携事業を実施して、地域が一丸 となって商業の活性化に取り組む。



「全日本ビールフェスタ in 津山の様子」

岡山県 津山市

梦 津山市内6商店街

P113

●できることからコツコツイベント

地元の関係者を巻き込んだ身の丈にあったイベント(全日本地ビールフェスタ、ガレージセール、 津山一店逸品運動など)を継続的に実施し、身の丈を大きくしていく「にぎわい商人隊」の積極的 な活動により、賑わいの創出に貢献。



「さんさん土曜市の様子」

広島県 三原市

58 三原帝人通り商店街

P 115

●福祉のまちへ生まれ変わろうとするバリアフリー商店街

郵便局跡地への社会福祉施設(ケアハウス)の進出をきっかけに医療関係施設が立地。さらに、空き店舗を活用した子育で支援施設も開設し、高齢者から子供まであらゆる世代が集う、地域コミュニティとしての商店街。



「風季舎 昌平本家 (空き店舗活用事例)」

広島県 三次市

59 三次太涌商店往

P117

●歴史・文化・自然をテーマにまちづくりを推進

歴史・文化・自然をテーマに「三次町歴みち協議会」を中心に町ぐるみで活性化に取り組む。「いにしえの里三次物の怪(もののけ)・でこ街道」として街並みを整備。5年間で空き店舗を活用して13店舗がオープン。今まで商店街になかった業種や購買層をターゲットにした店舗が開店。



「デニムDEどうもんデザインコンテストの様子」

山口県 山口市

60 山口道場門前商店街

D119

●市民との生活共同体への転換を目指す商店街

平成19年建設の"どうもんパーク"は、日々の生活に不自由させない市民のマチづくり拠点であり、屋上芝生広場には藤棚や砂場、子供の遊び場、また植樹や植栽が用意されている。販促事業である「デニムDEどうもんデザインコンテスト」は、商品づくりをとおして消費者の嗜好を探る市民との共同作業である。



「地物の農産物直売所 "萩の台所とれたて市場たまち"」

山口県 萩市

61 田町商店街

P 121

●地産地消の取り組みで観光誘客を展開

地産地消の取り組みで観光客誘致を展開。萩市内の農家から直接仕入れた野菜などを直売する農産物直売所「萩の台所とれたて市場たまち」や萩沖で捕れた魚や萩の地酒などを味わうことのできるレストラン「農家レストラン&居酒屋天蔵」により、商店街の賑わい創出と市民や観光客の交流の場として定着。



「買い物客で賑わう"徳島わくわく日曜市"、 行列のできた鱧入り"とくしまバーガー"」

徳島県 徳島市

62 徳島市中心部商店街(紺屋町歩道における朝市・日曜市実行委員会)

●中心市街地での朝市開催でにぎわい再生を目指す

何度も企画されたが実現に至らなかった朝市の開催について、県、市、関係者を巻き込んだ実行委員会を組織。中心部商店街 (紺屋町通り) の歩道で日曜朝市を開催、空洞化しつつある中心市街地で地産地消、観光振興、商店街活性化を図っている。

阿讃ええもんや



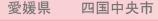
「空き店舗を活用し、新鮮野菜、お総菜、 民芸加工品を販売する"阿讃ええもんや"」

香川県 高松市

63 常磐町•南新町•田町商店街 P125

●高松南部の中心商店街からも目が離せない

大型店舗の徹退等により空き店舗が4割となった高松南部の商店街の活性化を目指し、まちづくり メンバー、地元アーティストが商店街、琴電、高松天満屋、香川大学などと連携・強力し、ソフト 事業 (4町パティオの整備、阿讃ええもん屋、アート系イベントなど)を中心にまちの活性化に取 り組んでいる。





64 川之江栄町商店街

P 127

●お年寄りからお子さんまで、多世代が集まる商店街

空き店舗を活用し、多世代が和気あいあいと交流交流できる賑わい空間を整備。高齢者向け施設と 子育て施設が合体した施設(「みんなの広場四国中央ドットコム」)は全国的にも珍しい取組。

「四国中央ドットコムで行われているシニア・パソコン教室」



高知県 高知市

D 190

●商店街のカラーを打ち出した「商店街統一販促活動」の推進と実現

商店街独自のカラーを打ち出すべく「商店街統一販促活動」を推進。学校・町内会・行政・関係団体はもとより、組合員である地元大型量販店と協力・連携して、お客様感謝デー「クマーマの日」並びに「スタンプラリー」などに取り組んでいる。

「万々商店街イメージ・キャラクター"クマーマ"」



高知県 四万十市

66 四方十市6商店街(女性部) P131

●おかみさんの元気が商店街を元気に

四万十市6商店街のおかみさんが垣根を越えて結束。四万十のオリジナル商品の開発(玉姫様の小箱、美人のお守りなど)や買物情報の発信など商店街の活性化に向けた活動を展開。

「それぞれのお店の手作りおすすめ品を詰めた"玉姫様の小箱"」



「市民の「学ぶ力」と「考える力」そして 「教える力」を育む六ッ門大学」

福岡県 久留米市

67 六少門商店街

P 133

●人が「集まる」コミュニティ創り

誰もが安心して出かけることができる商店街。「街なか」ならではのゆっくりとした時の流れを楽しめる、人にやさしい街づくりをめざす。六角堂広場の集客力を軸に六ツ門大学やタウンモビリティなどの連携事業により、商店街に新たな人の流れが生まれ、商業者の自主的な取組の中、市民・大学・NPO法人などの様々なネットワークによるコミュニティ形成が図られている。



一店逸品納品会の様子」

佐賀県 大町町

68 大町商店街

P135

●大町町から一店逸品で元気発信

高齢者率30%の町。高齢者にやさしい商店街を目指すとともに、商店街の魅力向上を図るため、 意慾あるメンバー同士が消費者の視点で互いに意見を交わしながら「一店逸品運動」に取り組み、「大 町版逸品がばいよか」サイトにより地域の魅力を発信している。



長崎県 長崎市

69 長崎浜んまち商店街

P137

●銀聯(ぎんれん)カード導入など国際観光文化都市の再生

長崎とゆかりの深い中国からの観光客を呼び込むため、中国色豊かなイベント(ランタンフェスティバル)や「銀聯(ぎんれん)カード」対応の端末機を商店街全体で導入し、商店街の活性化と国際観光文化都市の再生に取り組んでいる。

「中国人観光客向け"銀聯(ぎんれん)カード"に対応した端末機」



「対馬市交流センター」

長崎県 対馬市

💯 対馬市交流センター

D130

●市街地再開発事業で「国境の島」を活性化

(株) まちづくり厳原が運営する「対馬市交流センター」は、地域住民のショッピングセンターと市民交流の場である公共施設を一体的に整備。また、韓国などの外国人観光客支援センターも設置し、観光客の誘致にも取り組んでいる。



熊本県 熊本市

P 141

●少子高齢化に対応した医商連携型まちづくりの実現

少子高齢化に対応した医商連携型まちづくりを推進。「人にやさしく、地域に愛されるショッピングモール」を基本コンセプトとし、誰もが不自由なく買物ができる(タクシー宅配事業・電動スクーター貸出し・医療機関マップなど)次世代型まちづくりを推進。

「タクシー宅配を利用する人は一日40人から50人を超える」



中心街の集客プログラム「夜の竹瓦路地裏散策」

大分県 別府市

72 別府市中心部8商店街 (NPO法人ハットウ・オンパク) P143

●点(店)から線(散策)そして面へ、参加交流型プログラムで活性化新展開

点(店)から線(散策)そして面へ、参加交流型プログラムで地域の活性化。再生途上にある別府温泉の中心街で、温泉(地域資源)を活用して、商店・飲食店・旅館ホテル・医院などのやる気のある事業主が連携して参加交流型のプログラムを企画・実施。この「オンパク・モデル」は、全国の中心街活性化手法として注目され、10地域に移植されている。



「毎週月曜日朝8:00から行われる 早朝ミーティング」

宮崎県 宮崎市

73 宮崎市内商店街 (Do まんなかモール委員会) P145

●若手の情熱が繋ぐDOまんなかコミュニティ

宮崎市の中心市街地を維持、再生、発展させるため周辺の7商店街、5大型店の代表から構成される「Doまんなかモール委員会」は、各種の「活性化イベント事業」を通して組織の強化、販売促進、そして様々な人々が集う「Doまんなかコミュニティ」の形成を目指し、商店街の活性化に繋げている。



「賑わいをみせる軽トラ市」

宮崎県 川南町

79 トロントロン商店街

P147

●定期朝市「トロントロン軽トラ市」

中心市街地を活用し、軽トラックの荷台及び軽ワゴンの室内を店舗に、「トロントロン軽トラ市」を開催。農産物や海産物、特産品の販売を実施し、地域の魅力を発信し、商店街の賑わいの回復を図っている。



鹿児島県 鹿児島市

75 宇宿商店往

D 140

●地域を巻き込む特徴ある企画をつぎつぎと実現させる小さな商店街の果敢な挑戦

連携をキーワードに全国商店街連携物産展、市電沿線商店街連携ツアー、大学との協働事業や2坪 チャレンジショップ開設など地域密着型の企画を次々と展開。地域住民と一緒になって事業を実施 することにより小さな商店街でも量販店に負けない戦いができることを実証している。

「提携する全国各地の商店街がお勧めの逸品を展示・ 販売する全国商店街連携物産展の様子」



「コザBOX」

沖縄県沖縄市

76 一番街商店街

P151

●商店街交流ひろば コザBOX

「商店街交流ひろば コザBOX」を設置、トイレ休憩スペースの整備と交流拠点の整備により、こどもたちとの協働でコミュニティの回復が図られつつある。



「銀天街まつりの様子」

沖縄県 沖縄市

3 銀天街商店街

P 153

●食とアートと交流でまちづり

「食とアートと交流のまちづくり」を目指し、従来の惣菜を中心とした地域の台所としての機能に加え、若者やアーティストによるユニークな活性化に取り組むなど、独自の商店街再生を図りつつある。大型店にはない「まちぐゎ~」(市場)の雰囲気が注目を集める。

「楽育&寿」2つのコミュニティと ゆるキャラで商店街活性化

? ここがポイント

多機能コミュニティスペース「いわない楽座」は、様々な世代と『たら丸』が 集うハイブリッドな空間。



コミュニティスペース「いわない楽座」

【取り組みの背景】

岩内町は後志沿岸地域の中心都市として、漁業や水産加工業を基幹産業として発展してきた。

しかしながらこれら産業の衰退や人口減少・少 子高齢化に加え、郊外型大型店等の進出により地 元商店街や飲食店街は著しく疲弊し、空き店舗の 増加、賑わいの低下から、旧型の商店街における 消費動向は下降の一途を辿っていた。

このような危機的状況の中、「賑わい溢れる商店街」に向けて進もうとする機運が生まれ、各商店街ではポイントカード(たら丸満点カード)事業の普及、継続的な独自イベントの開催、空き店舗対策事業の展開など、様々な取組を実施してきた。

【取り組みの概要・経過】

「いわない楽座」は平成16年、名店街商店街の空き店舗にアンテナショップとして開設し町民に親しまれてきた。

その後、更なる機能拡大を目指し、平成18年 6月に、より広いスペースを持つ現在の店舗に移 転リニューアルした。

リニューアルに伴い、たら丸満点カードの常設 商品交換所、町の地域資源である岩内海洋深層水 のアンテナショップ、町のイメージキャラクター 「たら丸」を活用したオリジナル商品の開発・販 売拠点、高齢者向けコミュニティスペースを設け、 多機能施設として広く町民に利用されるように なった。

さらに平成20年、利用者層の拡大と利便性の向上を目指し、地域ぐるみでお年寄りや子育て世代のお母さん達をフォローし、世代を越えた交流空間を提供するため、1階部分をお年寄り専用のコミュニティスペース「寿コミュニティ」とし、2階部分には子育て支援に特化したコミュニティスペース「楽育コミュニティ」を新たに開設した。

【取り組みの効果】

「いわない楽座」の来客数及び商店街における 通行量については着実に数値を伸ばしている。(月 平均来客数18年度1,485名、19年度1,717名、20年度1,748名)

また、駐車場の利便性が高く長時間のコミュニティ利用を可能にするとともに、周辺施設である病院・銀行・薬局など商店街全体への波及効果も広がった。

さらに「楽育コミュニティ」の新規オープンにより、新たな利用者層である子育て世代のお母さんと子供達の利用増加が顕著に現れている。

平成20年10月のオープンから21年2月末までの利用状況を見ると、子育でサークルや、仲良しグループによる利用や、地域住民の自主的な企画で開催された「1DAY SHOP」などイベントとしての利用により大人366名、子供342名の利用者を数え、従来まで希薄であった若年客層が商店街に新たな賑わいを創り出している。



「楽育コミュニティ」

【今後の課題など】

コミュニティ利用者の増加、ポイントカードの 交換件数の増加、オリジナルグッズの順調な伸び 等により、売上は徐々に増加の傾向にあるものの、 今後の事業継続にあたっては、補助事業終了後の 経費の捻出が大きな課題である。

【岩内町名店街協同組合】

所在地:北海道岩内町

会員数:56名 店舗数:58店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www002.upp.so-net.ne.jp/ taramaru/rakuza/index.htm

【この商店街にこの人あり】

橋本 英一(名店街協同組合 理事) 商店街の様々な取組のキーマンで、観光協会、ポイントカード会、商工会議所等、町内外に数多くのネットワークを持つ。橋本理事を中心に「たら丸塾」を創設し、地域資源の掘り起こしを行い、地域情報をまとめた小冊子「タラマルペディア」を作成。商店街の垣根を越え、異業種間の新たなネットワークを構築中。

【うちの商店街、ここが自慢】

いわない楽座オリジナル商品の核を担うのは、「ゆるキャラ日本一決定戦」(TVチャンピオン)で準優勝して以来、その人気に 火が付いた町のマスコットキャラクター「たら丸」の関連グッズ。全国各地から問い合わせが殺到し、その人気の高さが窺える。 当商店街の洋品店主がデザインを手掛けた事から、たら丸生みの親の商店街として、数多くのグッズを開発中。



「たら丸」

コンパクト化でよみがえった 「鉄のまち」の商店街



商店街が中心となって、コンパクトに再編した輪西のお茶の間作りを推進。複合商業施設を軸に様々な交流が生まれ、「鉄のまち」を支える商店街が復活。



「ぷらっと。てついち」

【取り組みの背景】

室蘭市輪西地区は、「鉄のまち」として高度経済成長に乗って繁栄したが、昭和50年頃鉄鋼産業の構造不況により市内で最も人口が落ち込み、商店数も最盛期の半数以下となった。このため、まちと共に歩もうと決意した商業者を中心に地区の町内会、市、製鉄会社等も参加して「輪西活性化推進協議会」を組織し、対策に取り組み始めた。

【取り組みの概要・経過】

平成10年、同協議会では、まちの規模を現在の人口・年齢構成に合わせてコンパクトに再編し、地区のどこからでも訪れやすいまちの中心部に、安心して気持ち良く集える輪西のお茶の間をつくろうと「暮らしの広場」構想をまとめ、新たなまちづくりのスタート

を切った。

■複合商業施設「ぷらっと。てついち」

「暮らしの広場」第1弾として、製鉄会社所有地に 20年間の借地権を設定し、商店街有志が開発会社を 設立して再開発を実施、商業施設と市民会館を建設し た(市民会館は市に売却)。

平成13年10月に竣工した複合商業施設「ぷらっと。 てついち」は、床面積約3,000㎡で、地元スーパーを 核にレストラン、衣料品店など16店舗が入店するほか、 子育て支援施設、集会室といった施設も設置した。

子育て支援施設「ワニワニクラブ」は、子育て世代の主婦や子どもたちで日々賑わっており、商業者も、毎月「道民育児の日」(19日)には、特売・ポイントアップサービスを行い、子育て支援に取り組んでいる。

なお、併設する市民会館の運営も商店街メンバーが 設立したNPO法人が受託。利用率が高く商業施設の 集客に大きな効果を発揮している。

■グリーンモールの整備

「暮らしの広場」第2弾として、平成19年12月には、まちのシンボルロードの遊歩道の整備を行い、休憩スペースや水路、樹木等を整備すると共に、夜の華やかさを演出するイルミネーションを一新した。整備した水路は、浅い小川形式の"ジャブジャブ水路"とし、殺伐とした工業地域のイメージを刷新した緑づくりを行ったことから、夏場は子ども連れの親子や涼をとる

住民の憩いの場として、新たな交流が生まれ、賑わいを見せている。



グリーンモールのジャブジャブ水路

【取り組みの効果】

複合商業施設「ぷらっと。てついち」は、単なる商業施設としての機能だけではなく、地域のお茶の間として認知され、地域の市民活動も活発化し、まちが動き出した。子育て支援施設を運営する団体は、その活動が高く評価され、全国表彰で最高賞を受賞、さらに商店街二代目経営者らが中心となり「鉄」というまちの財産を生かしたまちおこしとして生まれたボルト人形"ボルタ"は、100種類を超え、約2年半で15万個を売り上げるまちのシンボルとなった。



「愛を告白するボルタ」など種類は 100 を超える

【今後の課題など】

「暮らしの広場」第3弾は地域の定住対策としての住まいの提供であり、高齢者にも子育て世代にも配慮した住宅の供給により、多世代にわたる居住人口の増加を目指し、商店街が中心となりワークショップや勉強会を重ねている。

【輪西商店街振興組合】

所在地:北海道室蘭市

会員数:73名 店舗数:70店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www.Kic1.com/wani/

【この商店街にこの人あり】

土田 昌司郎

(輪西商店街振興組合 理事長)

「とにかくやってみよう!」、輪西商店街を持ち前の行動力で引っ張る土田理事長がモットーとする言葉。社会が必要としているコンセプトにどう商店街として絡んでいけるかが、商店街の生き残り策であると考え、平成17年から「ノーレジ袋運動」に取り組み、協力者にはポイントカードに加算するエコポイント制を導入するなど、常に時代のニーズを捉え、行動する商店街を牽引している。

【うちの商店街、ここが自慢】

輪西商店街の自慢は、商店街活動の枠に留まらないまちづくりを担う豊富な人材。この人材を生み出す源として、輪西青年経営研究会の存在がある。研究会は、輪西の商業者の2代目や3代目らで構成された40歳定年の組織で、数多くの勉強会やイベント等の経験が、「まちが成り立たなければ、商売も成り立たない」という意識の醸成に繋がっており、また会長職が1年交代で、多くの会員が会長職を経験する仕組みから、若い世代のうちからリーダーシップやマネジメント能力を培っている。

消費者協会が商店街に新たな風を

? ここがポイント

消費者協会が商店街に新規出店。高齢者、観光客をターゲットに新たなコミュニティビジネスを展開。



白老消費者協会内のアンテナショップ

【取り組みの背景】

大町商店街は、JR 白老駅から白老町役場までの町道中央通り沿い約500 m の間に約90店の小売店、飲食店、事務所が並ぶ商店街であったが、昭和58年の国道のバイパス化により、商店街通りの交通量が激減して以降、店主の高齢化、人口減少、近隣への大型スーパーの進出、さらに近年は、通信販売の普及などにより空き店舗が増加している。一方、商店街背後の大町、高砂町、東町の住宅地域は、高齢化率が高く、高齢者が徒歩若しくは自転車で役場・郵便局・銀行・JR を利用できることに加えて、日用品の買い物ができる商店街を活性化することは、地域コミュニティの維持の面からも強く求められている。

また、白老町には様々な観光資源や特産品があり、観光客は年々増加傾向(19年度:前年度比2.3%増)にあるが、商店街には特産品を扱う店舗がな

いため、観光客が立ち寄らない状況にある。

そこで、NPO 白老消費者協会は、商店街の空き店舗を活用して「高齢者の生きがいづくり」や環境や消費者の視点に沿った「啓発活動」、特産品の販促や観光ツールとしての「地産地消の推進」、「食の安心安全」を観点に、行政と民間事業者との間に立つ中間支援組織として、当該エリアでのコミュニティビジネス活動を実践することとした。

【取り組みの概要・経過】

商店街の空き店舗が目立つ状況をうけ、大町商店街では、新たな集客の呼び水になるような空き店舗への出店者を求めていた。一方、白老消費者協会では、経済センター内の1室で消費生活についての普及啓発活動を行うとともに、白老駅構内で特産品の売店を運営していたが、消費者がより気軽に立ち寄れる活動場所を探していた。また、町では、空き店舗を活用した新たな出店をした場合の補助金を創設した(平成19年度)。こうした3者の想いが合致し、大町商店街の中の空き店舗に消費者協会が新たに出店し、「大町商店街賑わい再生事業」を立ち上げ、消費者相談等に加え次のような新たな事業展開を行った。

①[高齢者の憩いの場づくり] として、店舗の約 半分を自由にくつろげるスペースとして整備 し、同時に消費者被害防止等の情報を提供。

- ②町のアンテナショップとして、地場産物の委託 販売のほか、地場産物を使って新たな商品開発 をした白老町推奨「白老粋品(しらおいすいひ ん)」の販売、ネット販売に伴う梱包・発送業務。
- ③環境・リサイクル活動の普及と実践(古衣料の 販売、食用油の回収等)。
- ④観光拠点の1つとして、来町者に対し観光案内等の情報を発信。平成20年は8月~11月初旬まで観光協会の委託を受け「白老まちめぐりパス」の販売も実施。

【取り組みの効果】

これまで大町商店街には、野菜やリサイクル衣料などを販売する場所がなかったことから、消費者協会の店舗は地域住民に受け入れられ、利用者も増えつつある。また、"憩いのスペース"では毎日10時~15時まで接客にあたる者がいることもあり、くつろぎそのものを目的として訪れる高齢者の姿も見られるようになってきた。

産地表示した野菜をはじめ、安心・安全な地場産物を奨めることができ、特に山菜・きのこや新鮮野菜は人気で、その保存方法やレシピなども提供していることから、予約をしていく人もいるほどである。

また、これまで単独開催していた「消費生活展」 を商店街の「げんき市」(年4回)と同時に開催 した相乗効果により商店街は多くの人で賑った。

【今後の課題など】

女性の利用に加え男性の利用につながるような"憩いのスペース"での企画が必要。また、取扱商品の拡充等、より集客につながる物販のあり方も課題。

【白老大町商店街

(NPO 白老消費者協会)]

所在地:北海道白老町

会員数:34名 店舗数:34店舗

商店街の類型:近隣型商店街





改装後の空き店舗の外観と中の様子

【この商店街にこの人あり】

牧野 正典

(NPO白老消費者協会 理事長)

白老消費者協会は道内77市町にある消費者協会の中で初めて NPO を取得し、且つ店舗の運営をしており、他協会から注目を集めている。これらの取組は、発想力と行動力を兼ねそなえた牧野氏が理事長に就任してから実現され、信頼度100%のリーダーである。

平成20年には、財団法人アイヌ民族博物館の館長にも就任し、観光との連携事業も 今後ますます期待できる。

【うちの商店街、ここが自慢】

白老町といえば、「食材王国しらおい」というキャッチフレーズがあるほど食材豊かなまち。特に「白老牛」「虎杖浜たらこ」は有名。観光協会が主体となりご当地グルメを展開している。大町商店街には、1年3ヶ月で約6万食を売り上げた「白老バーガー&ベーグル」の参加店が3店舗、今年新たに販売開始した「白老シーフードカレー」参加店が2店舗あり、商店街の来客数増加に貢献している。

資源リサイクルを構築・ 運営している商店街!!

? ここがポイント

商店街振興組合の有志組合員(個店)が「弘前土手町商店街古紙リサイクルシステム協議会」を組織し、参加個店の連携のもと、可燃ごみとして排出していたダンボールや新聞紙、雑誌などの紙類を分別し、資源として回収する「古紙リサイクルシステム」を構築・運営。



古紙のリサイクルに取り組む下土手町商店街

【取り組みの背景】

青森県で行っている「青森県循環型社会推進地域連携ネットワーク構築事業」を活用して、街区単位で連携してごみの減量、リサイクルの推進に取り組む検討を開始したことがきっかけ。

【取り組みの概要・経過】

弘前市の中心市街地である下土手町商店街では、商店街振興組合の有志組合員(個店)が「弘前土手町商店街古紙リサイクルシステム協議会」を組織し、参加個店の連携のもと、可燃ごみとして排出していたダンボールや新聞紙、雑誌などの

紙類を分別し、資源として回収する「古紙リサイクルシステム」を構築・運営している。

このシステムの構築・運営により、ごみとして出されていたものが資源として活用されることになり、ごみの減量やリサイクルが進んだほか、隣接商店街にも波及し、さらには新たな環境保全の取組に向けての気運が高まっている。商店街の各個店が連携して資源として回収することで、ごみの処理費用が軽減されるだけでなく、微々たるものながら古紙の売却益が入るということで、弘前下土手町商店街振興組合の有志組合員や弘前市内の製紙原料問屋などがメンバーになって、協議会が設立された。現在は、18の個店が参加している。



【取り組みの効果】

古紙リサイクルにより可燃ごみの量が減り、個店によっては、ごみ処理に要する経費が月1万5~6千円程度節約できた。また、各個店ともに水道料、光熱費などの節約につながったことも大きな成果といえる。

【今後の課題など】

弘前下土手町商店街の取組が隣の中土手町商店街にも波及。同じような古紙リサイクルシステムが構築されたほか、地域を超えてこの事業の趣旨に共感し参加している事業所も見えはじめている。

下土手町商店街の中でも、飲食店については 紙ごみが少ないため古紙リサイクルシステムへ の参加は難しいが、食品ごみについては、堆肥 化などのリサイクルの方向で話が進んでいる。

今後は、古紙回収システムの構築を機に、マイタンブラー、マイ箸、エコバックなど多様な環境保全の取組を活用した事業を進める気運が高まっている。

また、環境対策にもなるバリアフリーを意識 したレンタルカートや、シュッピングコンシェ ルジュ、買い物代行、宅配などの総合サービスや、 空きスペースを使い買い物送迎バス事業と上記 の総合サービスステーションを連動し、交通弱 者や高齢者を中心に市民に優しい商店街の事業 案について検討中である。

【下土手町商店街】

所在地:青森県弘前市土手町22

会員数:55名 店舗数:35店舗

URL: http://www.sitadote/or/jp/

【この商店街にこの人あり】



菊池 清二 (弘前土手町商店街振興組合 理事長) TEL:0172-33-5369 FAX:0172-33-7934

【活動内容】

初夢富くじ抽選会 よさこい津軽 カルチュアロード 共通フラッグ事業 Do スタンプ事業への参画 ファッション甲子園事業への参画 ホームページ運営

【うちの商店街、ここが自慢】

弘前城から南下する参勤交代の街道、商人 が軒を連ねる歴史のある商店街。

美術館と住民が連携し、まちなか アートでにぎわいあふれる商店街!!

? ここがポイント

まちなかアートを住民力で展開し、商店街の活力に。



街かど美術館開催期間中のまちのにぎわい

【取り組みの背景】

花巻市東和町(人口1万人)の中心市街地である土沢商店街。ここに隣接する萬鉄五郎記念美術館は近代洋画の先駆者、萬鉄五郎の作品や資料を展示・所蔵しているだけでなく、25年間にわたって独自の企画展やワークショップを展開し、多くの人をこのまちに呼び寄せてきた。しかし、来館者は商店街を素通りし、また地域住民もなかなか美術館に足を運ぶ機会が少ないのが現状で、同じ地域にありながら商店街と美術館は近くて遠い存在であった。そのような中、美術館の企画展にあわせ、美術館から商店街へ来訪者を回遊させる取り組みをやってみないかと提案を持ち込まれる。

また、商店街においては地元行政における周辺3市町との合併を控え、このままでは新市の中で埋没し、地域が加速度的に衰退していくのではという危機感を強く感じていた。そこで、"土沢らしさと住民力を未来に繋ごう"

という思いで、地域資源をアートに見出し、「街かど美術館」を開催することになった。

【取り組みの概要・経過】

商店街を舞台に、土澤まちづくり会社(住民参加協働型第3セクター)と萬鉄五郎記念美術館が中心となって、実行委員会を組織。これまで平成17年から3年連続で、秋の1ヶ月間、開催している。展示にあたっては、商店街の店舗や空き地を活用し、絵画や彫刻、インスタレーション等の現代美術作品を展示。

[参考データ(推移)]

	H17年	H18年	H19年	H20年
会場数	77	101	59	70
作家数	133	207	4	70
来訪者数	10,000	15,000	15,000	6,600

※平成20年:アート&クラフトフリーマーケットとして開催

※平成21年からは2年に一度のビエンナーレ方式を 採用して開催

【取り組みの効果】

年々、地域の活力が失われている土沢地域にとって、かつてのにぎわいある商店街を再体験できたことは大きな喜びであり、多くの人の心を動かした。 期間中、地域住民が主体となってリメイク古着のファッションショーを企画したり、またこれまで家の中に保管していた水彩画や絵画をお店で展示するようになったことは、その喜びの表れでもある。

また、期間中の各商店の売上においては、理美容店をはじめとしたサービス業の売上こそ伸び悩んだものの、飲食店や一般小売店の売上は1.5倍から3倍程度伸びている。しかし、それ以上に地域住民の心を動かしたところに、街かど美術館の成果がある。

【今後の課題など】

持続的な取り組みにしていくため、市町村等の補助 に左右されず、自立した形で事業運営できるようになる ことが課題。

また、普段人通りの少ない商店街において、街かど 美術館の開催期間以外の日常にあっても商店街のにぎわ いづくりと回遊性を持たせるため、アートがいたるとこ ろに息づく商店街をいかにつくりあげるかがポイントで ある。

さらに、同様の街かど美術館は全国各地で開催されているものの、作家-住民-鑑賞者の3者が深く関わり、 交流しながらまちの懐かしさやまちの良さを感じる、同様のアート展は類例がないと評価されている。この関係を大切にし、未来に繋がる商店街の顔に育て上げたい。



街かど美術館の作品(H17展示作品より)



商店のショーウインドーを使ったアート展示

【東和町土沢商店街】

所在地:岩手県花巻市

会員数:77名 店舗数:77店舗

商店街の類型:中山間地中心型商店街

URL: http://tmo-towa.blog.ocn.ne.jp/

【この商店街にこの人あり】



猿舘 祐子(株式会社 土澤まちづくり会社 専務取締役)0198-42-1331

【活動紹介】

- ○H15,16道路の社会実験 プロジェクトリーダー
- ○街かど美術館企画会議(実践部隊) 理事長(プロジェクトリーダー)
- ○花巻市都市計画審議委員 ほか

【うちの商店街、ここが自慢】

来訪者と地域住民が自然と打ち解ける「街かど美術館」は他商店街に誇れる取組。

エコイベントで活性化する商店街!!

? ここがポイント

「エコ」と「レトロ」の2本を柱に新たな取り組みを行う商店街。



新しいタイプの新聞回収袋

【取り組みの背景】

活気のある商店街を取り戻したい!そういった思いで 両商店街が合致し、アクションを起こした。これからの 商店街はどうあるべきか?一方的にお客様に働きかける (商品を売る) だけではなくて、商店街とお客様が一緒になって商店街をつくり、また、商店街の情報をどん どん発信していきたい!そんな街づくりを推し進めたいと思い、今回のイベントを開催するに至った。

【取り組みの概要・経過】

商店街とお客様が一緒に取り組める事として、「環境活動」(リサイクル)を取り上げた。しかし、あまり難しく考えるのではなく、まずはお客様に、環境問題やリサイクルについて関心を持ってもらえるようにとイベント内容を考察した。イベントのタイトルでもある『街に恋(こい)祭り~ええコト(eco)しよう!石巻~』とは、お客様が街に来てほしい=「来い(恋)」と、街を愛する心=「恋」のふたつを掛け合わせて出来た言葉である。

テーマとして、「エコロジー」と「レトロ」を設定。それを軸にイベントを開催した。

1. 新しいタイプの新聞回収袋、Re-新聞袋 『恋袋』の製作・配布

両商店街で新聞回収袋を10,000枚製作。袋の表面には両商店街の「懐かしい写真」や「恋袋」に対する商店街の想いをレイアウトし、「イベント告知」や「商店街マップ」も盛り込んだ。この『恋袋』は単に新聞をリサイクルする袋としてだけではなく、両商店街の広報誌としての側面を持つように、また、お客様と商店街の架け橋となるように、街の様々な情報を詰め込んだ。

2. オープニングセレモニー

『恋袋』の提唱、説明をし、また、セレモニー当日にお客様から回収した古新聞をお買い物券、記念品と交換した。また、それを『恋袋』に詰めて積み上げ、事前に回収したものと合わせ、縦2m、横2m、高さ3mの「新聞ピラミッド」を作った。

3. 石巻 昭和の16ミリ上映会・写真展

地元を記録した昭和10年前後からの貴重なフィルムを発掘し、20分程度のDVDに編集し、空き店舗で上映した。また、その当時のなつかしい写真(5、60枚)も展示した。

4. 作ろう!「新聞マイバッグ」

新聞紙4枚で出来る、世界に一つだけの「新聞マイバッグ」制作の講習会を実施。お客様がお気に入りの新聞紙(主にカラー広告の紙面)を持ち寄っていただき、作り方の講習をした。新聞紙のリサイクルはもちろんだが、新聞紙の有効活用の喚起を促す目的で行った。

5. むかしなつかし古道具展

昔そして今でも、各店舗や自宅で使用していた(使用している)、古道具を店舗のウインドウに展示した。「もったいない」精神を意識してもらい、それぞれの道具がその寿命まで使い切ってもらえるようにとの願いを込めた。

そのような観点からすると、今回の事業の主たる目的は、 概ね達成できたのではないかと思う。今後は、それをい かに直接的な売上げとして数字に残せるか、その辺りを 見据えて取り組みたい。

【取り組みの効果】

「オープニングセレモニー」で当日、古新聞回収にご協力いただいたお客様は100名程。景品と交換という事もあったが、お客様のリサイクルに対する関心の高さをうかがわせた。

「石巻 昭和の16ミリ上映会・写真展」の上映会は 毎回大盛況だった。約75年前の記録が映像として残っ ていたのはかなり貴重なものである。また、現在このD VDを商品化して、販売している。

「新聞マイバッグ」制作の講習会では、参加者の皆さんは童心に帰ったように目をキラキラさせ、制作に夢中になっていた。計3回の講習会で30人以上の方が、ご自慢の「新聞マイバッグ」を作っていかれた。

「昔なつかし古道具展」では、普段はあまり行かない 店舗の前をお客様が行き交う等の効果はあったものの、 なかなか店内に入るとまではいかなかった。しかし、回 遊していただいたお客様には、商店街の位置関係や「こ んな店があったのか」といった、新しい店舗の発見等あっ たようだ。

商店街のみならず、市民のエコに対する意識を高める 事が出来た。また、中心商店街の良さや楽しさを再発 見し、街の賑わいを創出し、次世代へ向けた街づくりの 起点となった。

【今後の課題など】

今回は、各店舗の売上げ等数字的なものの効果を期待するイベントとしてではなく、とにかく街(商店街)に目を向けて欲しいとの想いが強かった。「街に元気を、活気を取り戻したい!」の一心で行った「恋祭り」だった。

【アイトピア商店街振興組合・橋通り商店街】

所在地:宮城県石巻市

会員数:65名 店舗数:63店舗

【この商店街にこの人あり】



櫻井 健司

(アイトピア商店街振興組合 理事・イベント委員) ファッション・イン・サクライ

正岡 賢司

(アイトピア商店街振興組合 理事長) クツの向山 0225-96-6570

榊 顯雄

(橋通り商店街 理事長)

榊洋品店

0225-22-1454

【うちの商店街、ここが自慢】

先達が築き上げて来た歴史と、若手が新し いアイディアで、街の活性化にチャレンジ している。

水産資源と地域ネットワークを 活用し活性化する商店街!!

? ここがポイント

港町という強みを生かした商店街。



「志津川おさかな通り」の様子

【取り組みの背景】

南三陸町志津川の中心市街地は、近隣地域に次々と立地する郊外型大型 SC や消費者ニーズの多様化などに伴う購買客の流出により、空き店舗が目立つ寂しい市街地になってしまった。

そのような中、商工会商業部会のメンバーが 中心となり、市街地に賑わいを取り戻すための 仕掛け作りについて検討を重ね、約200mの 通りに8件の海産物関連商店(飲食店)が集積 する地区を「志津川おさかな通り」と名づけ、 店舗前に共通ののぼり旗を掲出し、親潮と黒潮 が交わる三陸沖の好漁場や1年を通じて様々な 養殖漁業が盛んに行われている志津川湾の豊富 な水産資源を広く消費者に PR するとともに、 イベントの実施や旅行客の受け入れなど観光事 業とも連携し、特色を活かした他地域の商店街 との差別化を図った商店街づくりに取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

①志津川おさかな通り大漁市

(毎年11月中旬開催)

平成16年に第1回目を開催し本年で第5回目となる。観光・物産振興を図るため、志津川地域の物産を集結し、食彩のある街を消費者に広めることを目的に開催。通りの一部を歩行者天国とし、水産物や農産物の特価販売、抽選会などを行っている。

②南三陸志津川寒鱈まつり

(毎年1月下旬~2月上旬に開催)

大漁市の継続性を主眼に、通りの一部を歩行 者天国とし、「鱈」に代表されるこの時期にしか 味わえない海産物等を集結し、特価で販売して いる。

③観光客受け入れ

大手旅行会社が企画するバスツーの行程に、 おさかな通りでの買い物タイムを組み込んでも らい、買い物スタンプラリーを実施するなど、 ツアー客に買い物を楽しんでもらえるよう協力 して取り組んでいる。

④無料休憩所の設置

「まち歩き」を実現するため、通りの中心部に、

町観光協会などと協力し無料体憩所を開設。休憩所内にはパンフレットを設置するなど、通りに立ち寄ったお客様に少しでも長い時間滞在して頂くことで、地域の元気を感じてもらえるよう、交流にも力を入れ取り組んでいる。

【取り組みの効果】

海産物を扱う商店以外の方々からも、イベントなどへの協力を得ており、徐々にではあるが、他業種への波及効果が見込まれるようになった。 平成19年度のバスツアー実績として、催行26団体、1,030人の参加となっている。

また、イベントの入れ込み数も増加傾向にあり、賑わいが創出され「おさかな通り」の知名 度アップに繋がっている。

【今後の課題など】

昨年開催された仙台·宮城デスティネーションキャンペーンや商工会事業などを活用してきたため、独自で継続可能な態勢を作らなければならない。

他の観光業者(旅館・民宿など)との連携をスムーズに図れるよう、普段からの相互の理解が必要。

【志津川おさかな通り】

所在地:宮城県南三陸町

会員数:13名 店舗数:13店舗

【この商店街にこの人あり】



山内 正文 (志津川おさかな通り大漁市実行委員長) 0226-46-4976

【活動内容】

南三陸の産物を集結し、食彩のある街を消費者に広めるため、観光・物産振興面でのイベントを開催し、町内外の消費者に中心市街地を回遊させている。

また、今年度から地元中学生の課外授業として、生徒をイベントスタッフとして受け入れるなど、商業に限らず地域の活性化を図っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

日常生活の利用商店街とお土産品販売を目的とした商店街の2面を併せ持ち、町内外のターゲットを分けたイベントの実施により、商業に限らない交流の場として位置付けられる。

アートをテーマに回遊性向上を目指す商店街!!

? ここがポイント

空き店舗アートで活性化を図る商店街。



大町商店街の様子

【取り組みの背景】

地元出身のアーティストが老舗百貨店の閉店を機に衰退していく市街地をアートによる活性化を図るため、アートユニット「ゼロダテ」を組織し、空き店舗を活用した街なか美術館を提案。

ゼロダテ (O/DATE) とは、DATE (日付) を (ゼロ) にリセットし、もう一度なにかを始める、新しい大館を創造するという活動で、大館を想う気持を共有し、それぞれの「大館」と共に歩きはじめることを意味している。

この趣旨に賛同した市民ボランティアや商店 街、若手アーティスト達が主体となって「ゼロダ テ/大館展」を企画運営した。

【取り組みの概要・経過】

今年度は2回目の開催であり、大町商店街空き 店舗、約20店舗35フロアを使用しアート展を開 催。大館市出身や全国各地の若手アーティスト、 地元画家、地元高校美術部など約35作家が作品 を展示。

各空き店舗を活用することで商店街の回遊性を 高め、市民が身近に芸術に親しむ機会の提供を目 的に開催。また、作品の制作過程を公開し、約1ヶ 月間作家が商店街に滞在して創作を行った。

ゼロダテは春の東京展、夏の大館展、冬のアメッコ市展など通年を通して活動している。 大町商店街に活動拠点である ZAC (ゼロダテ アート センター)をオープンしカフェやライブ、アートワークショップなど地元の若者が集い定期的に運営している。



空き店舗を活用したアート展

【取り組みの効果】

美術館として敷居の高いものではなく、買い物袋を下げて気軽に立ち寄れ、市民の目線から楽しめる作品であるため、多くの市民が毎年楽しみにしており、大館のイベントの地位を確保しつつ

ある。

併せて商店街活動として街の顔であった老舗百 貨店正札竹村をラベルに使った「正札サイダー」 や比内地鶏を使った「地バーガー」などの地元ブ ランドを創作し、かつての賑わいがあった商店街 の雰囲気を広く発信することができた。

また、「ゼロダテ」だけではなく、朝市とイベントを交えた「ハチ公元気市」も2回目の開催となり、多くの市民の集客に効果があった。



ゼロダテと商店街のコラボ制作「正札サイダー」

【今後の課題など】

「ゼロダテ/大館展」は夏の短期間のイベントであり、ZAC(ゼロダテ アート センター)も定期的に運営しているが、通年での商店街の活性化としての集客には繋がっていないのが現状である。

したがって、ゼロダテと連携しながら常設的な拠点を設置し、平日から買い物だけではなく市民が気軽に立ち寄り芸術等を鑑賞できるようなシステムの構築が必要である。そして地元市民、特に若者が積極的に参加できる仕組みを考えていく必要がある。

また、農商連携の試みとして開催している「ハチ公元気市」などの集客力の高いイベントを月1回、定期的に開催をし、郊外ショッピングモールにはない新鮮さを企画し実践してゆく必要がある。

【大館市大町商店街振興組合】

所在地:秋田県大館市字大町

会員数:111名 店舗数:97店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://www.hachiko.or.jp/

【この商店街にこの人あり】



横井伸一理事長

(大館市大町商店街振興組合)

TEL: 0186-43-1979

(ゼロダテ アート センター)

TEL: 050-3332-3819

URL: http://www.zero-date.com/

E-mail: info@zero-date.com

【うちの商店街、ここが自慢】

北東北3県の中間点にあり、県北地方の要所である。

国立公園十和田湖や天然温泉などが点在し、 秋田名物「きりたんぽ」、特別天然記念物「比 内地鶏」、「忠犬ハチ公」の生誕の地であり、 食や観光においても重要な場所である。

2月には商店街400mにわたって露天がひしめく「アメッコ市」が開催され、ここのアメッコを食べると1年間風邪をひかないことから、県内外より多数の観光客が来街している。

「山王まちづくり憲章」の理念のもとに、 より美しく、住みよい山王を掲げる商店街!!

? ここがポイント

商店街活性化イベント・山王ナイトバザール。



山王ナイトバザールの様子

【取り組みの背景】

鶴岡市山王商店街の歴史は古く、山王日枝神社と芭蕉も乗船したという内川までの400 m 余りに50店舗ほどの商店で構成されている通りである。近年の相次ぐ大型店の出店や郊外店に押され、来街者の減少とともに、食品スーパーや大型家具店などの店舗の閉鎖も相次ぎ空き店舗の増加、また店舗の老朽化も進み、商店街の様を呈してない状況であった。こういった状況を突破するため商店街の若手グループが結束し、以前は1年に1度の夏祭りだけであったイベントを、青年部の勉強会で一定の期間集客を見込めるイベントは何か議論した結果として、平成6年より「山王ナイトバザール」を実施した。

【取り組みの概要・経過】

5月~10月までの毎月第三土曜日「山王ナイトバザール」を開催し、商店街のにぎわいづくり活動を継続している。

ナイトバザールの特徴は、商店街以外の団体や個人の出店・参画が多いことであり、近年では商店街イベントから市民のイベントとして定着している。年に1回の通行止めをして、NPO 団体と協働しながら鶴岡の踊り祭り「おいやさ祭り」を開催している。市民には大好評で今後さらに拡大すると思われる。また、NPO との協働では内川を活用した「海坂の桜小祭り」「海坂の芭蕉小祭り」山王日枝神社を活用した「大黒様の御歳夜祭り」など地域の風物詩としての祭りの創出も行っている。

また、商店街のサポーターづくりを目的に「山 王わくわくクラブ」を立ち上げ広報誌「わくわく だより」を発行するなどの情報提供や交流事業も おこなっている。

平成17年には商店街として維持発展していくために取り決めた「山王まちづくり協定書」を策定するなど、商店街自らまちづくりに取り組んでいる意欲のある商店街である。こうした取り組みが評価され、本年認定を受けた鶴岡市中心市街地活性化基本計画に盛り込まれた、「道改修プロジェクト」が進んでいる。

また、意欲ある商業者を戦略的に誘致するための受け皿店舗の建設を目的としたゾーン整備計画づくりの主体となるLLP「アクティブ山王」を設立し、商店街再生に向けた取組を開始している。

【取り組みの効果】

商店街の衰退に歯止めはかかってはいないものの、他の商店街に比べ下げ止まりの傾向にある。 山王ナイトバザールの夜は大変なにぎわいであり、市民は郊外では味わえない、まちなかの雑然としたにぎわいに魅力を感じている。山王ナイトバザールで培ったネットワークで市民や NPO などと一緒に地元のニーズにあったまちづくりをする方向性を見いだすことができた。



山王ナイトバザールの様子

【今後の課題など】

商店街全体の高齢化により若者のニーズが拾えない状況にあり、ロードサイド店に若者の顧客が流れている状況は依然としてある。また商店主の現在のマーケティングに対する考え方を変えるのも非常に困難である。商店街はものを売るだけでなく地域の人たちのコミュニティの場となりえる整備が必要である。

【鶴岡山王商店街】

所在地:山形県鶴岡市

会員数:51名

【この商店街にこの人あり】



三浦 新 (鶴岡山王商店街振興組合理事長) (三浦糸店)

TEL: 0235-24-8987

【商店街への活動内容】

「山王ナイトバザール」の開催 「おいやさ祭り」の開催 NPO 団体等と協働イベント (「海板の桜小祭り」、「芭蕉小祭り」、「大黒 様の御歳夜祭り」など)の開催 「山王わくわくクラブ」の情報配信と交流事 業

空き店舗での産直市の開催 まちづくり相談所の開設

【うちの商店街、ここが自慢】

山王の歴史や文化を守り地域を支える商店 街

もとまち青空フェスティバル!!

? ここがポイント

まちなかに市民を呼び戻そうと地元商店街・商工会議所等が商店街活性化イベントを開催。



【取り組みの背景】

山形県長井市は、江戸時代より最上川の舟運に より栄えた商人の町である。しかし、人口の減少 や、郊外に大型店舗が出店するなど、中心市街地 は衰退し、空き店舗が多く見られるようになった。

そこで、まちなかの賑わい創出を図り、市の中心市街地を活性化したいと、「音楽のあるまちづくり」をコンセプトに、本町大通り商店街振興組合では、平成11年に第1回目『もとまち青空フェスティバル』を開催。以降毎年秋に開催され、今年で10回目となる。

なお、この商店街のある本町大通りは、県の街路事業採択に向け、地域住民・商店主等が「本町・中央まちづくり協議会」を組織している。この協議会では、街路整備と共に、魅力ある中心市街地を目指し、活動を続けている。

現在は長井市内で様々な団体がまちなかイベン

トを開催しているが、その先駆けとなった取組みである。

【取り組みの概要・経過】

昭和初期の洋風建築である桑島記念館周辺をメイン会場に、子供から大人までが楽しんでもらえるように、様々なイベントを企画している。

①音楽&パフォーマンス・ビンゴ大会等

幼稚園児から大人までが、音楽(吹奏楽)や踊り(パフォーマンス等)を披露し、イベントを盛り上げた。来場者に喜んでもらいたいと、豪華商品が当たるビンゴ大会や餅まきなどを実施した。

②地域循環システム普及促進による「安心・安全」 の商店街づくり

食の安全が重視される中、長井市で取り組んでいるレインボープラン(台所から出る生ごみ等で堆肥をつくり、安全な農作物をつくる仕組み)で作った野菜や、その野菜を使用した軽食をNPOが販売。また、買い物袋持参運動の推進のため、商店街が独自で製作したエコバッグを販売。

③健康・健全なまちづくり

長井市は近年まち歩き観光を推進している。そこで、青空フェスティバル会場に「ヘルスアップ 予備校」を開設し、観光客・市民を対象に内臓脂肪・筋肉量を測定し、健康管理についてアドバイス・相談を受けた。

④リピーター獲得に繋げる取組

近年は、買い物は週末に大型ショッピングセンターでという市民も多く、地元商店街の個店に入ったことがないという人も多い。そこで、商店街の個店を回るスタンプラリーや、各店毎にワンコインで買える商品を準備するなど、気軽に個店に入ってもらえる仕組みを考え、イベント参加者が、イベント開催後に顧客として再来店してもらえるきっかけづくりを行った。また、ハロウィンにちなんで、親子でお店を回ってお菓子をもらう「ハッピーハロウィン」も参加者が多く、好評を得た取組みであった。

⑤歩行者の安全確保の実証実験

まち歩き観光推進、また県の街路事業採択に向けての取組みとして、歩行者の安全性についての実証実験も合わせて行った。定点カメラを設置し、モニタリングした結果、以前から言われていた通り、道幅が狭く、危険であることが明らかとなり、まちづくり協議会の今後の活動に有益なデータを得ることが出来た。

【取り組みの効果】

長井の秋のイベントとして定着してきたことから、市内はもとより近隣市町からの来客もあり、今年は約2300人を集客した。アンケート調査を行った結果、リピーターも多いことがわかり、10年間継続してきたことで認知度が高くなっていると考えられる。秋にはこの他にもまちづくりNPO、他の商店街、山形鉄道等のイベントも行われ、週末には中心市街地が多くの市民らで賑わいを見せる。

【今後の課題など】

イベント参加者がイベント終了後も顧客として の関係性を維持するための仕組みづくり。イベン ト開催時以外でも多くの市民で賑わう魅力ある中 心市街地をつくる。歩行者等の安全性の確保の取組の推進。

【本町大通り商店街振興組合】

所在地:山形県長井市 店舗数:27店舗

商店街の類型:地域型商店街

【この商店街にこの人あり】

商店主(サドヤ洋装店)佐藤博氏。本町商店街の青空フェスティバルの主担当。青空フェスティバルとして開催する以前も商店街では様々なイベントを開催していたが、その当時から中心となって活動してきた。

【うちの商店街、ここが自慢】

本町商店街の中にある桑島記念館。昭和初期の洋風建築で、元眼科医院であった。市の文化財に指定。平成7年に桑島眼科医院の改築が始まり、旧医院が取り壊されることになったが、本町商店街が主体となって保存活動を行い、同年10月に本町駐車場の一角に移転、保存されることとなった。現在は中心市街地活性化の拠点として利用されている。

商業者中心のコンパクトシティ推進プロジェクト チームを組織し、ハード施設に街としての命を 吹き込む数々のソフト事業を展開する商店街!!



官民一体の強力体制で、コンパクトシティを目指す。



一店逸品研究会で熱心に聴講する商業者ら

【取り組みの背景】

中心市街地への集客の核施設となるべく、平成19年10月に駅前再開発ビル「LATOV (ラトブ)」が、また20年4月には、東北屈指の音響設備を誇るいわき芸術文化交流館「ALIOS (アリオス)」が待望のオープンを迎えた。

このような中、商業者・行政・商工会議所では、「ハード整備だけでは賑わいは生み出せない」、「完成したハード施設に街としての命を吹き込むためにソフト事業が必要不可欠だ」という危機感を持ち、コンパクトシティの先進地である青森市視察を経て、19年4月に官民一体となって「いわき駅前賑わい創出協議会コンパクトシティ推進プロジェクトチーム」を立ち上げた。

プロジェクトチームでは、歩いて楽しいコンパクトシティを実現するため、「出来ることからすぐに実践する」を合言葉に、商業者が中心となり、4つのプロジェクトを推進するための4つの部会を設けた。

【取り組みの概要・経過】

①部会の 1 つ「一店逸品運動推進部会」では、個店の 魅力アップを目指して、19年6月から一店逸品運 動に取り組み、約半年にわたる研究会を経て「逸品 ガイドブック」を取りまとめた。現在は36店舗の 参加のもと第2回一店逸品運動を展開しており、20 年11月からは逸品を巡るツアーイベント「逸品発 見!お店回りツアー」もスタート、大変好評を得て いる。



一店逸品運動「逸品発見!お店回りツアー」

②「街なか駐車場検討部会」では、20年4月から「共通駐車サービス券」事業をスタート、販売枚数は10万枚を超えた。

現在はさらなるアクセス環境の向上による、来街者 の増加を目指している。

③「街なか空き地・空き店舗有効利用促進部会」では、空き地・空き店舗を活用した実証実験として「しろがね夜台村」を実施、ノスタルジックな雰囲気を演出し、大変好評を得た。現在は空き地や空き店舗が抱える問題点の研究、有効活用策を模索している。



しろがね夜台村を囲む市長、副会頭、商連会長ら

④「街なか情報発信推進部会」では、商店街ポータルサイト「いわきまちびた」を開設、街区300店舗のホームページを搭載し、中心市街地の様々な情報をリアルタイムに提供している。現在は平商店会連合会の自主運営で、市民のニーズに応じたタイムリーな情報発信ができる仕組みづくりを目指している。

【取り組みの効果】

一店逸品運動や商店街ポータルサイト事業により、個店の新規顧客獲得、中心市街地内の回遊性向上、 駅周辺の歩行者数の増加などの効果が感じられる。

また、各種プロジェクトを通じて商業者のモチベーションが高まっており、これまで顔の見えなかった若手商業者が台頭するなど、商店街の人材発掘にもつながっている。

さらに、商工会議所や行政など関係団体との連携も密になり、官民一体となった強力な体制で事業

を進めている。

【今後の課題など】

さらなる新規顧客獲得や売上増進など、個店の経営 強化につながるよう各種プロジェクトの質を向上させ ていきたい。また、商店街・LATOV・ALIOS が一体 となり、街の導線や街に必要な機能を検討し、市民に 中心市街地の楽しみ方や暮らし方を提案していきたい。

【平商店会連合会】

所在地:福島県いわき市平字田町120 ラトブ6Fいわき商工会議所内

会員数:664名 店舗数:664店舗

商店街の類型:広域型商店街

URL:http://www.iwaki-machipita.net/

【この商店街にこの人あり】



小野栄重 (いわき駅前賑わい創出協議会 会長、 いわき商工会議所 副会頭) TEL:0246-25-9152

【うちの商店街、ここが自慢】

コンパクトシティの各事業は、この一年間で4つ全ての部会で事業を実現させた。商業者の結束力が高まり、行政や商工会議所とのつながりも密になり、官民一体となって取り組んだ結果、大きな成果を残すことにつながった。

米(マイ)コミュニティ構想!!

? ここがポイント

筑波北条米という地域資源を活かし、人とものの交流による街の活性化を目的 として、地元住民・商店主と大学生等が連携して新事業を展開。



北条ふれあい館岩崎屋

【取り組みの背景】

北条商店街は筑波山への登山道(現在のつくば道) の入り口にあり、昭和40年代ごろまでは商業の中 心地として栄えていたが、研究学園都市の建設や郊 外店の進出などで年々元気がなくなってきていた。

平成17年のつくばエクスプレスの開業前に、筑 波山麓という地の利を活かした活性化策を打ち立て ようと、平成15年から地元住民・商店主と大学生 等がワーキングチームを立ち上げた。

【取り組みの概要・経過】

北条商店街は江戸時代から昭和初期に建造された 店蔵等の伝統的な街並みが残っており、かつては「市 (いち)」が盛んに行われていた。 平成19年より、筑波大学生・大学院生と北条商店街とが協働し北条街づくり振興会を設立、つくば市の補助を得て「北条市(いち)」を復活させ継続開催することにより、広く市内外の農業・商業・工業及び観光業が連携した新しい事業展開が始まった。

まず、茨城県及びつくば市の補助を得て蔵づくりの空き店舗を活用した情報発信基地「北条ふれあい館岩崎屋」をオープンした。地元商品やオリジナル商品の販売、ギャラリー、喫茶等に活用され交流の拠点となっている。

さらに、ブランド米として有名な「筑波北条米」を 練り込んだアイスクリーム「北条米(マイ)スクリーム」 を商品開発し、岩崎屋や商店街内個店で販売している。

また、商店街と地域住民とのコミュニティ形成を目的として、筑波北条米を担保とした米本位制の地域通貨「マイス」を発行するとともに、100円商店街ならぬ「100マイス商店街」を実施して、期間限定の流通実験を行った。

その他、郷土史研究家による「北条歴史探訪」等 各種講座を実施している。

【取り組みの効果】

「北条市」では地元農家で栽培された安心・安全な 農産物等の販売が行われ、毎回多くの人で賑わってい る。また、地元中学生のキャリア育成事業に賛同し、 商品の仕入・制作販売の体験の場を提供している。

「北条ふれあい館岩崎屋」の開店・運営の結果、街の認知度が深まり、北条商店街への来街者が増加し、物の交流のみならず、情報や市民と観光客の交流創出も実現でき、活発な事業展開が図られている。

一方、「北条市」に参加した大学生等の中には、北条を気に入って居住地を移転した者もあり、また、 出店者の中には、北条商店街内にある空き店舗を活用してカフェを開業した者もいる。

筑波大学主催のシンポジウムに取り上げられたり、 JRの「駅からハイキング」の行程に選定されたり と注目を浴びるようになった。

【今後の課題など】

「北条市」は年4回(春・夏・秋・冬)の開催という限定されたものであるため、商店街全体の年間を通じた活性化にまでは至っていないのが現状である。

今後は市内大学・専門学校・高校・中学校をはじめ、つくば市商工会会員企業・北条街づくり振興会・筑波山麓のまちづくり事業に取り組んでいる NPO 法人及び団体と連携して、地元商店の店舗を活用した出店、交通規制(歩行者天国)による会場の拡大などを行い、開催日の増加及び継続発展に取り組む。更なる街の賑わいを取り戻し、何度もこの北条商店街を訪れ、街の人々と交流し、北条の良さ・伝統的な街並み・懐かしい商品・職人の光る技など、これまで受け継がれてきた様々なものに触れていただく場所の提供を今後も目指していく。

【北条商店街】

所在地:茨城県つくば市

会員数:59名 店舗数:90店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://www.hojo-fureaikan.jp/

【この商店街にこの人あり】



坂入 英幸

平成15年より北条商店会会長。平成19年設立の北条街づくり振興会会長として、街の活性化のため、東奔西走している。時計店の3代目店主でもある。

【うちの商店街、ここが自慢】

・筑波北条米を練り込んだ「北条米(マイ)スクリーム」



筑波登山のお土産としても大人気

- ・ 首都圏にありながら歴史を感じさせる街 並み。
- ・子供たちを含む住民が、気楽に観光客に も声かけをする「古き良き日本」のコミュ ニティが残る街。
- ・「北条街づくり振興会」は北条商店街、地域住民、大学生等商店街を応援したい人々からなる組織。資金提供、ボランティア、デザイン、アイディア提供等それぞれができる範囲で協働している。
- ·「茨城県がんばる商店街支援事業」に採択 され注目を集める。

商店街が「よそ者・若者」と

一緒に町づくり!!

? ここがポイント

商工会議所により、地元大学生がゼミ活動の一環として経営する地産地消の飲食店、新名物「にら焼きそば」を提供するチャレンジショップが開業。

現在、商店街をあげて経営のバックアップをしており、よそ者・若者と商業者が日々膝を突き合わせて活動している。



大学生によるチャレンジショップ

【取り組みの背景】

まろにえ21は、既存の町内単位の商店街活動に 対し、早くから危機感を有した商業者が町内を越え て結成した商店街である。

ロケーションは地方都市の駅前で、市のメインの 国道が商店街の南北を縦貫しており、バスの主要路 線とバス停がある。各店とも恵まれた商環境を活か して古くからの顧客を多く抱えている。

平成11年から昨年まで、商店街内にあるホーム センターの駐車場を週末の早朝に借り受け、継続的 に朝市を開催してきた。

例年秋口には大オークション大会も開催しており、これまでの地道な活動を通じて商店街内のチームワークも良く、大きなイベントも商店街で企画・

運営できるノウハウを蓄積している。

また、地方都市における駅前商店街のあり方を念頭に行動しており、イベント時には駅と連携した活動も行っている。

駅周辺は平成24年にかけて再開発中であり、地元の商業者として駅をこれまで以上に取り込んだ商業活動を行いたいとの思惑もある。

【取り組みの概要・経過】

平成20年、商店街の空き店舗を利用し、地元大学生がゼミ活動の一環として経営する地産地消の飲食店がオープン。

全国的にも珍しい大学生による通年営業のチャレン ジショップということで、商業者、大学生、商工会議 所の三つ巴で日々悪戦苦闘しつつ店舗を営業している。

商店街の各店にチャレンジショップの割引券を設置したり、商店街をショッピングモールに見立てたチラシを作成することで、訪れた顧客にもうワンコイン消費してもらい、商店街の回遊性を向上させるような工夫を積み重ねている。

夏には市民に有料で夕顔とネットを350セット 配布し「緑溢れる街並みにしよう」というグリーン カーテン運動を展開。秋にはチャレンジショップを投 票所とした夕顔のフォトコンテストも開催している。

11月には商店街において毎年恒例の「まろにえ 21」大オークションを大々的に開催、約300ア イテムの出品があり、大勢の人出で賑わった。

12月は商店街をあげてイルミネーションによる ライトアップも行っており、営業時間外も人通りが 多く、防犯面でも非常に効果がある。



商店街情報満載のチラシ

【取り組みの効果】

大学生によるチャレンジショップのある商店街は 目新しさからマスコミ等に大きく取り上げられてお り、商店街の集客力・知名度が向上している。

チャレンジショップの「よそ者、若者」による創業を支援し、日々の経営をサポートする事で商店街組織、商業者個人としても新たな発見があり、経営力の向上に寄与している。

商工会議所と事業内容について協議を重ねる事で、局地的な視野に立ちがちな商店街活動に幅が出てきており、近隣商業者からも非常に注目され、商店街組織の拡大も期待されていれる。

また、大学生がブログを活用して商店街活動の情報を発信している。

【今後の課題など】

これまでと同様、新規の顧客が継続的に商店街に 来店するような新しい企画・運営に組織的に取り組 み、商店街を訪れた顧客をこれまで以上に個店の売 り上げに反映させること。

【まろにえ21】

所在地:栃木県鹿沼市

会員数:15名

店舗数:15店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:http://www.kanumaitown.com/ shop_info/shop_info.php?shop_id=

00011

【この商店街にこの人あり】



まろにえ21会長 大関 浩司 (何大関種苗園代表取締役)

「まろにえ 21」最年少でありながら発足当初から会長を務めており、スタミナ溢れる行動力で商店街を牽引している。華麗な彫刻屋台が繰り出す「ぶっつけ秋祭り」において、町内の取りまとめ役である若衆頭を長年務めている。

本業の種苗園も、県下随一の品揃えと豊富 な商品知識、きめ細かな顧客対応により非 常に好調である。

【うちの商店街、ここが自慢】

個性豊かな商店主の結集した商店街であり、なにか取り組む事項があれば「よしやってみよう!」ととにかく行動あるのみ、固い結束が事業の答えを良い方向へ導いてくれる。 親切で小回りが利き、バラエティに富んだ店が揃う、身近なショッピングモールのような商店街である。

イベントから生まれる交流により 新規創業者が創出、地域が活性化!!

? ここがポイント

「下町夜市」での交流は、新規創業者を創出、また既存店も商店街のブランド 化を考え活性化に寄与。毎月1回行われる夜市は地域住民のコミュニティ創出の 場となっている。



下町夜市の風景

【取り組みの背景】

組合員の後継者難による脱退と店舗用地の空き 地化が進んでいる商店街で、地域活性化につなげ るべく、平成11年から全国の朝市や物産市を視 察するなど勉強会を重ねてきた。

車の交通量はかなり激しい通りであるが、歩行者の通行がほとんどないため、まずは人に歩いてもらおうということで、集客効果があり空き地の有効利用もできるような事業について検討を行った。

【取り組みの概要・経過】

商店街や市民ボランティアにより、平成16年 10月から毎月第3土曜日夜に「下町夜市」がスタートした。

■これまでの下町夜市で行ったこと

チャレンジショップ事業

いずれ中心市街地に出店をという意欲のある飲食店約25店舗が簡易テントで営業。

- ・商店街各店によるセール
- ウォークラリー事業

商店街とチャレンジ出店者が豪華賞品を提供。 商店主たちから面白い問題が出され、親子連れに まちなかで楽しく交流していただきながらゴール を目指す。

· 下町音楽横丁

毎回、数多くのアマチュア演奏者がボランティア参加により空き地のステージや歩道などで演奏。 【下町夜市1周年記念事業】(平成17年10~12月)

- · 下町夜市1周年記念CD制作事業
- ・ボランティア表彰制度
- ・まちの家(テントハウス:したまちパオ)設置事業

【下町夜市3周年記念事業】(平成19年10月)

- ・県立館林商工高校の生徒による「ぐんまミニ物 産展」
- ・下町夜市3周年記念DVDの作成
- · 下町夜市3周年記念写真展
- ・夜市オリジナル提灯の作成

- ・音楽横丁(ステージ)の運営
- ・商店街によるサンサンセール(商店街が330 mあることからネーミング)
- ・ 夜市出店者による3周年記念メニュー

【下町夜市50回記念事業】(平成20年11月)

- ・市内中学生によるJAZZ演奏
- ・市内中学生による商業体験
- ・女流落語家「桂 右團治」による下町寄席の開催

【取り組みの効果】

平成16年から開催した下町夜市により、市内外での知名度が上がった。また、下町夜市終了後に毎回反省会を開き、改善点を話し合い毎回改良を加えているため、マンネリ化が少なく顧客のみならずスタッフも飽きないため事業の継続が図られた。

1周年事業、3周年事業、50回記念事業と節目での大型事業を行うことにより関係者の拡大が図られ、当初は無かった部会の増加につながり現在では音楽部会、芸術部会、レイアウト部会という部会が発足し、したまちパオなどで展覧会などを開くようになり地域コミュニティの復活に寄与した。また下町夜市から新規創業者も現れ、商店街振興にも繋がった。

【今後の課題など】

現在、下町通りの道路拡幅事業が進行中である。 道路を整備することにより安心して買い物ができる空間が創出されるが、地域の商業者がそれをどう活かしながら下町夜市を継続させるかが、魅力ある商店街づくりの大きな課題である。

近隣大型SCなどの進出により一般的な需要は望めない中、商店街でなければ買えないブランド化した商品などの開発も行い、それを下町夜市で試験販売するなど下町夜市を利用した商店街のマーケティングを行い、商店街振興につなげることが課題となっている。

【たてばやし下町通り商店街振興組合】

所在地:群馬県館林市

会員数:34名 店舗数:27店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:http://www.374-map.jp/blog/shita/

【この商店街にこの人あり】

·村田 征史

(たてばやし下町通り商店街振興組合理事長) 大正2年から当地で営業している靴の夢良 多屋の店主。大きな体と大きな心で、商店 街の運営に奮迅しており、商店街のみなら ず、ボランティアの方々からも信頼される 存在になっている。

・三田 英彦(下町夜市実行委員長) 昭和3年から営業している老舗文房具屋、 三田三昭堂の店主。「下町夜市」では実行委 員長として商店街、市民、行政など様々な 関係者の取りまとめなど「下町夜市」のた めに深謀遠慮しながら、東奔西走している。

【うちの商店街、ここが自慢】

したまちパオという地域の寄り合い所を材料だけ買って商店街の有志で建設した。

パオでは写真家の展覧会や地域の会議、絵画の作品展などを行い、地域コミュニティ振興に役立っている。

建設に際して、商店街有志が携わったよう に何といっても人がいいのが自慢である。

地域との強い連携で

にぎわいづくり!!



大型店や大学さらには地元団体との連携で多彩な事業を展開。



アポポ商店街

【取り組みの背景】

入間駅前の区画整理をきっかけに誕生した商店街であり、愛称を全国公募した。全国から2826通の応募があり、選考委員会で学生の意見により採用され、商店街の正式名称となったのが「アポポ商店街」である。"アポポ"とは「アっという間に人がポこポご集まる街」という意味であり、これを目標にして、近年では「ナンバーワンより地域のオンリーワン」をテーマに、様々な取組を進めている。

【取り組みの概要・経過】

① いるまんなか協議会

大型店4店と二つの隣接商店街が共同で行う事業をサポートするために発足した。大型店や商店街のスタンプが揃うと抽選ができるスタンプラ

リーなどを実施している。

② サマーフェスティバル

商店街最大のイベントで、毎年8月の最終土曜日に開催される。

米軍横田基地所属バンド、地元小・中学校のブラスバンド、和太鼓、ジャズ演奏など、街中がステージとなる。

国際屋台村では十数カ国の料理が味わえ、フリーマーケットも70店程参加。NPO法人「あいくる」(子育て支援)やおおぎ第二保育園等の協力で、ゲーム等が楽しめる「こども広場」も開設している。



サマーフェスティバルの様子

③ 大学との連携

街区内に駿河台大学の「駿大ふれあいハウス」があり、イベントなどの際には企画段階から参加を得るなど、商店街を盛り上げている。

また、豊岡プチ大学を開催し、大学教授や地元の有志の話が気軽に聞けることでも好評である。

④ 映画文化を考える市民会議 映画文化を根づかせるためにユナイテッドシネマと協働し、「映画文化を考える市民会議」を立ち上げ、自主的に映画を上映している。

⑤ 伝統の祭りへの積極的な参画 地元の伝統ある「おとうろう祭り」に企画委員会 を組織して積極的に参画、祭りの運営に協力している。 平成19年には巨大な幟(のぼり)を四十数年 ぶりに復活させる大きな原動力となった。

【取り組みの効果】

他商店街、大型店、地元団体、大学等との連携をアポポ商店街が仕掛けることにより、様々なイベントが地域全体のものとして行われるようになった。また、地域での商店街の存在感も高まった。

【今後の課題など】

商店街の新たな担い手を育成するため創設された apocco(青年部)が、郊外の大型商業施設とは異なった商店街の魅力を創出すべく、現在イラストマップ、逸品マップに次ぐ「専門店マップ(飲食編)」を作成中である。

さらには、今まで培った地域との連携力をより 強化するとともに、地域の文化・歴史を活かし、 特徴ある街づくりを目指す。



商店街で作成した「いるまんなかてくてくマップ」

【アポポ商店街振興組合】

所在地:埼玉県入間市

会員数:97名

店舗数:約120店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www.apopo.net/

【この商店街にこの人あり】



アポポ商店街振興組合専務理事 松井 秀男 20代に青年海外協力隊員として2年間ア

20代に青年海外協力隊員として2年間アフリカ・ケニア共和国に在住。現在は地元で建築の設計を行いながら、アポポ商店街のコーディネーターとして活躍中。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・商店街が地域・大型店とうまく連携して 活動している。
- ・施設整備が充実している街区で多彩なソ フト事業を実施している。

「稲毛あかり祭~夜灯(よとぼし)」の

継続が地域コミュニティの再生に貢献!!

?) ここがポイント

半農半漁のまちであったその昔、行われていた遊びの漁「夜とぼし漁」をモチー フに、イベントの準備段階から地域住民(大学生、町内会、ガールスカウトなど 多数の団体)と連携・協働し、手作り灯篭でまちを照らし、人々のつながりを育 てていく取組。



稲毛あかり祭~夜灯

【取り組みの背景】

稲毛せんげん通り商店街周辺は浅間神社を始 め、歴史を持った魅力が多く見られるまちであ る。しかし、せんげん通りは毎年行われる浅間 祭りの時のみ賑わうばかりで、普段は車の交通 量が激しく、歩く人の数も年々減少している。

「稲毛のあかりプロジェクト」を通して、地域 の人々が稲毛に対する関心を高めるきっかけを 作るとともに、地域内外に住む人々に商店街と 稲毛のまちを知ってもらいたいとの思いから、 このプロジェクトを発足させた。

【取り組みの概要・経過】

稲毛あかり祭は、半農半漁のまちであった昭

和30年代まで行われていた遊びの漁「夜灯し 漁」をモチーフとして、5000個の手作り灯 篭で浅間通りを飾るお祭りである。H18年から 実施し、これまでに3回開催している。

手作り灯篭は、稲毛地区の小中学校の地域授 業の一環で地域高齢者との世代間交流を図りな がら作成し、竹灯籠も地元高校の生徒や住民が 手作りする。イベントの準備段階から地域住民 (大学生、町内会、ガールスカウトなど多数の団 体)と連携・協働することで人々のつながりを 育てていくことをも目的としており、この取り 組みは、平成18年千葉県商店街活性化地域連 携モデル事業最優秀賞に輝いた。

毎年連携団体を増やし、地域の冬のイベント として定着してきている。

【取り組みの効果】

お祭りは毎年多くの来場者で賑わい、商店街 の認知度がアップした。

連携先の増加により、他の事業へと発展した。

【今後の課題など】

稲毛あかり祭が地域の伝統行事となるよう、

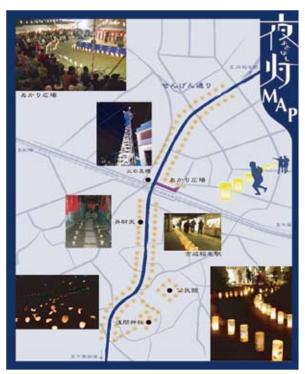
地域住民が日常において活動に参加できるような施設を設立する。

商店街と学生・地域住民の関係緊密化と更なる街づくり・街そだてを展開する。

(稲毛は密集市街地であり災害に弱い町と言われている。地域の高齢化・福祉・防災を考えるコミュニティの本格的始動のきっかけとしたい。)

地域住民に稲毛への愛着を生み出した成果を きっかけに、住民の中に同じ稲毛に住む人たち 同士のつながりを育てていく。

雑踏警備と看護計画を立てる。



夜灯マップ



【稲毛商店街振興組合】

所在地:千葉県千葉市

会員数:35名

店舗数:33店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:http://www.hanae.ne.jp/inageen/

yotoboshi/

http://www.hanae.ne.jp/i_ippin/

【この商店街にこの人あり】



夜灯実行委員会委員長 海宝 周一 商店街の仲間5人とともに、初年度夜灯の準 備段階から意欲的に連携団体との交渉等活発 に活動し、地道な努力により3年で120の 地域団体を巻き込む事業へと発展させた。 商店街での取り組みは、一店逸品運動、地域 の安心・安全に向けた取り組みへと幅広い。

【うちの商店街、ここが自慢】

・いなげ一店逸品

稲毛の個性豊かなお店が各店の自慢の一品を選び、お客さんへのおすすめ商品として販売促進するというもの。

逸品はお店ごとに勝手に決めるのではなく、13の商店が研究会を作って商品を持ち寄り、厳しい意見をぶつけ合って1年かけて商品化している。

商店街のアートスポットから 地域の魅力を情報発信!!

? ここがポイント

昔の建物が点在し、昭和の面影を色濃く残す商店街であり、芸術や建築関係者の人気を集めている。昔ながらの商店に加え、木造長屋を改装したカフェや工房ショップが人気を集め、地域に活気を与えている。



鳩の街通り商店街振興組合

【取り組みの背景】

鳩の街通り商店街は、80年の歴史を持つ古い商店街である。昭和初期の木造建築物がそのまま残っており、昔懐かしい昭和レトロな風景がそこにはある。

シャッターの降りた店舗が目立つ商店街を少しでも活性化しようと、NPO法人向島学会と協力し、起業や商売を志す人に空き店舗を提供する事業を開始することとし、また、3年後に開業する "東京スカイツリー"に訪れるであろう多くの観光客が墨田区を回遊する手助けとなる仕組みをつくるため、観光案内スポットとなる場所を提供することとした。

【取り組みの概要・経過】

商店街の中ほどにある一軒長屋(1階3部屋、 2階3部屋)を起業や商売をめざす人の活動拠点 として提供し、商店街と協力しながら地域の活性 化を目指す。

- ・H20年3~4月 空き店舗利用者の募集、決定
- ·H20年4~5月 空き店舗の改修工事
- ・H20年6~7月 5店舗(アトリエ、アート スポット、木工指し物工房、レザークラフト工 房、陶芸工房)オープン

商店街ホームページにて情報を発信

·H20年11月 5店舗で秋のイベントを開催



↑チャレンジスポット!鈴木荘↓



【取り組みの効果】

- ・街歩きブームで、昭和レトロな風景を求めて商店街に来た人からロコミで空き店舗活動の情報が広がり、来街者が増えている。下町の隠れたアートスポットとしても人気を集めている。
- ・チャレンジスポット!鈴木荘への入居者は若い 人が多く、商店街に若者が来るようになった。
- ・店舗が共同でイベントを企画するなど、コミュニケーションも生まれている。
- ・商店街の各個店は、これらに刺激されるととも に空き店舗で活動している人と交流を持ち、活性 化の糸口がつかめつつある。



昭和レトロな風景

【今後の課題など】

事業経費の確保

運営資金の公的補助が3年間で終了するため、 それ以降の事業継続について運営資金の確保が必要である。

・広報・PRの強化 更なる情報発信の方法について、検討する必要 がある。

【鳩の街通り商店街振興組合】

所在地:東京都墨田区

会員数:48名

店舗数:40店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://hatonomachi-doori.com/

【この商店街にこの人あり】



理事長 松橋 一暁

商店街の活性化のためには苦労を惜しまず、 日々いろいろなアイデアを出し、実行して いきたいと考えている。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ①昔懐かしい昭和レトロな町並みと風景が 芸術や建築関係者に人気である。
- ②夏のイベント「鳩の街ジャズコンサート」 で本格ジャズの生演奏が子供から大人ま で大人気
- ③商店街オリジナルのエコバック作製、販売



↑オリジナルエコバッグ

商店街のオリジナル商品開発が 大成功!!

? ここがポイント

全国で初めて商店街のオリジナルブランド商品の開発を行い、ヒット商品を次々と生み出した。日本一住みやすい街を目指して地域に根ざした取り組みを継続した結果、平日でも賑わいあふれる商店街が復活した。



賑わいあふれる戸越銀座商店街

【取り組みの背景】

集客率アップを狙ったフリーマーケットの開催、高齢者を囲い込むためのシルバー会員制度の実施等、さびれつつあった商店街をなんとかしようと色々と試みた。どれもお客には好評で商店街に人は集まったが、肝心の店の売り上げにはつながらなかった。商店街内で使用できる商品券を配布した際に客から"これをもらっても商店街で買いたい物がない。"と言われ、商店街のなかでお客がほしがるものをつくれないかと考えて「戸越銀座ブランド」の発想が生まれた。

【取り組みの概要・経過】

オリジナルブランド開発の提案をした当初は、リ

スクが大きすぎるということで商店主たちの反応は 否定的だったが、オリジナルブランド第1号の日本 酒を平成11年に発売したところ、新聞等に取り上 げられたこともあり大ヒットした。これを受けて、 他の商店主達も次々とオリジナル商品開発に参加し、 無添加・高品質・真心のサービスをコンセプトにし たソース、ワイン、お菓子等のオリジナル商品が次々 と完成。オリジナルのパッケージデザインも完成し、 ちょっとした贈り物として人気が出たため、それぞれの店の大きな収益源となっていった。

平成20年から、立正大学のゼミ生とタッグを組んでコロッケのまちづくりに取り組んでいる。惣菜店のコロッケが土産になるよう、大学生たちのアイデアでギフト用の箱を作った。また、店の地図も兼ねたチラシも作成。今後、学生達は毎月の銀六祭でオリジナルコロッケを販売し、まちづくりに携わる予定である。



戸越銀座コロッケ食べ歩きマップとギフト BOX

【取り組みの効果】

オリジナル商品がマスコミ等に取り上げられる ようになるにつれ、商店街の知名度も上がり、賑 わいあふれる商店街となった。

現在、とごしぎんざブランドの商品は30品目以上。各店のヒット商品となっている。

商店街に惹かれ、わざわざ戸越銀座に居を構える人も現れている。



とごしぎんざブランドの商品

【今後の課題など】

現在の商店街活動は、行政の支援があって成り立っている。商店街の株式会社化についても検討中。将来は行政支援に頼らない自立した商店街を目指したい。



とごしぎんざのアーチと子供に大人気の銀ちゃん

【戸越銀座商店街連合会】

戸越銀座商栄会商店街振興組合 戸越銀座商店街振興組合

戸越銀座銀六会商店街振興組合

所在地:東京都品川区 会員数:約320名 店舗数:約400店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www.togoshiginza.jp/

【この商店街にこの人あり】



戸越銀座銀六商店街振興組合理事長 亀井 哲郎(宝飾・時計販売店店主) ☆オリジナルブランド開発の仕掛け人

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・とごしぎんざブランド
- ・とごしぎんざまつり
- ・「戸越銀次郎(通称:銀ちゃん)」:商店街のマスコットキャラクター
- ・ユビキタス戸越銀座ラボ(愛称:とごしタス):ユビキタス商店街プロジェクトの研究成果を発表する拠点
- ・とごしぎんざのお休み処:買い物客が休憩できる、商店街の情報が数多く集まったパブリックスペース。空き缶の回収機も設置されており、いつも多くの人で賑わっている。
- ・ハロースタンプ:商店街で実施するスタンプカード事業。ポイントをためると加盟店でお買物券として使える他、空クジなしの抽選会に参加できる。
- ・シルバーカード:高齢者を対象に配布し、 加盟店でお得なサービスを受けられる。

昔懐かしい「市」を再現するとともに地域資源を活用した魅力を充実し、地域内外への「地域」「個店」「店主」「商品・サービス」のPRを目的とする!!

? ここがポイント

一過性のイベント事業として終わらせることなく、魅力ある地域づくりと店づくりに向け、経営意欲の向上を図ることを目的としている。

昔懐かしい市は、若い世代には新しく、高齢者には懐かしく感じられ、幅広い 世代に支持されている。

地域社会等の将来を担う若い人達の積極的な参加協力を図り、次世代の担い手として、当日、運営の体験をしてもらう。



ヨルイチに賑わう商店街の風景

【取り組みの背景】

数十年前に整備された五日市街道沿いの全長 1.5 kmの広範囲に立地している商店街である。 後継者問題、商店主の高齢化、老朽化した店舗、 大型店への消費の流出などによる売上高の減少が 問題となっていた。

歴史ある「五日市」の繁栄の時代を取り戻そう

と「渋谷が村だった頃、五日市は町だった。」を スローガンに地域活性化事業が開始された。

【取り組みの概要・経過】

あきる野商工会で、総合振興計画策定事業の一つとして、五日市の活性化のためにヨルイチが企画された。

豊富な人材や資金力のある都心や大型店にまと もに対抗しても、時代の変化のスピードに太刀打 ちできない為、都心には無い魅力で対抗しようと 考えた。

「古」「静」「暗」「スロー」「和」などをテーマに懐かしい「ヨルイチ」が平成15年8月に開催された。

地域住民の他、都心の若くセンスのある女性も ターゲットに、以後、夏の終わりの土曜日に開催 されている。

東京都あきる野市

【取り組みの効果】

人を集める事が目的ではなく、また、当日に「モノ」を売るのも目的ではない。ヨルイチ以外の364日の経営のために、毎年テーマを決めてヨルイチは開催されている。

1年目は、まず地域を知ってもらうために「五日市を知ってもらう」をテーマに全体の事業運営や個々の店舗の経営を行った。その後、「店を知ってもらう」「人を知ってもらう」「商品やサービスを知ってもらう」とテーマをレベルアップしている。

ヨルイチの開催が店舗改装のきっかけになったり、後継者問題をクリアした店舗、店に眠っていた商品の高価値化に成功した店舗、新たな業態を展開した店舗なども増え、数字には出ない効果が表れている。

【今後の課題など】

悪天候の年でも、1万人以上の人が集まる事業 となっている。

後日、また店舗に来てもらうための工夫をし、 店主自ら当日の店舗運営を行っているため、当日 の事業スタッフが足りない状況となっている。

地域住民や関係団体、西武信用金庫などの協力もあるが、まだ当日スタッフが不足している。

【五日市商和会 ヨルイチ実行委員会】

所在地:東京都あきる野市

会員数:57名 店舗数:69店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:http://www.akiruno.ne.jp/yoru/

【この商店街にこの人あり】

- ①毎年、特徴のある人材がヨルイチの実行 委員長を務めており、その委員長の魅力 がヨルイチのスパイスとして、新鮮な事 業になっている。(写真左)
- ②地域住民でもある芸術家やデザイナーの 先生が商店街の活動に協力的であり、ヨ ルイチの発足にも多大な協力を頂き、個 店の店舗の設計や魅力付けにも多大な協力を得ている。(写真右)



【うちの商店街、ここが自慢】

地域資源や人材(デザイナー)を活用した 個性的な店舗や昔懐かしい店舗が点在して いるため、観光客も楽しめる商店街になり つつある。



多彩なイベントで賑わいを創出!

? ここがポイント

少人数・短時間で企画した毎月のイベントで毎回多数のお客を集める。 子供達が商店街活動に関わることで地域への愛着が増し、商店街が身近な存在 となっている。



趣向を凝らしたイベントで賑わう鶴見銀座商店街

【取り組みの背景】

鶴見銀座商店街は旧東海道に沿って出来たもので、 昭和28年に協同組合として組織された。京急鶴見 駅前にあり、JR鶴見駅にも近いという立地だが、以 前は、客がいない商店街としてテレビに出たりもし ていた。

【取り組みの概要・経過】

まずは商店街を認知してもらい客を呼び込もうということで、商店街の名称を「ベルロードつるみ」に変更。約10年の歳月をかけてイベント事業を軸としたスタッフの育成としくみ作りを進めてきた結果、今ではユニークなイベントやアイデアに満ちた事業を展開し続けている商店街として名を馳せるまでに至った。

◇主な取り組み

・ちびっ子王国

年に一回開催される子供対象無料のチャリティイベント。商店街の通りを歩行者天国にして様々な催しを随所で繰り広げるが、その運営の一切を地元の中学生に任せている。

・ドット来~()!!

毎月第4土曜日に開催されるセールイベント。事前に買い物客に各店で抽選券を進呈し、毎回のテーマに沿った賞品をラインナップしている。商店街への集客を目指し、各個店の利益を上げることを目標としている。

・医療機関マップの作成

全国的にも珍しい商店街と医療機関、薬局がコラボレーションしたマップ。

商店街周辺に増えた医療機関とタイアップすることで、常に利用してもらえる保存版マップづくりに成功した。商店街スタンプとも連動させることでPR効果も狙っている。



【取り組みの効果】

ちびっ子王国では、企画・運営をする中学生がボランティアへの関心を深めたり、商店街関係者と親しくなることで、商店街が身近な存在となっている。 企画に携わった中学校からは商店街のお店に就職する卒業生も出てきており、商業後継者の担い手作りにも役立っている。

ドット来~い!!の抽選会には毎回900~1000 人が参加、商店街を回遊してくれることで商店街各店の売り上げアップにもつながっている。また、第4以外の土曜日も賑わうなど効果は大きい。



抽選会は毎回大好評

【今後の課題など】

- ・イベントをマンネリ化させることなく、これから も継続していくこと。
- ・シニア向け新たなサービスの提供と若年家族層を ユーザーとして取り込むこと。

【鶴見銀座商店街協同組合】

所在地:神奈川県横浜市

会員数:76名

店舗数:約80店舗

商店街の類型: 地域型商店街 URL: http://tsurugin.com/

【この商店街にこの人あり】



鶴見銀座商店街協同組合 理事長 岡野 誠一 横浜市商店街総連合会会長も務める傍ら、 地元警察署や行政諸機関の民間委員として も活躍している。その活動範囲は実に多才 である。



鶴見銀座商店街協同組合 副理事長兼事業部長 塩田 一善 鶴見のまちをどうしたら元気にできるかを 常に考えている人。商店街活動の実行部隊 でもある若手達の兄貴的な頼れる存在。

鶴見銀座商店街協同組合 事業委員 田中 孝一、八木 幹雄、 中西 英一、大平 憲太郎 地域のイベント活動などに尽力している 面々。イベントにはお金をかけずに知恵を 絞る!をモットーとし、毎回ユニークなイ ベント等を企画するアイデアマン達である。

街なかサロンを活用して 地域コミュニティに寄与!!

? ここがポイント

老舗の旧酒店を利用して、色々なイベント・教室の開催で商店街外部からのコミュニティ活動を促進・商店街サロンの役割を担って、地域の街歩き観光・賑わいに寄与。



アーケード改築中の上古町

【取り組みの背景】

新潟市上古町商店街振興組合は新潟県の県都であり、政令指定都市になった新潟市の中心商店街で、白山神社から古町商店街の上から始まる500メートルの商店街(1番町~4番町)である。上古町商店街は、新潟県内屈指の参拝者数を誇る白山神社と柾谷小路商店街を結ぶ門前商店街として栄えてきたが、高齢化により店舗の廃業が目立つようになり、空き店舗が年々増え商店街の魅力が衰退していた。まちの賑わいを取り戻すべく4つの商店街が団結して平成18年に商店街振興組合を設立した。現在では、両側に約110店の様々な業種の商店が軒を連ね、若年層を対象にしたセレクトショップ、個性豊かな雑貨店から老舗菓子店が並ぶバラエティに富ん

だ商店街である。

【取り組みの概要・経過】

2004年上古町まちづくり推進協議会を立ち上 げ、まちづくりを勉強しはじめたところ、「この街 は情報発信が足りない」ことに気づき、その第一歩 として「カミフルマーク」を作成。現在では、ホー ムページや各種イベントを通じて定着してきてい る。次に「上古町を知って頂く」ことを目的に情報 地図「カミフルチャンネル」の作成。2004年に 第1号を発行し、現在では第7号まで発行している。 また、空き店舗対策としてまちづくりの情報拠点「ワ タミチ」を開設 { ワタミチは元々渡道酒店という老 舗酒販店であったが、店主が高齢になり店を閉める ことを聞き、真向かいでTシャツ販売・デザイン店 を営む: 迫一成理事(もともとは地元 TMOが運営 するチャレンジショップの卒業生)が借り受け、コ ミュニティサロンスペースに活用 } そこを拠点に、 多種多様なイベントや文化教室を開催。その結果、 商店街を拠点とする新たなコミュニティが形成さ れ、街歩き観光も盛んとなり街に活力が生まれた。 また、長年の懸案だった来街者への「安心・安全・ 明るさ」の提供のため、環境整備事業も実施、平成 20年2月新潟市の中心市街地活性化基本計画の認

定を受け、アーケードの立て替え(総事業費約7億円・国と市より96%を補助)に踏み切った。完成時期は、平成21年3月予定で、その後歩車道の整備が予定されている。上古町商店街では、ソフトとハードの両面から商業集積地としての魅力を形成することにより、元気がある街を創出し、集客力の増強を図っている。

【取り組みの効果】

かつて新潟市の商業の中心地であった上古町商店街も衰退のため家賃が下がったことと、上町という古くからの雰囲気が残っていたことから、徐々に若者が出店するようになり、また、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商いの場の形成ができると思っている。これによって消費者に利用され、近隣の住民に愛され、地域コミュニティに寄与することができると思っております。

【今後の課題など】

上古町の今後の課題としては、①郊外大型店及び 百貨店等の商業施設との差別化、②周辺居住人口に 即した歩行者通行量・売上高の低迷に対する対策、 ③消費者ニーズに対応した業種構成の補完、④組合 の組織力、後継者育成の強化が挙げられる。

上古町は『温古知新』の精神が基本です。

- 人に温かいまち
- 古きよきまち
- ・心知り合うまち
- ・新しいことにチャレンジするまち 今後もこの理念を踏まえ、新しい事にどんどん チャレンジをして行きたい。

【新潟市上古町商店街振興組合】

所在地:新潟市中央区古町通三番町555番地

会員数:142名 店舗数:110店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://www.kamifuru.info/

【この商店街にこの人あり】



専務理事 酒井 幸男 いつまでも前向きに進んでいきたい。 Noと言わない街になりたい。

【うちの商店街、ここが自慢】

代表理事 金巻 保男(81歳)

専務理事 酒井 幸男(60歳)

理 事 迫 一成(30歳)

歳の違う3代の理事が各々の年代を越え、 上古町の商店街を想い、がんばっている。

商店街を舞台とした 「城下町高田花ロード」の開催!!

? ここがポイント

「城下町高田花ロード」は、花いっぱいの城下町を再現することを目指し、花をモチーフにした作品を広く内外に公募し、商店街の店先や碁盤状の道筋をその花の作品で飾るイベント。出展者に軒先を提供することで他地域の方とのコミニュケーションの広がりを獲得し、人が花を結び、花が人を結ぶ。



高田本町商店街

【取り組みの背景】

上越市・高田地区においても他地域と同様に、郊外への人口流出や、中心商店街にも空き店舗が増え、 人が滞留していない状況にあり、中心市街地の衰退が問題化していた。

そこで、城下町の特徴である碁盤の目のような街割りが残り趣きのある「辻」を舞台に、「市内外に城下町・高田をPRし、街に元気をとりもどそう!」という考えから、平成10年に商店街のおかみさんによる検討委員会を組織、平成11年10月に『第1回花でつくる城下町・高田』を開催。第2回目より『城下町・高田花ロード』に名称を変更した。春の観桜会、夏の七夕・祇園まつり・はすまつり、冬のレルヒ祭と並び、『城下町 高田花ロード』は店街が異空間に歳時記を彩るイベントとして、上越市の

秋を彩る観光イベントとして定着した。

【取り組みの概要・経過】

「城下町・高田花ロード」は、現在3つの商店街の連合組織ー本町3・4・5丁目商店街振興組合連合会のメンバーの有志約40名で組織する城下町高田花ロード実行委員会が主催し、上越市民に定着したイベントに成長したが、これまでの10年間、試行錯誤しながら様々な取り組みを行なってきた。

○地元出身のアートディレクター北川フラム氏を コーディネータに迎えて、イベントに芸術性を高め るとともに、近郊で開催される『越後・妻有 大地 の芸術祭』会場に出張PRに出かけた。

○JR東日本が行なうSL関連企画や『駅からハイキング』などの事業と連携し、花ロードの展示作品を鑑賞できるルートに誘導し、集客を図った。

○地域住民および団体との協力体制

地元の町内会や学校等に作品の展示場所の提供及 び出展参加を呼びかけた。また、花ロード期間中に実施される歩行者天国等のイベントや商店街周辺の地元の各種団体に依頼して、和楽器のコンサートやお茶会など商店街周辺の団体を巻き込んだ回遊性のあるイベントを演出した。以下は、その連携事例である。

・明治時代の西洋式建築が色濃く残る映画館を利用

した寄席やライブ「景観劇場」。

- ・旧商家の土蔵を利用した施設「高田小町」での盆 栽・折り紙展、昔の街並み写真展。
- ・あわゆき組&越後高田町家三昧をはじめとする染物 屋・麻糸問屋・桶職人などが営んでいた町家巡り。
- ・浄土真宗開祖親鸞聖人ゆかりの寺、浄興寺をはじめ、60余ヶ寺の寺院が建ち並ぶ寺町を巡回ルートに設定、NEO浄興寺プロジェクト、寺町まちづくり協議会が主催する和楽コンサート、あかりの小径などの事業実施。
- ・アート回廊・骨董市・食の広場などを開催しているお馬出しアート遊市との連携。
- ○空き店舗を利用し地元の物産を展示販売。

【取り組みの効果】

市街地は賑わいを取り戻し、空き缶やペットボトルを用いたエコ作品など環境をテーマにした作品も多い。メインイベントに関連して、合併した旧町村の芸能・文化面の紹介や、着物姿で巡回・子ども達のお菓子づくりなどの催しを募り、地域住民の交流の場を提供している。

3日間のイベントで、約5万人が商店街に訪れる ようになった。

【今後の課題など】

ここ数年、知名度も上がり地元周辺および首都圏を含めて遠方からの出展者・観光客も増え、一年を通して来街者の目を楽しませているが、10回目をイベントの節目として、今後の開催内容など、マンネリにならぬよう新たな展開を検討しなければならない時期となっている。



花ロード 2008 記録集表紙

【高田本町商店街】

所在地:新潟県上越市

会員数:3商店街 210店舗

(本町3~5丁目商店街)

商店街の類型:地域型商店街

関連 URL: 本町商店街ポータルサイト

「ホンチョウ ウェブ!」

http://joetsu.honcho.jp/





【うちの商店街、ここが自慢】

アーケードが高く、開放感があり、越後の 雪国としての暗いイメージはない、とても 明るい商店街である。

また、左右の歩道幅が、各4.5mとし、とても広く、ゆっくりと家族・お友達同士で会話を楽しみながら、ウィンドショッピングで、まち歩きが出来る。

城下町の特徴である碁盤の目の「辻」を大事にし、商店街を元気にしようとする、おかみさん達のパワーが自慢である。

商店街の真ん中に生まれた障害者就労支援の場 ~人·商店街·地域を生かした取組~!!

? ここがポイント

社会的弱者のための取組みであると同時に商店街活性化の担い手確保のための取組でもあり、社会福祉協議会などの福祉等団体と連携して、高齢化社会に対応。



上新町商店街

【取り組みの背景】

上新町商店街は、旧八尾町(現在は富山市と合併)の中心商店街として発展していたが、車社会の進展、消費者のライフスタイルの変化などにより、厳しい環境におかれていた。

全国的に有名な祭り「おわら風の盆」期間以外のにぎわい創出が課題であり、通年のにぎわいを目指し、平成15年からテントショップが並ぶ「なりひら風の市」を開催。そして、障害者の経済的基盤づくりを考えていた社会福祉法人「フォーレスト八尾会」と空き店舗に頭を悩ます商店街の意向が一致し、連携するに至った。

【取り組みの概要・経過】

○社会福祉法人と商店街が連携したコミュニティ

施設「工房 風のたより」:

商店街の目抜き通りの空き店舗を活用して、障害者の働く場であると同時に、観光客を呼び込むふれあいの場、地域の人たちの交流の場の機能を有するコミュニティ施設である「工房 風のたより」を、社会福祉法人が商店街と連携して平成16年3月にオープン。コミュニティ施設の運営を継続させるため、経済的基盤づくりの一環として、桑をテーマ(かつて当地は養蚕で栄えた)にした「フード(風土)づくり」事業の本格展開である、桑菓子工房(洋菓子店)を開設。施設には、土産品や菓子づくりなどの工房や製作した商品の販売、談話用喫茶コーナー、町の情報を発信するインフォメーションコーナーなどがある。

○観光物産館「風の館(やかた) なりひら」

商店街独自では、観光物産館「風の館 なりひら」を運営し、冬期を除き毎月開催しているテント市「なりひら風の市」とともに、通年観光の取組みを展開している。また、土産物品を中心に地元産品を全国発信するため、ウェブショップを運営し、ネット上でも通信販売を行っている。

この観光物産館も八尾町商工会のTMO構想に 基づいた空き店舗活用の一環であり、平成11年 から継続して運営されてきている。隣接して、実 験店舗や休憩所、美術館なども徐々に集積してき

富山県富山市

た。さらに、平成19年度からは周辺地区が調和を図った景観形成を進めることを目的として、市によって「まち並み修景等整備事業」の対象地区として指定され、ますます雰囲気の充実した地域となることが期待されている。

【取り組みの効果】

工房は、観光客が気軽に立ち寄れるふれあいと情報の拠点となり、商店街のイベントへの積極的な参加などにより、にぎわいづくりに効果をあげている。工房の活動がマスコミに取り上げられることにより、商店街の認知度が向上。また、地域の人たちの交流の場になり、まちづくりの話し合いが活発になるなど、活動拠点にもなっている。

【今後の課題など】

「おわら風の盆」開催期間(8月前夜祭、9月1日~3日開催)以外の通年の来街者、利用者の増加が必要である。

【上新町商店街

所在地:富山県富山市

(上新町商工振興協同組合)]

会員数:56名

店舗数:48店舗

商店街の類型:地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



井山 泰樹(中央)

(上新町商工振興協同組合理事長)

川倉 敏信(左)

(上新町商工振興協同組合前理事長、なりひら風の市実行委員長)

若い頃から商店街活動に積極的に関わり、 その長い経験を生かして、新しい取組を柔軟に受け入れ、実現化を図ってきた。

【うちの商店街、ここが自慢】

社会福祉法人と商店街が連携した「工房 風のたより」、観光物産館「風の館 なりひら」、定期市「なりひら風の市」で、通年の にぎわい創出へ。



カラフルなテントが立ち並ぶ「なりひら風の市」



「風の館 なりひら」



「工房 風のたより」

高岡版家守事業で空き店舗を再生!!

※家守事業:大家に代わり入居者の誘致や育成、マネジメントを行う

? ここがポイント

まちづくり会社が商店街の空き店舗対策に本格的に乗り出した。今後、商店街 全体のマネジメントを担い、所有と利用の分離へと発展させていく、そのきっか けとなるもの。



末広開発が管理、運営する再開発ビル 「ウイング・ウイング高岡」

【取り組みの背景】

中心商店街では、地場産業である工芸クラフトなどの展示ギャラリー、喫茶、交流サロンとして「わろんが」や工芸職人の実演コーナーのある「工房手わざ」など、空き店舗を活用した事業を行なってきた。しかしながら、個店をみると、店主の高齢化、後継者不足、経営不振等の理由により、空き店舗が増加傾向にある。これら空き店舗は所有者の賃貸の意志が全くないものもあるが、改修費用等資金面で貸せない理由を持つものも多い。

こういった空き店舗の解消を図るためには、単なる出店者への支援だけではなく、店舗併用住宅でもともと商売されていた方の閉店後の店舗を賃貸可能物件へと改修するとともにし、こういった

物件を増やすことが重要であり、その対策が必要。 そこで、中心市街地のまちづくりを担う、まちづくり会社がその対策に乗り出すこととなった。

2009年は市が開町400年を迎える年であり、にぎわい創出にむけたイベントにも力を入れているところである。

【取り組みの概要・経過】

高岡市や高岡商工会議所と連携し、高岡版家守事業と称し、本格的に空き店舗再生事業に乗り出すこととなった。その第一弾事業として、公益法人(財団法人高岡地域地場産業センター)のアンテナショップを開設した。(平成20年12月11日オープン)

高岡版家守事業の仕組み:

- ○5年間入居することを条件に、大家に対して店舗併用住宅の賃貸物件向け改修を促すとともに、賃料引き下げを依頼。(市の開業支援制度を活用)
- ○入居者(今回の事業では、公益法人)は、高岡市の中心市街地活性化基本計画で取り組んでいる方針に則り、高岡のものづくり文化を反映した国内外で評価の高い最新のクラフトを取り扱うショップ「D.front」を開設。(県の支

援制度を活用)

- ○まちづくり会社は、大家、入居者の出店相談等 に応じるとともに、入居者の改修費を一時的に 負担することにより、入居者の初期投資費用を 圧縮。
- ○大家及びまちづくり会社は、入居者の一定期間 (5年間)の入居により、初期投資費用の回収 は可能。

こうした仕組みを構築し、中心市街地の空き店舗を再生するため、大家と入居者の間にまちづくり会社が介在することにより、容易に出店できる環境を生み出す。

その第一弾事業として、「高岡らしい」まちづくりを進めるため、高岡の伝統・地場産業であるクラフトに関するオンリーワン、ナンバーワンの店舗を開設した。これを契機に、今後、商店街の空き店舗再生に向けたスピードアップを図っていく。



最新クラフトショップ 「D.front」

【取り組みの効果】

実質的な空き店舗の解消と高岡らしい店舗の 創出を実現。

【今後の課題など】

他の空き店舗へ波及できるよう、他の空き店舗再生システムも勘案しながら、継続・発展的に取り組んでいくことが必要。

【末広開発㈱ (まちづくり会社)】

所在地:富山県高岡市

資本金: 4億5600万円

店舗数:173店舗(中心4商店街)

商店街の類型:広域型商店街 URL://www.takaoka-st.jp/

【この商店街にこの人あり】



中村 降

(末広開発株式会社 まちづくり事業部部長) まちづくり会社は、会議所、市内企業等からの出向者も含め、総勢11名で構成され、 商店街や行政との連携を密にし、各種イベントの開催や空き店舗への開業支援等、多 方面にわたり活動している。そのまちづく り事業を積極的に展開する牽引役となっているのが、中村氏である。

【うちの商店街、ここが自慢】

大がかりなイベント開催から空き店舗の開業支援まで、商店街活性化に向けた様々な事業の推進役となるまちづくり会社の担う役割は大きく、高岡の中心市街地のまちづくりのコアを担う存在である。

武蔵に四つ葉を育てりっぱな花を咲かせよう ~「近江町いちば館」の誕生で

武蔵周辺がにぎわいスポットに~!!



近江町再開発を契機として、マンション新住民を呼び込む、地域ぐるみで組織を立ち上げるなど、にぎわい創出、再生への機運が高まる。



近江町再開発事業 完成間近

【取り組みの背景】

武蔵地区商店街は、武蔵ヶ辻交差点を中心に四つのブロックで構成された、金沢市中心市街地の片翼を担う一大商業集積地となっている。近年、周辺に住居・商業複合ビルやホテルが建設され、隣接する近江町市場再開発ビルの完成により、武蔵ヶ辻の四つ角が数十年ぶりに揃い芽ができた。地下道の改造工事も行なわれ、地下道を通じて交互に行き交うことができるなど、武蔵地区の活力向上が期待されている。これに呼応して自分たちの地域を自分たちで再生しようという機運が盛り上がる。

【取り組みの概要・経過】

○[近江町いちば館] の誕生

「金沢市民の台所」と呼ばれる近江町市場で長い年月をかけて取組んできた再開発ビルが完成した。所有と利用を分離し、新たなテナントや公共施設も加わり、ますます利便性が高まる。(平成21年春グランドオープン)また、施設オープンに合わせ、近江町市場では、これまで日曜日を定休日にしていたところ、来街者ニーズに対応し、日曜日営業をスタートさせた。

○「武蔵にぎわいラボ」発足

再開発ビル1階のアトリウム(中庭)整備、地下道「むさしクロスピア」の広場や隣接の百貨店との連絡通路沿いにショーケースを設置するなど、滞留性と回遊性を高めるためのハード整備を行なっている。(平成21年春完成)

この新たに誕生する中庭や地下広場などの効果的活用を検討するため、「武蔵にぎわいラボ」と称する組織を発足させた。周辺商店街組織、地区町会連合会などが参加し、地域ぐるみで活性化に取り組んでいく。

○地域コミュニティ機能の強化

近年、近隣や地区内にマンションの立地が相次

ぐ中、武蔵商店街と尾張町商店街が主導で、地区の商店街にも声かけをし、マンションの新住民に対して、地域コミュニティの重要な担い手としての商店街をアピールするとともに、商店街やお店に足を運んでもらえるよう、集い交流するイベント「武蔵北國街道ふくろう縁日」を実施。各店自慢の逸品等の販売やステージパフォーマンス等で盛り上げている。

【取り組みの効果】

・近江町の日曜営業開始により、武蔵地区の商店 や商業施設にも日曜営業の影響、にぎわいが波 及している。

(来街者調査データ(平成20年10月)では、金曜日は12,000人、土曜日は16,000人であったが、日曜営業開始日の12月7日はイベントの実施や積極的PRの効果もあり、20,000人を超えるものであった。これまでは、来街者のうち、観光客が約3割を占めていたが、12月7日は8割が市内からの来街であり、近江町市場商店街振興組合が実施した新聞、TV、バス広告などの広報効果が高かったと言える。)

ふくろう縁日の共同開催とマンション住民(新住民)への働きかけで、個店への問い合わせや 商店街での利用者が増加している。

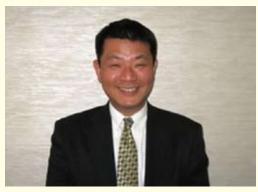
【今後の課題など】

武蔵にぎわいうボが近江町再開発事業を機に、 にぎわい創出に向けた取り組みを具体化していく のはこれからである。近江町市場の足元のみなら ず、各商店街へ足を運んでもらえるような取り組 みにつなげていくことが必要である。 【武蔵地区商店街(武蔵商店街、近 江町市場商店街、尾張町商店街、 横安江町商店街、彦三商店街)】

所在地:石川県金沢市 会員数:363名 店舗数:363店舗

商店街の類型:広域・地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



中島 祥博 (武蔵活性化協議会 会長、武蔵にぎわいう ボ 会長、武蔵商店街振興組合 理事長)

近隣の商店街との連携協働を働きかけ、武 蔵地区一体とした広域的商店街でまちの活 性化に果敢に挑戦。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街が良きコーディネーターとなり、地域の人たちとの交流や他商店街との連携協働などに団結して取り組むことによって人の輪が出来上がっており、商店街・地域の賑わい創出と活性化に積極的に取り組んでいる。

観光・漆器産業との協調による、 歴史と文化に出会えるまちづくり!!

? ここがポイント

観光資源を活用し、一店舗2業種展開といった個店の経営努力により、個店の 魅力向上を図っている。



山中温泉南町ゆげ街道

【取り組みの背景】

開湯1300年を誇り、古くから湯治客に愛される温泉街として発展してきたが、モータリゼーション化のなか、道幅も狭く歩道も未整備であったため、危機感をもった沿道の商店主らが「南町ゆげ街道振興会」を組織し、平成5年頃より道路拡張工事に合わせ沿道の街並みの一体的な整備の検討が進められ、平成15年に「南町ゆげ街道」がオープニングを迎えた。(平成14年6月にまちづくり月間 国土交通大臣賞、平成16年10月に都市景観大賞を受賞)

この街並み整備に際し、山間の温泉地商店街の厳しい 状況を打開すべく、商店街に観光客を呼び込む取り組み を始めた。

【取り組みの概要・経過】

○1店舗2業種展開

地元基幹産業である観光・漆器産業と協調した個性的な商店街づくりに向け、商店街の営業方針として山中漆器を中心に一店舗2業種事業を展開し、地元の人にも親しまれ、観光客の方にも自分の家に帰ってきたような、ほっとした気持ちにさせる商店街を目指している。

例として「山中漆器と加賀漬物」、「オルゴールと山中 漆器」、「酒類と山中漆器、喫茶」、「八百屋とペーパーク ラフト」など。

○商店街のギャラリー化

山中漆器や山中節という伝統工芸・伝統芸能にまちなかで触れられるよう、商店街のギャラリー化に取り組んでいる。景観形成自主基準を設定し、建物の高さ制限・カラー統一した和風の店舗づくりを行った。

○観光拠点施設「山中座」

平成9年度より、商店街空き店舗対策モデル事業として、「山中節の館」を期間限定にて実験店舗として開設。その後、常設館としての要望が高まり、平成14年11月に山中町が場所を元湯の旅館跡に移すとともにロビーを山中漆器の粋を集めたしつらえとし、観光インフォメーション機能も備えた「山中座」を設け伝統芸能「山中節四季の舞」が上演されている。「山中座」は山中温泉のシンボルである菊の湯と相対し、山中温泉の中心に位置し温泉街活性化の核となっている。また、今年で5回を数える山中節道中流しが山中座を中心に催されている。

○ゆげ街道花の道事業

10月14日より11月5日まで、ゆげ街道一円にハン

ギングバケット作品などを約100点並べ、また年末・年 始にはミニ門松を店頭に並べるゆげ街道花の道事業など に取り組んでいる。

○エコポイントカード事業

山中商工会が取り組んでいる、エコとポイントをミックスしたポイントカード事業に積極的に参加している。

さらに、商店街の枠を超え、山中地区をはじめ山代、 大聖寺、片山津、動橋などから若手店主が集まりお互い の店舗の魅力を情報発信し、加賀地区一円にその輪を拡 げるための方策の検討を始めた。

【取り組みの効果】

商店街を散策する観光客が増加しており、その半数近くがゆげ街道を訪れている。南町ゆげ街道の歩行者の通行量をみると、平成20年は平成10年に比べ約2.5倍に増えている。

【今後の課題など】

ハード面では一応完成したが、今後はソフト面の充実 が課題



【山中温泉南町ゆげ街道振興会】

所在地:石川県加賀市

会員数:28名

店舗数:25店舗

商店街の類型:(観光型)商店街

【この商店街にこの人あり】





櫻井比呂之(左)

(南町ゆげ街道整備協議会会長、観光物産販売) 久保出久一(右)

(南町ゆげ街道振興会前会長、酒店経営)

「行政を引き込むしっかりしたコンセプトと、顧客と接する機会の多いおかみさんの力が重要」との考えのもと、活性化事業の推進役を担っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

山中温泉の名勝地「こおろぎ橋」と「あやとりはし」の間にあり、ゆっくりゆったりと散策できる商店街。(景観形成自主基準の制定、一店舗2業種によるおもてなし)山中温泉にゆっくりと滞在していただき、豊かな自然と温泉で心も体も癒し、商店街を散策する事により元気を取り戻す、そんな温泉観光地を観光業者と共に目指します。

話題性を活かした多彩な活動による 商店街の活性化!!

? ここがポイント

「市民参加で、人の集まる商店街を!」を合言葉に、さまざまな活動を展開。



小浜駅通り商店街(はまかぜ通り商店街)

【取り組みの背景】

小浜駅通り商店街(通称「はまかぜ通り商店街)は、かつては活況を呈した商店街であるが、近年は郊外の大型小売店との競合等により、商店街を歩く人も減り、空き店舗も増えている状況である。

このような中で、商店街はいろいろな活動を実施しているが、平成20年は、日本でも注目を集めたアメリカ大統領選挙の候補者であった「オバマ氏」と発音が同じという縁で、有志により立ち上がった「オバマ候補を勝手に応援する会」(現在は「オバマを勝手に応援する会」に名称変更)や、小浜を舞台としたNHK連続ドラマ「ちりとてちん」の人気を活かし、活性化に取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

平成18年、旅館を改装して商店街の活動拠点となる多目的空間「はまかぜプラザ」がオープン。この「はまかぜプラザ」では、当初から定期的にアマチュアバンドの演奏会「はまかぜライブ」を実施しているほか、組合員や一般に対して会場の貸し出しも行っている。

また平成19年には、社会福祉協議会や医療専門学校の学生などと協力し、福祉によるまちづくりイベント「やさしさいっぱい!まちなか夢通り」を開催した。

平成20年には、NHK連続テレビ小説「ちりとてちん」の効果で観光客が増えているのを受け、期間限定でみやげ物屋「若狭屋」を開設した。この店舗は商店街内の空き店舗を活用したもので、ドラマに関連した若狭塗り箸や、ドラマのロゴ入りの和菓子といったドラマ関連のグッズや、「オバマ候補を勝手に応援する会」の特製Tシャツなども販売した。

また、平成20年からは、「はまかぜプラザ」で落語の寄席を定期的に開催するなど、商店街のにぎわいづくりに取り組んでいる。

【取り組みの効果】

観光客がみやげ物を購入できるスペースがない という要望にこたえて「若狭屋」を開設するなど、 商店街自らが観光客の受け入れ体制を整え、また 誘致するための取組みを進めており、その結果、 多くの観光客が商店街を訪れるようになった。

【今後の課題など】

「ちりとてちん」や「オバマ候補を勝手に応援する会」による話題性を活かし、今後も継続した観光客の誘致を図るため、定期的な寄席の開催や関連グッズの販売などで、「行って良かった。」と思ってもらえるように、他の団体と連携して地域ぐるみで商店街の活性化に取り組む必要がある。



(学生との連携イベント 伝統工芸のまちなか eco 活動)



(はまかぜライブ)

【小浜駅通り商店街

(通称はまかぜ通り商店街)]

所在地:福井県小浜市

会員数:86名

店舗数:100店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:http://www.hamakaze-st.net/

【この商店街にこの人あり】



木下 弘明さん (小浜駅通り商店街振興組合理事長) 小浜市の玄関口の商店街を市民からも、観 光からも満足していただけるように、さま ざまなイベントを開催し、注目を集めてい る。

【うちの商店街、ここが自慢】

「ちりとてちん」、「オバマ候補を勝手に応援 する会」により、まちの活性化の気運が高 まっている。

4つの商店街の連携による まちなかの活性化!!

? ここがポイント

中心市街地の4つの商店街が「まちなか商店街」を組織し、一体となって商店街の活性化に取り組む。



(壱の市でにぎわう様子) 越前市まちなか商店街

【取り組みの背景】

越前市は、JR武生駅を中心とするまちである。 武生駅周辺の中心市街地は、かつては丹南地域の 商業の中心地として栄えたが、現在は大型小売店 との競合等により商店街を取り巻く環境が変化 し、来街者数が減少するなど厳しい状況にある。

平成19年、越前市が中心市街地活性化基本計画の認定を受けたことから、中心市街地の中にある古い土蔵が立ち並ぶ「蔵の辻」周辺の4つの商店街は、これを再生のラストチャンスととらえ「まちなか商店街」を組織し、県の「商店街元気再生計画」の認定を受けて活性化に取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

「蔵の辻」では、地元商店主や地域住民で構成される実行委員会の主催により、「昭和浪漫」をテーマとして骨董市やフリーマーケット、またライブなどが行われる「壱の市」が毎月定期的に開催され、にぎわいを見せている。

「まちなか商店街」は「壱の市」と連携し、スタンプラリーや空き店舗を利用した無料休憩所の設置、地域の歴史や文化を紹介する「まちなかサロン」の開設など、「壱の市」への来街者が商店街を回遊するための事業を実施している。

また、平成20年に商工会議所、武生商店街連盟が「蔵の辻」近くにオープンした「まちなかプラザ」の運営に協力もしている。「まちなかプラザ」は空き店舗を活用したもので、観光客に対する情報発信や食品・工芸品の物産販売、無料休憩所などの機能を持っている。

他にも商店街の後継者を育成するための商人塾 を開催し、商店街をリードする新たな集団の組織 化に取り組んでいる。

【取り組みの効果】

4つの商店街が連携しての「まちなか商店街」 の取り組みから1年が経過した現在、徐々にでは あるが集客力が高まってきている。

【今後の課題など】

「壱の市」と「まちなか商店街」の連携をさら に高めるとともに、来街者を商店街に回遊させる ための仕掛けづくりをさらに強化する必要がある。

また、商店街の周辺の神社仏閣や大正、昭和初 期の趣きを残す町家を活かしたにぎわいづくりを 進める必要がある。



(スタンプラリー)



(「まちなかプラザ」)

【越前市まちなか商店街】

所在地:福井県越前市

(中央広小路商店街振興組合、蓬莱本町商店 街振興組合、総社通り商店街振興組合、善

光寺通り商店街振興組合)

会員数:141名 店舗数:131店舗

商店街の類型:地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



三谷 勇二さん

(「越前市まちなか商店街」を構成する蓬莱 本町商店街振興組合理事長)

越前市中心部商店街を再び元気な商店街に したいとの強い思いから、商店街の連携、 若手の人材育成、賑わい創出事業など数々 の事業の仕掛人として活躍中。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・商店街の歴史も古く、土蔵や町屋といっ た古い建物がそのまま店舗になっている など、老舗が多い。
- ・商店街の周辺には、神社・仏閣が多く、明治、大正、昭和の初期に建築された建物も多数残っているなど、歴史的資源に恵まれている。

「平成の古都」と名付けられた 美しい和風の街並み

? ここがポイント

個人的な利害よりも街の将来像を優先させようという住民の思いが街作りを成功させ、商店街を活性化へと導いた。



身延駅前しょうにん通り商店街

【取り組みの背景】

身延町は日蓮宗総本山である身延山久遠寺を擁する門前町であり、その玄関口である身延駅周辺の商店街も身延駅前通り商店街として賑わいを見せていた。世の中がマイカー時代に変わり鉄道利用者が激減する中で、身延山を中心にした参詣者や観光客が目的地まで車で訪れるようになったが、商店街の通りは道幅が狭いうえ歩道が無く、また電柱が犇めき合い、駐車スペースが少ないなど自動車に対応しているとは言いがたい状態であったため利用者や売上が減少していった。

【取り組みの概要・経過】

昭和50年代から商業者が中心になり、行政に

対して駅前地域再開発を陳情していたところ、昭和61年に行政より区画整理事業の提案があった。 2年間に亘る住民同士の議論の結果、「個人的な利害よりも街の将来を優先して考えよう」と意見が一致し、100%の同意により事業がスタートした。

統一した街並み形成を目指し、住民同士の紳士協定として「和風」をコンセプトにした10項目の建築申し合わせ項目を定めた。①和風をイメージした建築、②屋根は瓦風に、③色彩は白灰色黒の範囲で、④壁の一部になまこ壁を、⑤各戸に家紋を、等々。

足掛け12年の歳月をかけ、平成9年「平成の 古都」と名付けた美しい和風の街並みが完成した。 駅前広場、ポケットパーク、駐車場、来街者の ための無料休憩所も建設し、人力車も復活させた。



我が国初の郵便ポストを再現

【取り組みの効果】

ばらつきのあった風景が統一され、また段差解消によるバリアフリーや人力車サービスなど年配者に優しい町並みとなった。

また、作り直した町並みのため、シャッターを 閉めている商店が少ないことも功を奏している。 全国各地からの視察者は後を絶たず、各商店は不 景気風も一向に気にせず元気に営業を行っている。 平成13年には「平成の古都づくり」が認められ 国土庁長官賞を受賞した。

【今後の課題など】

身延バイパスが開通したことから商店街をスルーして身延山へ行くマイカー利用者が増加傾向にある。さらに中部横断自動車道身延インターチェンジが商店街南部にも予定され、また、対岸にある国指定重要文化財・大野山本遠寺が5年の歳月をかけ修復を完了、身延山久遠寺の五重塔も完成と明るい話題も多く、商店街を通って身延山へ向かうマイカー利用者をどれだけ呼び込むことができるかが課題となる。



万灯講まつりの様子

【身延駅前しょうにん通り

商業協同組合】

所在地:山梨県南巨摩郡身延町

会員数:37名 店舗数:29店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:http://www.chuokai-yamanashi.o

r.jp/kumiai/minobu/

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・自然を背景にした和風の街の美しさ
- ・歩道上にワイン樽のフラワーポットを並べ、季節ごとに花を絶やさないよう植え替えている。
- ・希望に応じての人力車の運行
- ・「願い橋」・「叶え橋」での絵馬祈願
- · さくら祭り
- ・ザ・しょうにんまつり
- 万灯講まつり
- ・駅前広場やポケットパークの清掃を女性 部が当番制で担当、環境美化に努めてい る。
- ・しょうにん会館を開放して、地域の絵画 教室やパソコン教室として利用されてい る。



願い橋



しょうにん会館

全国初商店街カードと 行政・金融が連携し地域貢献!!

? ここがポイント

ICカードによる電子マネーからスタートし、住基カードとの連携で商業振興から地域貢献に寄与、行政区・地域を越えたカード連携展開で消費者の利便性を追求。



つれてってカード

【取り組みの背景】

平成5年駒ヶ根市に全国規模の郊外型大店舗が出店 し、その影響で地元商店の売上げ低迷が続き後継者不 足・閉店が続いた。

当時、証紙と台紙のスタンプ方式で運営していた駒ヶ根スタンプ協同組合は翌年の平成6年から地域商店街の情報化対策を検討するため、「カード研究委員会」を発足。

全国各地のカード事例を研究し、IT化への対応と地域 通貨としてのカード運営に着手した。結果、英国スゥ インドンで世界初のネット型カードマネーとして開発さ れたシステムを基本に、国内初の電子マネーを地域行 政と地元金融機関と協力しICカードにより構築。地元 商店結束の必要性、地域消費者へのサービスアップ、 新規顧客創造のためカードによる情報化をスタート。

【取り組みの概要・経過】

平成8年10月、駒ヶ根市全域の商店を網羅する加盟店とICカードシステムでスタート。2年後の平成10年には近隣の飯島町のスタンプ組合と合併、組合名称も広域性を考慮し「つれてってカード協同組合」に変更、翌年には近隣の中川村スタンプ組合とも合併した。

組合の利用地域拡大と共に行政窓口や公共機関(病院・文化施設・温泉・交通機関)でのカード利用を可能とし、地域内での汎用通貨として利用者の利便性向上に努めた。

また、地域金融機関との連携により電子マネーであるプリペイドの利用が地域の消費者に定着し、地域内の資金循環が活発になった。

平成14年にはIT装備都市実験事業にてシステムをリニューアルし、行政での福祉サービス及び文書管理システムを搭載。更に平成19年の第2次のリニューアルからは、関係市町村の発行する住民基本台帳カードへ「商店街カード機能」を搭載した「多機能型つれてってカード」を発行した。

さらに20年からは近接する伊那市で同様に展開す

長野県駒ヶ根市飯島町・中川村

る「い~なちゃんカード」とも利用提携を開始し、伊 南4市町村全てで利用者がどのカードでも共通のポイ ント・プリペイドサービスが享受可能になった。

【取り組みの効果】

確度の高い利用者情報の把握により、利用地域内の 商店街の情報分析を可能にした。

地域商店街の連携と行政・金融のタイアップ効果で地域商店街が活性化した。

加盟店と組合の強固な結束で消費者のカード利用率が毎年向上し続けている。

【今後の課題など】

カード情報の利用推進で商店街の後継者育成に繋がる加盟店のスキルアップ。

エコポイント導入による地域貢献を行政・金融・商店街で協力推進する。

住基カードとの連携で全国規模での商店街提携カードサービスを試みる。

=地域内における戦略的連携の構築=

分析した情報を顧客サービスにフィードバックし、組織の能力を向上させる。

個々の組合員(個店・加盟店)での売上増、利用者へのサービス向上を組織として集約・分析し、来街者のイメージ顧客を創造する。

ポイントを購買に利用し、商店街繁栄から組織力向上を行い更に地域貢献に繋げてゆく。

=具体的な方策=

利便性向上:電子マネー利用

情報収集・活用:カード利用

コスト削減: クレジット一括処理

組織力強化:商店街向けWEBサイト

地域連携:地域内関係組織との協力

地域の課題解決:環境保全、エコポイント

発進力強化:ホームページの活用 売上げ増進:インターネット販売

【つれてってカード協同組合】

所在地:長野県駒ヶ根市・飯島町・中川村

会員数:183名 店舗数:175店舗

商店街の類型:近隣型商店街 URL:http://www.turetette.jp/

【この商店街にこの人あり】



矢澤理事長の似顔絵 (実物は?) お客様視点で、I Cカードの立ち上げから・・ 地域を越えた連携カードシステム構築の リーダーとして活躍。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・「いつでもどこでもつれてって」をキャッチフレーズに、地域内での汎用価値としてカードを推進。地域商店街は組織力が全てです。
- ・地域内の関係組織の連携・協力が商店街 を活性化しています。
- ・利用者の声に応え、地域貢献の輪を拡大していきます。

地域住民の利益が優先、地域密着 顧客創造型商店街づくり!!

? ここがポイント

「手作り・手仕事・技の街。地域と共存し、共に生き、働き、暮らす街をつくる」 をコンセプトに、商店の利益より地域住民の利益を考えた地域密着顧客創造型商 店街。



地域コミュニティ施設「おいでなん処」

【取り組みの背景】

昭和40年代から道路拡幅や防災建築街区造成 事業指定を受け、商店街近代化がすすむ中で店舗 集積と繁栄が続いていたが、上信越自動車道整備 と平成9年の長野新幹線佐久平駅開業による周辺 地区の商業集積がはじまり、岩村田地区から大型 店が移転するなど、平成10年以降急速に賑わい の中心移動が進んだ。

その地殻変動が始まりつつある平成8年、危機感を感じた若手経営者・後継者により商店街組織改革の機運が高まり、当時、理事の平均年齢が36.7歳という全国で最も若い振興組合が誕生。地域密着顧客創造型商店街を目指して各種取組を始めた。

【取り組みの概要・経過】

- ・H14年 地域に公民館がなかったため、地域 住民とのコミュニケーションの場として、空き店 舗を活用した地域コミュニティ施設「おいでなん 処」を開設。
- ・H15年 近隣の大型スーパーが移転し生鮮三品を買える店舗が無くなったため、空き店舗を活用し振興組合直営の地域密着型食料品店舗「本町おかず市場」を開設。
- ・H16年 商店街のコンセプト「手作り、手仕事、技の街」をもとに、空き店舗を活用したチャレンジショップ「手仕事村」を開設。
- ・H18年 「安心して子育てができる街」をコンセプトとして、空き店舗を活用し商店街としては全国初の「子育て村」を開村。協賛店から会員へ各種サービス・特典を提供するほか、商店街のプロの技を活かした体験講座型イベントを開催するなど子育て世代への支援事業を行っている。



・H21年 子育で支援と空き店舗活用の一環として、地元の学習塾に運営を委託し、「自主学習ができる子どもを育てる」をコンセプトに、小学生を対象とした基礎学力を身に付けるための学習塾「岩村田寺子屋塾」を開校。

【取り組みの効果】

「おいでなん処」は買い物の休憩場だけではなく、 地域のサークル活動・イベント・催事等、地域住民 との交流の場として多くの人に利用されている。

「おかず市場」は、商店街における生鮮三品の 供給不足を補うだけでなく、お客とのコミュニケーションを図ることで、商店街の核としての役割 を果たす。店舗づくりや資金繰りなどの財務についての勉強会を積み重ねたことで、組合員同士の 一体感や責任感が醸成された。

「手仕事村」の卒業生がいずれも街区内の空き 店舗に独立開業したことで、空き店舗が一気に埋ま った。また、若い創業者による新しい業種業態がで きることで、商店街のリフレッシュにも繋がる。

「子育て村」はマスコミにも注目され、商店街のイメージアップに繋がった。また、協賛店においては、子育で支援に視点を当てた自店の商品やサービスについての情報発信をすることにより、消費者との繋がりを深められた。

【今後の課題など】

- ・「歴史まちづくり法」を活用した歴史と文化の まちづくり構想を地元佐久市と協議。安全・安心 に住めるまちづくりと地域とともに生き、魅力あ る店の集合体としての商店街をめざしている。
- ・魅力ある商店街とは、いかに魅力ある集合体であるかということに尽きる。魅力ある商店街づくりのためには、個店が個々の魅力を高める必要があり、そのための勉強を常に欠かさないことが大切である。

【岩村田本町商店街振興組合】

所在地:長野県佐久市

会員数:59名 店舗数:47店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:http://www.iwamurada.com/index.

html

【この商店街にこの人あり】



岩村田本町商店街振興組合 理事長 (長野県商店街振興組合連合会理事長) 阿部 眞一

自分達の商店街は自分達で創っていく、経営していく心構え、物事を具現化する実務能力、そして、実践実行という行動力により、地域と共存し、共に生き、働き、暮らす街をめざしております。

【うちの商店街、ここが自慢】

・「おいでなん処」「本町おかず市場」 「手仕事村」「子育て村」など、商店街 が地域のために開設する各施設。



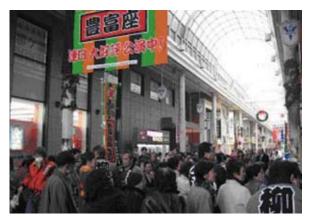
↑チャレンジショップ「手仕事村」

柳ケ瀬 新生!!

~「大衆演劇の街」に一新へ~

? ここがポイント

活性化を担うキーパーソンが率いる広域商店街。組織改革や個店経営強化など次々と着手してきた。新生「柳ヶ瀬」を目指し、大衆演劇を核とした取組始動。



岐阜柳ヶ瀬商店街

【取り組みの背景】

柳ヶ瀬商店街のメイン通り「柳ヶ瀬本通り」に、 平成19年12月に大衆演劇場「豊富座」がオープンした。明治時代に芝居小屋として創設され、 平成14年に閉鎖された映画館を改装し、大衆演劇場に再生。月替わりで公演する劇団目当てに、 女性を中心に県外からも多くのファンが柳ヶ瀬商店街を訪問するようになった。この集客を商店街活性化につなげようという動きが出始めている。

【取り組みの概要・経過】

○実践セミナーで売上げアップ

商店街を活性化させるには、一つ一つの個店も がんばらないといけないとの思いから、個店の意 識改革を進め、個店に力をつけてもらおうと、実 践セミナーを開催。有料参加とし、真にやる気のある店主に参加を呼びかけたところ、実践セミナーで学んだPOPで、販売力アップにつながった店(パン屋、美容院など)が出るなど、セミナー効果が出てきている。

○大衆演劇(劇団)との連携

さまざまな商店街のイベントにおいて、公演中の劇団員が踊りの披露や練り歩きなどを行い、商店街を大いに盛り上げている。また、幟や公演チラシの掲示など商店街が劇場(劇団)を支援。さらに、商店街は、大衆演劇(劇団)を核にして、集客を高めるため、大衆演劇祭などの継続的な取組みを企画している。



○無料情報誌の発行

柳ヶ瀬地区で活動する市民グループ (ひとひとの会) が、劇場にやってくるお客に商店街利用を

促進するため、観劇客の視点による商店街マップを作成・配布し、観覧客に個店へ足を運んでもらえるよう誘っている。このマップ作りは行政支援を得ず、自主採算で行なえるよう個店をスポンサーとしており、個店に対しては、マップを活用していかに情報発信するかなどアドバイスをし、個店情報を充実させることで商店街全体の魅力を高める工夫をしている。ひとひとの会は、商店街にとって強力な助っ人である。

○情報ステーション

平成20年には、財団法人岐阜市にぎわいまち公社が、柳ヶ瀬本通りに空き店舗を活用した情報発信拠点「柳ヶ瀬あい愛ステーション」を開設した。安心して遊べる親子ふれあいスペースや買い物途中での休憩コーナー、ギャラリースペースを備え、コミュニティ機能を増進している。

【取り組みの効果】

豊富座による集客効果を活用しようと、個店単位でも関連商品を売り込む動きが出てきている。 このような中、行政、商店主、専門家などの構成による「柳ヶ瀬本通り千客万来計画準備会」と銘打ち、平成20年12月に組織を発足し、大衆演劇場を核としたまちづくりに取り組んでいる。

【今後の課題など】

豊富座の観客のニーズを踏まえた商品やサービスの提供を充実し、集客効果を十分に活用することが必要である。





芝居小屋の装飾を考案中のアーケードと通り

【岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会】

所在地: 岐阜県岐阜市 会員数: 420名

商店街の類型:広域型商店街

【この商店街にこの人あり】



辻 英二

(岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 理事長) 理事長就任後の最初の仕事が、連合会の組織改革 に乗り出したことである。事業委員会、財務委員会 など5つの委員会を設置し、責任と役割を明確に するため、組織体制を整備した。次ぎに、個店の意 識改革を進め、個店に力をつけるため、実践セミ ナーを開催。有料参加とし、真にやる気のある店 主へ参加を呼びかけた。売上げアップにつながっ た店を例に、多くのお金をかけずに、ちょっとした 工夫で経営力強化につながることを理事長自ら 自信をもって語る。また、これまで大型店に頼りき りであったイベントも連合会が主体となって開催 するようになった。市民グループとも良好な関係 を構築し、マップ作成など商店街活動をサポート してもらっている。現在、大衆演劇場(豊富座)を核 とした商店街活性化に向け、アーケード入り口に 芝居小屋をイメージした装飾を施し、通り一帯に は歌舞伎幕や提灯を飾り、回遊性を高めるために 歩道には役者の手形を押したブロックを各所に配 するなど通り一帯を大衆演劇色で染めるといった 構想を持っており、今後、商店街関係者等ともに、 検討・具体化していく。「通りのコンセプトを明確 に打ち出し、全国にも例のない大衆演劇ストリー トとしてお客さんを呼び込みたい」と熱意をもっ て取り組んでいる、多くの会員を率いる、柳ヶ瀬商 店街の牽引者、まとめ役を担う人物である。

市民の交流の場となる 「まちひとぷら座かんかこかん」!!

? ここがポイント

地域の力を得て、子育て支援・交流の場や商店街、NPO、市民グループの交流・ 育成の場として、コミュニティ機能の役割を果たしている。



高山市商店街

【取り組みの背景】

「増える空き店舗の効果的な利用方法」、「少 子高齢化社会への適切な対応」、「福祉観光都市 として、全国に誇れるバリアフリーの街づくりの 実現」といった諸課題に対応することを目的に、 高山市商店街振興組合連合会が中心となり、行 政・NPO団体や市民グループと協働して、子育 で支援や情報発信、市民の交流の場となる「まち ひとぷら座かんかこかん」を、商店街の拠点とし て空き店舗の活用により設置することとなった。

【取り組みの概要・経過】

「まちひとぷら座かんかこかん」は、高山市商店街振興組合連合会が中心となり、行政・NPO団体や市民グループと協力して運営することにより、子育て支援や情報発信、交流の場として定着している。また、買い物客や観光時における、児童の一時預かりといった各種コミュニティビジネスの試みがなされるなど、まちのコミュニティ機能を担う、商店街の新たな取り組みとして実績をあげている。

「かんかこかん」の3つの柱。

- ① 「こどもひろば」
- ・子どもたちの交流スペースとして利用されている。(厚生労働省・つどいの広場事業の支援あり)
- ・ "みんなで子育て!" を信条に、赤ちゃんから、こども、お母さん、お父さん、おばあちゃんまで、いろいろな年代の人が交流。小学生も放課後や土日に集う。日本の昔遊び(折り紙、こま回し、羽根つきなど)を、スタッフと一緒にやっていることも多い。
- ・「食育のはなし」、「乳幼児教室」、「ベビーマッサージ」などの講座を随時開催。
- ・観光客の授乳や、おむつ換えの場所としても重宝されている。

- ②『まちのくらし情報ひろば』
- ・生活情報から観光情報までを発信する、「まちの大きな掲示板」のようなところ。有料でインターネットもできるようになっており、一般市民、観光客、外国の方々によく利用されている。
- ・「金曜野菜市」開催: 有機栽培の野菜販売
- ・電動カー、車椅子、ベビーカーの貸し出し
- ③『まちづくりひろば』(主に2階のスペース)
- ・講習会、講演会、寺子屋かんかこかん、各種会 合などに利用されている。
- ・様々なまちづくりに関わる市民活動グループや 団体の交流拠点。市民活動グループのつなぎ役 としての組織「飛騨まちづくり本舗」が、「ま ちづくり通信」の発行や協働イベントの提案・ 企画コーディネートなどを行っている。

【取り組みの効果】

市民の子育で交流の場となるだけでなく、商店街とNPO・市民ボランティアの育成・交流の場としても定着。若い子連れのお母さんの利用が多くなり、商店街のイベントにも参加していただけるようになった。また、買物や観光時における児童の一時預かりといった各種コミュニティビジネスの試みがなされるなど、まちのコミュニティ機能を担う商店街の新たな取り組みとして実績をあげている。年間約45,000人に利用されている。

また、インターネットを利用するなど、海外の 観光客が増えている。子連れの観光客も多い。

【今後の課題など】

高山市からの委託費や、補助金がなくなった後 の運営費の捻出をどうするか。利用者をさらに増 やす取組も必要。

【高山市商店街振興組合連合会】

所在地:岐阜県高山市 会員数:10振興組合 店舗数:345店舗

URL:http://www.takayamasishouren.net/

【この商店街にこの人あり】



中田専太郎(左) (高山市商店街振興組合連合会理事長) 伊藤早苗(右) (かんかこかん運営委員長)

「かんかこかん」を市商連の事業とし、市民 と商店街と行政との協働による取組を支え、 地域ぐるみで取り組むまちづくりの重要な 担い手である。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街・行政・NPO団体・市民グループが、協力してまちづくりを行っている。





市民の交流の場

「まちひとぷら座かんかこかん」

全国的にも有名な高校生の チャレンジショップがある商店街

? ここがポイント

商店街で高校生が部活動として地域に密着した駄菓子店を営み、多くの若者が 多様な主体としてまちを盛り上げる。



高校生のチャレンジショップ「吉商本舗」

【取り組みの背景】

吉原商店街は、古く江戸時代から東海道五十三次の宿場町の一角として、長い歴史を持つ老舗商店街である。幹線道路に面しているため、商店の前には車が多く行き交い、空き店舗も数多く見られ、かつての賑わいは感じられなくなってしまった。

寂れつつある商店街の活性化を目指してイベント事業を多数行ったが、なかなか活性化するには至らなかった。

そこで、商店街の将来に危機感を持った数名が NPO法人を立ち上げ、まちの活性化に関わる活動 を積極的に推進しようということになった。

【取り組みの概要・経過】

NPO東海道・吉原宿では、芸術・文化の視点

で若者やよそ者を巻き込み、チャレンジオフィスやコミュニティスペースで商店街をビジネスや表現の場として再構築する活動を推進中である。

· 吉商本舗 (H16年7月開店)

富士市立吉原商業高校・商業ビジネス部とNP の東海道・吉原宿が協働で運営する常設店。駄菓子 や雑貨、フェアトレード商品等を販売。高校生チャ レンジショップのトップランナーとして全国的にも 注目を浴びている。

・チャレンジオフィス Y-MICS(H16年10月開業)

路面店以上に空き店舗率が深刻な階上階の再生 モデル事業。まちの活性化に積極的にかかわること を条件に、現在は3つのNPOと2つの事業所が入 居。コンセプトは「大人の部室」。

・コミュニティスペース SUKI (H18年12月開業)

飲食系チャレンジショップを併設し、現在はスポーツバーに発展。若手異業種交流会も開催されている。

· 就労支援施設商品販売 YO-LABO (H20年3月開店)

吉商本舗の高校生のアイデアで誕生。店内で コーナー展開していた部門が独立し、隣接する空き 店舗にオープンした。 ・富士市民活動センター・コミュニティ f(H20年10月受託)

再開発ビルにオープンした市の公共施設を指定管理者として受託。市内のNPOや市民活動団体の拠点として、さらに多くの市民を巻き込むための施設となっている。

【取り組みの効果】

高校生が商店街で店舗運営していることから、 若者独特の活気も商店街に生まれつつある。吉商本 舗卒業生が商店街の中に自らの店を開いたり、地元 大学との連携で商品開発が行われたり、NPOに関 わるデザイナーの企画による店舗が複数オープンし デザイン賞を受賞するなど、新規出店が続いている。 また、テレビ番組から誕生したご当地グルメ企 画「つけナポリタン」も評判を呼んでいる。

【今後の課題など】

吉原商店街周辺には、徐々に新規出店の店舗が増えてきているものの、依然として点でしかなく、これを線で結び、面に展開していくための仕掛け作りが必要である。

また、商業者個々の温度差はさらに拡大する傾向にあり、将来の空き店舗予備軍への早めの対処が必要である。



新規出店が続出することとなったシャッターアート



人で賑わうヨシワラ・パフォーマンス・オブ・ドリームズ

【NPO東海道·吉原宿(吉原商店街)】

所在地:静岡県富士市

会員数:80名(吉原商店街振興組合)

店舗数:130店

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www.yoshiwara.net/

【この商店街にこの人あり】



N P O 東海道·吉原宿 代表理事 佐野 荘一

吉原商店街で生まれ、子供の頃から商店街を遊び場として育った。商店街活動にも深く関わったが、商業者だけで考える商店街活性化に限界を感じ、新たな担い手を巻き込むための器としてNPOを立ち上げる。

【うちの商店街、ここが自慢】

・空き店舗が開くシャッターアート 日本中からアーティストが集結。空き店舗 オーナーの理解度がわかるという効果もあ り、シャッターアート実施店に新規出店が 続出した。

・ヨシワラ・パフォーマンス・オブ・ドリームズ 実行委員長は女子大生、若者が仕切るまち なかライブイベントとして開催。地元で活 躍するミュージシャンが多数登場し、大音 響で盛り上げる。音楽だけでなく、X スポー ツのイベントにも発展している。

学生や福祉団体等と連携した地域に根ざした 「縁側的な商店街づくり」!!

? ここがポイント

多様な主体と連携をし、コミュニティ機能の役割を果たすとともに、シンボルマークの作成・活用により、商店街のブランド化を図っている。



障害者も使いやすい店舗づくりの打ち合わせをする学生たち

【取り組みの背景】

商店街が低迷の状況にある中、平成16年度に 近接する名古屋市立大学から商標作成など商店街 活性化に向けての事業提案がなされ、これを機に 同大学との本格的な連携が始まった。

あわせて平成17年度に、名古屋市の支援を受けて商店街再生コンセプトを策定。地域の高齢化率が高く、障害者福祉施設が多く立地している地域特性も踏まえ、「商学連携により地域ブランドをつくりだす」ことと、「地域の困った問題を解決するビジネスを地域住民と展開する」ことをめざす姿として、「地域に根ざした ** 縁側的な商店街づくり **」をテーマに取組みを開始した。

【取り組みの概要・経過】

○シンボルマーク「さくらっぴー」の作成

大学からの提案に基づき平成17年度、学生たちと一緒に商店街シンボルマークの作成に取り組んだ。地域を中心に広く原画を公募し、商店街や学生などで審査して完成させた。シンボルマークは平成18年秋に商標登録し、また、名称を一般公募して「さくらっぴー」と命名。イルミネーションやマップなどに活用している。

○商店街優良店舗審査事業

同じく市立大学のアイデアにより、平成17年度から毎年度、優良店舗審査事業を行っている。 学生や地域住民で構成する審査会により、サービスや接客、環境や地域への貢献などの視点で各店舗を審査。合格店にはシンボルマークがデザインされた認証状が交付され、店舗に掲示されている。 ○学生や団体と連携した空き店舗活用事業

平成19年度からは、市立大学や地域の障害者自立支援施設、シルバー人材センターなどと協議会を組織し、空き店舗活用の取組みを開始。だれもが気軽に立ち寄れる縁側的な空間づくりをコンセプトに、平成19年11月、駄菓子や障害者の作品を販売する店「さくらやまーけっと」をオープンした。

店舗レイアウトは学生が担当。車いすの方や高

齢者も利用しやすい店舗とするため障害者用トイレも設置した。

平成20年度からは椙山女学園大学、長野県木 祖村が協議会に参加。新たにカフェや木祖村のアンテナショップ、多目的スペースを設置するなど内容を大幅に拡充し、20年11月にリニューアルオープンした。



「さくらやまーけっと」リニューアルオープン

【取り組みの効果】

大学や地域団体との連携によりアイデアに富んだ各種事業が生まれ、計画的、継続的な事業の実施が可能となり、マスコミにもたびたび取り上げられるようになった。

縁側的な空間づくりとして始めた商店街の店「さくらやまーけっと」には、親子連れや学生、 高齢者を中心に幅広い年代が来客し、リピーター も増えてきている。

【今後の課題など】

商店街シンボルマークの一層の活用としてオリジナル商品や逸品を開発し、桜山のイメージや個性を一層高めていきたい。

また、高齢者や子育て支援など地域の課題に対応した新たな事業を創出し、これを「さくらやまーけっと」でモデル的に実践するとともに他の店舗へも普及を図り、商店街全体の活性化につなげていきたい。

【桜山商店街振興組合】

所在地:愛知県名古屋市

会員数:28名 店舗数:28店舗

商店街の類型:生活支援型商店街

URL: http://www.sakurayama.net/

【この商店街にこの人あり】





土谷光男 理事長(左) 商店街の活性化をめざし「さくらやまーけっ と」の運営をはじめ商店街の各種事業運営 に尽力している。

岩田茂春 事業部長(右)

組合きってのアイデアマンで、学生との共 同イベントや商品開発など、新しい企画を 次々と生み出している。

【うちの商店街、ここが自慢】

・商店街シンボルマークは名古屋市立大学 との連携により作成したもので、商標登録 している。

シンボルマーク「さくらっぴー」

- ・大学や地域団体と協議会を組織して毎月 定例会を開催し、事業の企画運営を行っ ている。
- ・協議会メンバーの障害者のニーズにこた え、商店街の店「さくらやまーけっと」 において働く場を提供している。

「やろまい!」からの街づくり ~空き店舗を埋めよまい!!~

? ここがポイント

空き店舗に多様な店舗を誘致、新たなコミュニティを育む商店街。



商店街正面入口

【取り組みの背景】

全国有数の「繊維の街」一宮市で、真清田神社の門前町として発展した本町商店街(本町通1丁目、2丁目、3丁目、4丁目商店街振興組合)は、昭和31年に日本最長のアーケードを設置した。これを契機にスタートした「一宮七夕まつり」が日本三大七夕と称される祭りになり、そのメイン会場になっている。しかし、近年は繊維業の衰退や大規模小売店の郊外移転による人通りの減少、後継者不足等による空き店舗の増加から、街の活気が徐々に失われていった。このことを危機に感じた商店街の有志が、「一つ一つ出来ることに取り組み、かつての賑わいを取り戻すんだ!」という気持ちを集めて、みんなで「やろまい(地元の方言で"やりましょう・やるしかない"の意)」の気運を生んだ。

【取り組みの概要・経過】

最大のイベント「一宮七夕まつり」だけではなく、 年間を通じて集客できる活性化を模索する中、毎年4 月の第3土・日に開催するイベント「やろまい」の実 施に至った。地元の短大、高校、幼稚園、聾学校、国 際交流協会、青年会議所など、多数の地元団体の出店 や出演(総勢1,500人超)による多彩なステージが メインの大規模イベントである。



イベント「やろまい」

次に、空き店舗の増加を食い止めるため、空き店舗の活用に取り組み始めた。平成18年7月にスペース貸し店舗とボックスショップとして商店街が運営する「ほんまちサンプラザ」を開設。平成19年度からは、空き店舗活用補助金の充実について行政と連携をとりながら、様々な店舗・団体の誘致を実施している。平成19年7月に開設したコミュニティーハウス「ちゃら

ん家」は、商店主有志がまちづくり会社を設立して運営し、料理自慢の主婦が日替わりで提供するランチが人気になっている。その他にも NPO が発達障がい理解の講座や座談会、寄席などを開催するコミュニティ施設や、鉄道愛好家による鉄道模型カフェなどが次々と開設されている。このような多様な店舗・施設を誘致することで、今までに商店街を訪れることのなかった人々が商店街を訪れるようになり、新たな繋がりが生まれ、新たなコミュニティを創出している。

■空き店舗活用事業



コミュニティーハウス「ちゃらん家」

【取り組みの効果】

商店街を活性化するため、商業者自らが空き店舗を解消しようと活動する中で、商店街に魅力ある店舗や施設が開設され、賑わいが創出されている。また市民団体などと連携が生まれたことで、商店街の取り組みの幅が広がり、従来とは違った顧客層が訪れるようになった。

【今後の課題など】

空き店舗活用を推進するためには、単に誘致するだけではなく、テナントミックスの考え方が必要になってくる。商店街の方向性をしっかりと持ちながら事業を進めていく必要がある。

【一宮市本町商店街】

所在地:愛知県一宮市

会員数:4商店街127名 商店街の類型:近隣型商店街

【この商店街にこの人あり】



安藤 元二

(一宮市本町商店街会長)

(一宮本町通3丁目商店街振興組合 理事長) (㈱ちゃらんけシステム監査役)

本町商店街の真の活性化を願い、商店街関係者をとりまとめ、牽引する重要な役割を担っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街の空き店舗が魅力ある施設や店舗に 様変わり。

主な空き店舗活用事業:

- ・「ほんまちサンプラザ」 ボックスショップ
- ・コミュニティーハウス「ちゃらん家」ワンディシェフシステムの導入
- ・「鉄道模型カフェ浪漫」 店内にジオラマ模型を置くカフェ
- ·「reno」 発達障がい理解の講座や座談会、上方 落語家の寄席の開催

伝統ある「八日朝市」で賑わい創出、 景観整備等により来街者にやさしい 「歩いて楽しい」街づくり!!



景観、歩行環境の徹底した整備により、まちの魅力を向上。



【取り組みの背景】

挙母神社の参道として商店が集積されてきた、豊田市駅から程近い中心市街地に位置する商店街である。しかしながら、伝統ある挙母神社「八日市」の主会場が30年前に参道(商店街)から境内に移り、モータリゼーションの進展等により歩行者通行量が減少するとともに空き店舗も生じ、商店街の活性化が必要となっていた。このため、「「下町の歴史と情緒」「老舗商店街としての伝統と信頼」を大切にし、将来に向けてこだわりのある商品とサービスを提供し続ける商店街」をコンセプトとし、ファサード整備等の活性化に向けた事業に取組始めた。

【取り組みの概要・経過】

20年前にアーケード撤去、電線地中化を行い、更なる特徴づくりと歩いて楽しいまちづくりを目指し、 平成17年度に桜のデザインをあしらった商店街名の 入った統一看板や統一のロゴ、デザインのタペストリー 設置など徹底した景観整備を実施している。

○歩車道の段差を解消したバリアフリー化

車道には車の速度を抑えるため、一部歩道と同一の石畳みや店舗を遮断しない低い植栽とするなど、高齢者や子供にとっても歩きやすい快適な歩行環境を創出。(市事業;商店街は道路整備を考える協議会の一員として参加)

○桜をモチーフにしたファサード

商店街の名称から桜をイメージしたデザインで各店舗が統一した装飾を行なうとともに、民家も駐車場ゲートの装飾を統一するなどしたファサード整備をし、来街者の目を楽しませている。

○清掃活動と花飾り

商店街婦人部による清掃活動やフラワーポット設置による花飾りに取り組んでおり、季節や色彩などテーマを決めて年3回フラワーポットの植え替えを行うことにより、商店街を歩く楽しみを一層高めている。

○定期の朝市

毎月開催される挙母神社「八日市」に合わせ商店街の各店頭で行なうワゴン販売では、地産地消にこだわり地元農家やシルバー人材センター等と連携し、産直野菜・くだもの、薬草入り五平餅、漬物、フラワーポットなどの販売を行う「八日朝市」を開催している。加えて、四季折々のお菓子の振る舞い(無料)やベンチの設置などによるお客様へのおもてなしにより、商店街への集客とお客様との交流を促進している。

【取り組みの効果】

ファサード整備により街の景観が著しく向上し商圏が拡大するとともに、来客数も増加している。売り上げが整備前の1.5倍になったという店舗もある。もともと商店街には生活必需品を扱う店が多く、商圏が広いため効果が大きい。また、ファサード整備に伴う個店の改装により、街全体に高級感を醸し出し顧客を誘引する魅力がアップした。出店者の引き合いも来ており「桜町本通り商店街」のブランド力が向上した。

「八日朝市」は、農産物を生産者が直接販売することで消費者の食の安全思考をくすぐり売り上げを伸ばしており、商店街の賑わいを演出している。



【今後の課題など】

毎月、挙母神社で開催される八日市には平均7千人の来場者があるが、そのうち当商店街を通って会場に向かう人数は2千人程度である。今後は、商店街へ一層の客を誘導する工夫が必要。また、日常の来街者数が八日市の時と比較すると極端に少ないため、各個店の魅力向上やメリハリのあるイベント展開などの取組が必要。

【桜町本通り商店街振興組合】

所在地:愛知県豊田市

会員数:23名 店舗数:23店舗

商店街の類型:地域貢献型商店街

【この商店街にこの人あり】



市古 信 代表理事(中央) 前理事長と一緒に八日市の継続やまちな み景観の整備等に日々奔走している。

鈴木 万衛 副理事(右)

前理事長。商店街組合員を引っぱり、ファ サード整備を実施。

中井 久美(左)

豊田まちづくり㈱地域事業部リーダー。 八日朝市の開催支援など、商店街を全面 的にバックアップしている。

【うちの商店街、ここが自慢】

桜をモチーフとしたファサードをはじめ徹 底した景観づくりや歩行環境の整備により、 高齢者や子供たちにとっても快適で歩いて 楽しい空間となっている。

四日市商店街から「夢」、 「好奇心」、「遊び」の世界へ!!

? ここがポイント

子供にとっての社会体験の場の創出により、商店街が地域コミュニティの役割を担うとともに、商店街活動に参加しにくい、夜の飲食店たちが顧客確保、個店の利益につながるよう工夫した、話題を呼ぶ、特徴的な取組みを行なっている。



「こども四日市」の様子

【取り組みの背景】

四日市駅周辺の大型店撤退等により、中心市街地の賑わいに陰りが見えてきた中、イベントに偏った商店街活性化策に限界を感じ、個店の魅力づくりや個店を強化するために、「おもてなし通信」を発行し、やる気のある商店の紹介や、商店街の隠れたスポット等、商店街の魅力を地域に発信。

更に、個店の販売力を強化する事業も実施したい と、全国のユニークな取組事例等にアンテナをはり、 商店街での新たな取り組みを模索してきた。

【取り組みの概要・経過】

○子供に経済概念を学ばせ、生きた勉強ができる「こど

も四日市」:ドイツのミュンヘン市で始まったミニ・ミュンヘン(※)をモデルに地元の商店街でイベントとして展開。子供たちが、地域通貨「ヨー」を使って、商店街及びその周辺での労働体験と社会勉強できる場を設けた。子供たちは、掃除、ファッションモデル、新聞記者などの仕事の対価として、通貨を獲得、フリーマーケットや屋台で買い物できるというものである。

○普段、商店街活動に参加しにくい夜の飲食店が一丸となって、「はしご酒スタンプラリー」を実施。鳥取県倉吉の商店街の取組みを参考にした。参加者は、3,000円の前売券を購入し、当日受付で指定された3店舗をはしごできる仕掛けである。参加店は、1ドリンクと1品付け出しを用意する。明瞭会計、安価な料金設定であることから利用しやすい。個店の利用を促すとともに、個店(参加店)も新しい顧客の獲得につながることで、店舗の参加意欲も高まる。

※ミニ・ミュンヘン:7歳から15歳までのこどもだけが運営する「小さな都市」。8月の夏休み期間3週間だけ誕生する仮設都市で、すでに20年の歴史がある。

○商店街の枠組みを超えた取組「得々商店街」: やる気のありそうな商店主に声をかけて集まった飲食、服飾、雑貨、仏具など様々な店主が、「得々商店街」として、

三重県四日市市

商店街通信「おもてなし」を発行し、店のお買得情報 やサービス券などを掲載することにより、来店を促す 工夫をしている。



商店街通信「おもてなし」

【取り組みの効果】

こども四日市には、地元の子供たちだけではなく、 隣の愛知県からも参加があり、非常に人気の高いイベントとなっている。

はしご酒スタンプラリーでは、参加者が3,000 円で、新しいお店の魅力を発見できるとともに、参加 店も新規顧客の獲得につながるメリットを生み出して いる。

いち早く地元で展開した、「こども四日市」や「は しご酒スタンプラリー」は、他地域の商店街の先進事 例として、参考になっており、東海地域でも複数の商 店街が、四日市を参考にして、はしご酒イベントに取 り組んでいる。

また、商店街通信「おもてなし」を見たお客様からは商店街に親しみが持てるようになったとの高評価も受けている。

【今後の課題など】

商店街の活性化にとどまらず、子育て、防犯、まちの再開発などまちづくりの視点で地域を見直し、地域を巻き込んで様々な"コト"を起こし、発展していくことが期待される。

【四日市諏訪西商店街振興組合】

所在地:三重県四日市市

会員数:138名

商店街の類型:広域型商店街

URL:http://www.pazl-land.com/

【この商店街にこの人あり】



野村 愛一郎

(四日市諏訪西商店街振興組合副理事長) 従来の商店街組織にとらわれず、四日市で「やる気」を持った商店約40店舗による「得々商店街」を立ち上げた中心人物。「得々商店街」では、来店者をおもてなしする基本ルール「おもてなしハか条」を作成・実践し、こだわりの逸品や心づくしの逸品を提供。

「こども四日市」や「はしご酒スタンプラリー」の開催など全国に先駆け、商店街で目新しい事業を導入するなど、商店街活性化へと導く牽引役を担う人物である。

【うちの商店街、ここが自慢】

- まちなかにこどものまちが誕生する 「こども四日市」
- ・夜の飲食店たちが共同で取組む 「はしご酒スタンプラリー」。

「ユニバーサルデザインの まちづくり宣言」をきっかけに 福祉に取り組む商店街!!

? ここがポイント

社会的弱者にやさしい商店街を目指し、地域住民等へ福祉への理解を広げつつ、福祉事業に重点的に取組み、福祉に取組む商店街として定着を図っている。



「夜店でにぎわう伊勢高柳商店街」

【取り組みの背景】

中心商店街が衰退・疲弊するなか、商店街の生き 残りを考える折、時代の要請にあった「福祉の商店街」 づくりが不可欠と考えた。商店街には「大きな柳」 がある。それが高柳の商店街の名の由来でもある。 福祉の商店街・バリアフリーの商店街の象徴として、 その柳を「福柳」と呼んだ。いろいろな議論や合意 形成を経て、20世紀の街から、21世紀の「福祉の まち」「バリアフリーのまち」の始動が始まったのが 「平成15年」である。以降、一貫して「福祉」「福々」 をビジョンのテーマとして取組んできた。

【取り組みの概要・経過】

地域住民、生活者、来街者に、福祉への理解を広げつつ、少子・高齢社会の中で、商店街の在り方を模索する中、「きらくにどうぞ」のステッカー、「ふくふくまつり」、「ふくふくカード」事業など、福祉に注力した商店街活動を展開している。

- 平成15年2月、バリアフリーの体験セミナーを実験、同年8月、当時では全国でも珍しく商店街の一角にケアーセンター開設、16年8月、障害者支援センターが相次いでオープン。それをきっかけとして「ユニバーサルデザインのまちづくり宣言」をした。
 平成17年3月、高柳児童公園(商店街隣接)のバリアフリー化、多目的トイレの工事が完成。
- 商店街では、大正時代から「高柳の夜店」を 90回以上開催、それに「福祉のまち」と言うイメージが加わり、広がりを見せつつある。夜店では、平成17年の市町村合併を契機に、平成18年には、合併した旧町村の祭りや行事を紹介し、互いに意識し合い、資源の有効活用を育むため「町村の日」をつくり交流を図った。「二見(ふたみ)町の日」には二見太鼓やシーパラダイスのアシカショーが、「御薗(みその)の日」には手筒花火が行われ、平成20年は

さらに交流地域を広げ、「津市の日」には津市の観光 や特産品のPR、県の無形民俗文化財「唐人おどり」 を商店街路上で披露するなど、商店街が主導となり 周辺9市町村・地域を巻き込んだ取組を展開。これ により、伊勢市だけではなく広域な認知度も高まり 風物詩的な観光スポットの一つにもなっている。ま た、商店街の近くにかつて流れていた清川に因んで、 新しく「清川太鼓」と言う地元の中学校の先生や、 町内会を巻き込んだグループやコミュニティもでき てきた。

○ 福祉に関する具体的な取組みとして、「きらくにどうぞ」のステッカーを店舗に貼り、車いすの目線で商品を置いたり、誰でも安心して買い物ができるよう配慮している。また、「ふくふくまつり」(平成16年~)を開催し、「ふくふくカード」事業を立上げ(平成19年12月)、60歳以上の人や18歳未満の子供を育てている家族を対象に商店街が発行する「ふくふくカード」を配布。加盟店では、割引、プレゼント、トイレ提供や介護サービスが受けられるなど来街者へ便宜を図っている。



ふくふくまつり

【取り組みの効果】

ソフト、ハード面において、「ユニバーサルデザインのまち」のイメージが定着し、ユニバーサルデザインに配慮した商店街として定着しつつある。

【今後の課題など】

持続的な事業としていくため、更に新しいアイデアをつぎ込み続ける知恵とマンパワー、人材育成が不可欠である。

【伊勢高柳商店街振興組合】

所在地:三重県伊勢市

会員数:66名

店舗数:56店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:http://www6.ocn.ne.jp/~esupoa/

【この商店街にこの人あり】



橘 正志 理事長

強いリーダーシップで商店街内部のみでなく、外部や市民や地域住民間の合意形成を積み上げ、商店街のビジョンを示しつつ、様々なアイデアを具体的な形として実現させて来た。同時に、常に次世代を担う人たちにも課題を与えながら、人材の育成にも配慮し、その人柄は心温まる優しさがあり信頼を集めている。現在、「商店街まるごと博物館」を含めた、市の「伊勢市全市博物館構想」を推進するまちづくりリーダー。

【うちの商店街、ここが自慢】

この商店街は大正時代より90回以上続く 伝統的な夏の「夜店」が有名で、伊勢市は もとより周辺郡部を含む広域において「夏 の風物詩」となっている。誰もが気楽に訪 れてほしいと、「きらくにどうぞ」のステッ カーを貼る店舗が並ぶ。車椅子で入れるト イレを近隣含め4箇所に設置しており、気 楽に買い物ができる商店街。

神様の住まうまち

~地域資源「歴史文化」「古民家」「多賀そば」 そして「学生」を活用した地産地消のまちづくり!~

? ここがポイント

「神様の住まうまち」にふさわしい事業を徹底的に展開!

- 1. 景観整備と魅力ある商業の形成
- 2. 古民家を活用した創業支援と福祉連携
- 3. 農業者との連携による交流体験事業とそばを使った商品開発
- 4. 学生(風)住民(土)による新たな風土づくり 以上の組み合わせにより、相乗効果のまちづくりを進める。



(協) 多賀門前町共栄会

【取り組みの背景】

多賀町は人口8,300人、中心部に位置する 多賀区では500戸、2,000人の小さな町であ る。多賀大社の門前町として拓けた市街地は町の 中心商店街として栄えてきた。隣接する彦根市郊 外に大規模小売店舗の立地が進む中、多賀町の消 費者は流出。地元購買率は40%弱となる。また 一方では多賀町を訪れる観光客は年間180万人 であるが、季節変動が大きい変動型の商店街という二面性をもっている。

【取り組みの概要・経過】

平成9年

3つの商店街を「門前町共栄会」(77店舗) に統合。

平成10~11年

CI策定、イメージアップ事業、空き店舗活用 事業

平成11~12年

中心市街地活性化基本計画策定

平成12~15年

街路灯整備事業・ファサード整備事業 (31 店舗)

平成13年~

「多賀そば」事業に取り組む

平成15年

滋賀県立大学とまちとの連携

平成17年~

古民家活用事業…門前町デイケアセンターの開設 笑門バザール毎月開催

平成19年

着地型観光事業への本格的取組(交流・体験の実施)

【取り組みの効果】

平成12~15年街路灯整備・ファサード整備 事業(平成13年:13店舗・平成14年:14店舗・ 平成15年:4店舗)を実施。老朽化した商店街 は統一コンセプト(業態化を実施)で整備した商 店街は来街者も増え、個店の売上も平均1.3倍 近く増加。

平成10年から現在まで取り組んでいる古民家(空き店舗含む)活用は創業、テナントミックス、福祉施設への活用を通して農産物等の地域資源との連携、商店街の回遊性向上、地域コミュニティの醸成が図られた。16店舗から現在8店舗に減少した。

平成15年から大学生と住民によるまちづくり スタート、まちづくり気運の醸成、商店街に様々 な施設等を製作し、学生の斬新なアイデアによる 事業が展開できた。

平成19年から取り組んでいる農業者との連携により、農業者との交流体験・蕎麦の花見体験・収穫体験・新そば打ち体験を実施し、二年目には参加者が1・5倍増加。「多賀そば」の PR が実施でき、特産品開発に意欲を示す事業者が増加。

「笑う門には福来り」の意味を含めた「笑門」を商標登録し、絵馬型の玄関飾り、T シャツ等を作成し商店街各店で販売。商店街のアーチも「笑門」を掲げるなど多賀大社を中心にした街づくりを実施している。特に、毎月開催している「笑門バザール」は各店舗の一店逸品を格安で提供、地

元生活者への評判は高い。

【今後の課題など】

農林業との連携による付加価値の高い商品開発。 未整備の空き店舗の活用。

周辺地域との連携(中心から周辺への着地型観光)。

【(協)多賀門前町共栄会】

所在地:滋賀県多賀町多賀

会員数:57名 店舗数:57店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: 工事中

【この商店街にこの人あり】



「笑門」ブランドの担当者。 (有) エーサイト代表取締役 平居晋

【うちの商店街、ここが自慢】

歴史性文化性を活用し景観づくり



古民家を活用した喫茶ギャラリー



元禄時代の旅館

地域に支持される商店街未加入 ゼロの商店街!!

? ここがポイント

スタンプ事業を柱にして、環境や子育ての取り組みを展開し、地域への浸透を図る。平成19年には商店街の加入店舗100%を達成。



京都三条会商店街振興組合

【取り組みの背景】

京都市の中心部に近く、800メートルの長い アーケードを持つ地域密着型の商店街であるが、 近年、空き店舗の増加や客足の減少に悩まされて いる。

このような中、スタンプ事業 (「リボンスタンプ」) を柱に活性化を推進している。

【取り組みの概要・経過】

商店街では、「環境にやさしい商店街」を目指し、ゴミの減量や資源の有効活用に対する取り組みとして、平成18年、「リボンスタンプ」のポイントと交換して入手できるエコバック「おこしやすSanjo ねこバッグ」を作成した。このバッグデザインが評判となり、一時は在庫がなくなるほど

の人気となった。

環境に関する取り組みとしては、ほかに使用済みてんぷら油回収に参加するとポイントを付与する「エコポイント」の事業も行っている。

また、子育で世代に対しては、商店街の持つ地域のコミュニティとしての機能を活かし、組合事務所のコミュニティホールにおいて、地元の大学と連携して、親子で楽しめる絵本読みや工作などのプログラムを行う「子育で広場」を定期的に開催し、若い母親や子供どうしの出会いの場を提供している。

そのほか、組合への未加入者には断固とした態度で臨み、裁判も行うなどの対応を取った結果、 平成19年には商店街振興組合への未加入者がなくなった。

【取り組みの効果】

これらの取り組みの結果、地域の中心商店街と して復権するとともに空き店舗が減少し、人通り も増加してきている。

また、京都市内の中心部に近いという立地条件 もあり、新たに商店街に参入する若い商店主も増 えている。このような若い商店主は、商店街に残 る古い京町家の建築を活かしたレストランや産地 直売の商品を扱う店など、以前にはなかった形態

京都府京都市

の店舗を経営しているため、商店街を訪れる若者 も増え、商店街のにぎわいの復活につながってき ている。

【今後の課題など】

以前と比較してにぎわいは取り戻しつつあるものの、古くから商売を続けてきた店舗の閉店により「仕舞た屋」が増えつつあるため、これらのテナントとしての活用を含めて対策が必要である。



(三条会子育て広場)



(「おこしやす Sanjo ねこバック」)

【京都三条会商店街振興組合】

所在地:京都府京都市

会員数:175名

店舗数:175店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://www.eonet.ne.jp/~sanjo/

【この商店街にこの人あり】



理事長 上田照雄さん 上田理事長のアイデアにより、イベント、 売り出しなど、様々な取り組みを展開。

【うちの商店街、ここが自慢】

金メダリストの野口みづきが、雨の日の朝の練習で走った長いアーケードを持つ商店街。

地域子育てステーション「ぱおぱおの家」を開設して 地域コミュニティの構築と商店街の活性化に寄与!!

? ここがポイント

空き店舗を活用して地域子育てステーション『ぱおぱおの家』を開設、若い親 同士が気軽に集える場を創出して、地域コミュニティの構築と活性化に寄与。



『ぱおぱおの家』の様子

【取り組みの背景】

近年商店街周辺にも新しいマンションが建ち、若い夫婦も増えてきた。引っ越してきたばかりでは地域との繋がりがうすく、小さな子供を連れて歩くこともままならない。そんな人々の話を聞き、何とかしたいという思いがふくらんだ。子育てに慣れないお父さんやお母さんが孤立すれば、児童虐待など様々な問題に繋がる。そこで商店街が交流の場になって楽しんでもらえたらと、商店街の空き店舗を借り、地域で活動してきた「母乳育児サークル」や「子育て支援ネットあい・あい」と一緒になって子育て支援事業に取り組んだ。

【取り組みの概要・経過】

平成18年に商店街の空き店舗の町屋1階部分を賃借・活用して、地域子育てステーション『ぱおぱおの家』を開設し、0歳から4歳までのお子さんとお母さんを対象にした子育で支援事業に取り組んだ。この『ぱおぱおの家』は、「包み込む」という意味を表すモンゴルの遊牧民居住「パオ」からとっており、"ほっと一息つける実家のような感覚で、小さなお子さんを持つお父さん、お母さんに使っていただき親子が元気になってくれる"ことを願って名づけた。

この施設の運営にあたっては、伏見区内で育児サークルを運営している「子育て支援ネットあい・あい」や「母乳育児サークル」などの協力を得て、週2回(月・木)「親子ひろば」を開催し、絵本の読み聞かせや育児アドバイス等をする他、離乳食などの料理教室等を実施して若いお母さん方の子育て等に対する不安の解消や核家族化が進む中でのコミュニティの構築を目指した。

平成18年3月末の登録者数は221組であったが、平成20年11月末には430組が「ぱおぱおの家」に登録している。

【取り組みの効果】

当初想定していたより多くのお母さん方に登録をしていただき、多い日には30組の親子が参加するなど大変好評で1階のスペースだけでは収容が困難なこともあり、平成19年に京都府・京都市の補助金を活用して2階部分を改修して大手筋文化センター『コスモス』として整備、子育てステーションの収容スペースを拡充すると共に、2階部分の一部を京都文教大学のサテライトキャンパスとして同大の心理臨床センターが悩みの相談室を開いたり、子育て情報の提供や交流事業を行うなど本施設が地域コミュニティの核となることができ、商店街の賑わいの創出と地域コミュニティの構築・強化に繋がった。

【今後の課題など】

現在は、月曜日と木曜日が「親子ひろば」、水曜日が「母乳育児サークル(対象が1歳ぐらいまで)」、月1回「いどばた会議(障害児・病児をもつ親の会)」を開催している。もっと多くのお母さん方に利用していただくには地域団体の協力とボランティアスタッフの育成が必要で、平成18年度より月2回程度(5日間)独自で講座を開催して、スタッフの養成に取り組んでいる。

また、土・日曜日は殆ど使われていないため、 文化発信・賑わいを創出するイベントに使うこと ができないか、現在模索中である。

【伏見大手筋商店街振興組合】

所在地:京都府京都市 会員数:117名

店舗数:117店舗

商店街の類型:近隣型商店街 URL: www.otesuji.or.jp

【この商店街にこの人あり】



【理事:和田登美子】

平成4年11月に商店街の女性部組織として『あてらの会』を立ち上げ、地域コミュニティの構築と商店街の活性化に取り組んでおり、『ぱおぱおの家』は当理事の発案で、家業の方でもマクロビオティックな料理教室や圧力鍋の料理教室を開いて"簡単で、美味しく、健康的な食づくり"を推進している。

【うちの商店街、ここが自慢】

京都府・京都市の補助金を活用して空き店舗を改修し、平成16年に文化センター『ひまわり』として健康麻将店(賭けない、吸わない、徹夜しない)を、平成19年には文化センター『コスモス』として"ぱおぱおの家"と京都文教大学のサテライトキャンパスを開設し、小さな子供からお年寄りまでが安心して集え・憩いのできる場を提供している。

老朽化した長屋の再生をとおして、 まちの魅力を再発見!!

? ここがポイント

大阪市の中心部に残る古い長屋や町家の再生をとおし、地域住民の「まちに対する誇り」を喚起し、まちを活性化。



(長屋を再生した商業施設「惣」) からほり倶楽部

【取り組みの背景】

空堀商店街界隈は、大阪市内の中央部に位置する、古代から続く歴史ある地区である。ここには東西に長い商店街があり、その周辺には戦災を免れて残った古い長屋や町家が、高低差のある地形や石畳、狭い路地などと相まって、どこか懐かしく趣のあるまちなみを形成している。

しかし、古い家屋は現代の生活には不便な面も 多く、また防災の点などからもその良さがなかな か認識されなかった。このため、こういった古き 良きまちなみが失われる方向にあった。

このような流れの中で、老朽化した長屋や町家の魅力を引き出して再生させることをとおして、地域の住民が自分たちのまちの魅力を認識し、まちを活性化させるために、空堀地区でのまちづくりが始まった。

【取り組みの概要・経過】

空堀地区での長屋再生の取り組みは、平成13年、有志によって「空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト」として発足した(略称として「からほり倶楽部」)。

住居の改修を初めとして、老朽化した長屋を商業施設や文化施設として再生させる取り組みは、平成14年から始まり、現在までに3軒の施設がオープンしている。それぞれ「惣(そう)」、「練(れん)」、「萌(ほう)」と名付けられ、飲食やサービス、雑貨等の物販のチャレンジショップ等さまざまな店舗が展開されている。これらは木造家屋のリノベーションの成功事例としてマスコミ等に多く取り上げられ、「空堀」の名は広く知られるようになった。

平成17年には、「萌」にこの近辺で生まれ育った直木三十五にちなんだ、「直木三十五記念館」を開設し、地域の知られざる歴史に住民が親しむ機会を提供している。

また、長屋の改修や活用方法等についてのアドバイスや、売主(貸主)と買主(借主)の橋渡しを「長屋すとっくばんくねっとわーく企業組合」として取り組んでいる。

ソフト面では、平成13年のプロジェクト発足 当初から始まった「からほりまちアート」がある。 これはアーティストたちが街中に作品を展示する ものだが、現在まで毎年1回開催され、多くの来 街者を惹きつけている。空堀にある3つの商店街 組織も、このイベントの際にインフォメーション を設置するなど協力している。

最近では、古い住宅地であるこの地区に根強く 残っている地域コミュニティの存在は、災害等の 有事の際には"減災"に資する機能を発揮するこ とに着目し、減災についての勉強会も行っている。 また、大阪市では、空堀地区を市の「HOPE ゾーン事業」の実施地区のひとつとし、地域で修 景基準を定め、それに基づいた新築・改築に対し て補助を行っている。

【取り組みの効果】

今まで地域の住民から評価されていなかった古い長屋を、魅力ある施設に再生し、それが内外から評価されるとともに「空堀」がブランドとなり、遠方からの来街者が多く訪れるようになったことで、住民ひとりひとりが自らの住むまちが本来持っている魅力を認識し誇りを持つようになったことが大きな成果である。

当初は地域に受け入れられることが難しかった まちづくりの取り組みだが、来街者の増加をもた らしたことで、商店街の活性化につながった。ま た、「惣」にあるレンタルボックスに地域の高齢 者が出品するなど、住民にも受け入れられてきて いる。

また、「長屋に住みたい」「長屋で商売をやりたい」という希望を持って空堀にやってくる他地域の人も増えており、地域住民や商業者にとって良い刺激となっている。

【今後の課題など】

今後も継続してまちづくりを行うため、次の世 代を担う人材を育てることが課題。

【からほり倶楽部】

所在地:大阪府大阪市 会員数:140名

(店舗数:誘致、設計等を手がけた店舗は約

40店舗)

URL:http://www.eonet.ne.jp/~karahoriclub/



(「練」の内部)

【この商店街にこの人あり】



六波羅雅一さん

- ・からほり倶楽部代表理事
- · 六波羅真建築研究室 代表

長屋再生のプロフェッショナル。空堀地区 のまちづくりのパイオニアであり、その活 動の中心を担う。

【うちの商店街、ここが自慢】

"人"が自慢。「からほり倶楽部」のメンバーは、それぞれ違ったフィールドや個性を持っており、それらがまちづくりに多様性をもたらしている。

大阪の賑わい創造の主役として、 大阪の文化・楽しさ・夢を売る商店街!!

? ここがポイント

「道具屋筋ならでは」の特徴を活かし、商売を通した観光・文化・教育に役立 つ商店街として、地域の活性化、賑わいづくりに寄与。



千日前道具屋筋商店街振興組合

【取り組みの背景】

「天下の台所」「くいだおれ」のまち大阪を古くから支えてきた千日前道具屋筋商店街は、食器、調理器具、食品サンプル、看板やのれんなど、飲食店向けの商材を扱う専門店が多く並ぶ、見て回るだけでも楽しい商店街。大阪を、商店街をもっと多くの人に知ってもらうため、更なる観光客誘

致や次世代育成を目指し、様々な取組みに係る基本的な全ての作業を商店街のスタッフが協力し合い行っている。

【取り組みの概要・経過】

平成13年から、修学旅行生を対象とした『大阪の商い体験』プログラムを実施している。これは各種の体験学習を通じて、大阪の「笑い」「食」「商い」という3つの文化を学べるものである。

◆「笑い」

プロの落語家や芸人から上方落語と江戸落語の 違いや鳴り物や扇子の使い方などを勉強し、実際 に舞台に上がり落語や漫才を実演する"芸人体験" を通じてコミュニケーションの大切さを学ぶ。

◆「食」

有名なコナモンの名店において、たこ焼き、お好み焼き、うどんなど大阪粉文化について聴講した後、昼食はプロの指導のもと、各自で焼いて賞味する"食文化体験"を行う。

◆「商い」

"商店街講座"や"あきんど・丁稚体験"、"実 演販売体験"、"食品サンプルなどの手作り体験" など、様々な体験学習を通じて大阪商人魂を学ぶ。

また、年に二度開催する「道具屋筋ベンチャーウィーク」では、飲食店経営を夢見る個人企業家

大阪府大阪市

の育成のため、行政とともに開業・経営・資金・ 転業など様々な相談に対応したり、講習会を実施 して専門家の知識と道具屋筋のノウハウを提供し ている。

【取り組みの効果】

これらの取り組みを通して、商店街の賑わい創 出や知名度・信用向上、連帯感強化が図られてい るほか、大阪の知名度の向上にも寄与している。



(商店街のようす)



(『大阪の商い体験』)

【千日前道具屋筋商店街振興組合】

所在地:大阪府大阪市

会員数:47名

店舗数:47店舗

商店街の類型:広域・観光型商店街 URL: http://www.doguyasuji.or.jp/

【この商店街にこの人あり】



理事長 千田忠司さん 大阪市中央区南商店会連合会 会長 大阪府商店街振興組合連合会 副理事長 大阪府厨房料飲機器家具協同組合 副理事長

【うちの商店街、ここが自慢】

飲食店などで用いる本格的な業務用の調理 器具や厨房設備、什器や看板などを扱う店 が集まっており、プロの料理人から観光客 まで楽しめる商店街。

地元密着!

地域住民とともに歩む商店街!!



地元複数の大学と連携し、商店街を舞台に幼稚園児や小学生が活躍する場を創 出したり、高齢者向け宅配事業を行うなど、地域住民に愛される必要不可欠な商 店街を目指す。

スマイル瓢箪山



(サンロード瓢箪山)



(ジンジャモール瓢箪山)

【取り組みの背景】

スマイル瓢箪山は、近鉄瓢箪山駅を中心とした 3つの商店街(瓢箪山中央商店街<サンロード瓢

箏山>、イナリ前商店街<ジンジャモール瓢箪山>、 瓢箪山駅前東商店会)と1つの小売市場(マイン) からなる連合体である。

東に生駒山、西に第二寝屋川という立地条件に も恵まれ、市内でも有数の商業集積が形成されて いた。しかし、駅乗降客数の減少や大阪外環状線 沿線の商業施設の進展などから、厳しい経営状況 にあった。

平成10年度以降、東大阪市や大阪府の事業と して商店街活性化に取り組んだことを機に、地元 に密着した「地域型商店街」として、さまざまな 活動を行っている。

【取り組みの概要・経過】

スマイル瓢箪山では、地域住民の視点から、ハー ド・ソフト両面から様々な取り組みを実施している。

◆スマイル宅配便事業

平成14年度から、地域の特性である"高齢者" を対象に、商店街で購入した商品を自宅まで配達 するサービスを実施。商店街内の米屋や酒屋など と契約したアイデアによる安価な宅配サービスを 展開。

◆「ひょうたんから逸品」事業

自薦・他薦により掘り起こした各個店の「逸品」

の工夫を凝らした紹介に加え、地名でもある " 瓢 箪山 " の紹介など、地域住民に親しまれる逸品 リーフレットを作成して配布している。

◆大学との連携事業

「ひょうたん瓦版」という紙媒体による情報発信事業を実施。子どもから高齢者にいたるまで、地域住民に親しみをもってこれを読んでもらうため、近隣4小学校及び1幼稚園にひょうたんの栽培を依頼してその成長過程を掲載したり、また、大学生が取材した地域情報を特集している。

また、大学生の企画による、小学生の職業体験 " 瓢箪山探検隊 " や " 瓢箪山ちびっこみこし " なども実施している。

◆ひょうたん栽培事業

商店街が中心となり、ひょうたんを栽培し各個店にひょうたんを飾っている。また、地域住民も作品の発表会・展示会に参加し、地域がひょうたんあふれる街づくり事業に取り組んでいる。

◆ひょうたんモニュメント

サンロード瓢箪山は日本で最初に国道にアーケードを設置した商店街であるが、地域に親しまれる商環境づくりのため、青く光るLEDを使った巨大ひょうたんをそのアーケードの入口アーチに、また纏(まとい)型のモニュメントを駅前せせらぎ広場に設置するなど、秀吉の千成瓢箪にちなみ、大小あわせて1,000個のひょうたんモニュメントを設置し、新しいシンボルを創出している。

【取り組みの効果】

大学生のサポートも受け、地域の小学生や幼稚園児をはじめ地域一体となった様々な取組みにより、商業者同士や地域住民とのコミュニケーションが活発に図られるようになり、地域に密着した商店街づくりができた。

【スマイル瓢箪山】

所在地:大阪府東大阪市

会員数:179名 店舗数:240店舗

(サンロード瓢箪山、ジンジャモール瓢箪山、

瓢箪山駅前東商店会、マイン) 商店街の類型:近隣型商店街

URL: http://www.hyotanyama.net/

【この商店街にこの人あり】



実行委員長 岡本定雄さん

瓢箪山中央商店街振興組合 理事長 大阪府商店街振興組合連合会 理事 東大阪市商店会連合会 常任理事 河内太鼓台保存会 参与 お祭りや消防団・防犯活動も世話人として 地域との連携を積極的に行っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

地域住民のため、絶えず何かに挑戦・取り 組んでいる商店街。

「大人が3時間楽しめる街」を 目指したまちづくり!!

? ここがポイント

震災による壊滅的被害から、商業者みずからによる地域資源の掘り起こしにより、まちの魅力を発見・創造・発信してまちを活性化。



(大正筋商店街) 新長田地区商店街

【取り組みの背景】

JR新長田駅周辺は、「履き倒れの街・神戸」 にあってケミカルシューズ産業で栄えてきた地域 である。商業面では、駅の南側を中心に、いくつ もの商店街が集まって商業集積を形成している。

ここは、平成7年の阪神・淡路大震災で多くの 商店や住宅が倒壊、また大規模な火災の発生など により壊滅的な被害を受け、大規模な区画整理、 再開発を余儀なくされた地域である。

このため、震災後は再開発ビルの建設などハード事業が進捗していたものの、地元の商業者は商店街のソフト面に対し危機感を持ち、商業再生・活性化のための取り組みを始めた。平成20年、この地域の中心市街地活性化基本計画が認定された。

【取り組みの概要・経過】

以前は、いくつもの商店街が隣り合わせながらも各々で活動していたが、震災からの復興に取り組む中、この地域一帯の回遊性を高めるため、複数の商店街などが連合して(株)神戸ながたTMOを組織し、まちづくりに取り組んできた。

活動のひとつに、「'震災の街' から'食の街'へ」がある。これは当初、震災の被害を学ぶ目的で街を訪れていた修学旅行生への"おみやげ"のため、「ぼっかけ」(牛すじとこんにゃくを甘辛く煮込んだ長田発祥といわれる料理)をカレーやコロッケなどとあわせて商品化したことなどである。今では大手食品メーカーやコンビニエンスストア等とコラボレーションするなど全国的に有名になっている。

他には、「アジア」をテーマとした飲食店等を商店街の空き店舗を利用してチャレンジショップとして集積したり、個々の店舗の魅力を発掘するため一店逸品運動も開始するなど、実に多様な事業を行っている。

また、平成21年夏には、高さ18メートルの「鉄人28号」のオブジェが商店街の北側に隣接した公園内に完成する予定である。これは、この地域が漫画「鉄人28号」「三国志」などの作者である横山光輝氏の出身地であることにちなんだ事業

兵庫県神戸市

「KOBE鉄人PROJECT」の一環である。

ちなみに、これはアニメキャラクターのモニュ メントとしては世界一の大きさを誇る。

そのほか「三国志」にちなんだ事業としては、近い将来完成に向けて計画されている「(仮称)三国志ミュージアム」の建設に向け、各商店街のアーケードのバナーにかかる三国志登場人物のイラスト掲示や、三国志武将の等身大となる石像の設置、関連イベントの開催など、地域を盛り上げていこうと企画している。

このように発掘、創造された地域資源を活かし、 現在は30歳以上の世代を主なターゲットとして 「大人が3時間楽しめるまち」をテーマにまちづ くりを進めており、近隣の大学生とタイアップし、 地域内を一定のテーマで3時間かけて巡るコース の検討などが行われている。

【取り組みの効果】

「10人いれば、やりたいことは10通りある。 それを全て実現する。」ことをモットーとして、 多種多様なことに取り組んできた結果、今までな かなか気づかれなかった地域のポテンシャルを、 商業者、住民が自ら発掘し、地域資源として活用 している。

【今後の課題など】

震災を経て、製造業のまちから住宅地へと変貌 している町の状況に、商店街がどのように対応し ていくのかが課題。地域外からの来街者を呼び込 みつつ、「住みたくなるまち」をつくることにより、 結果として商圏内人口を増やすことが必要である。

【新長田地区商店街】

所在地:兵庫県神戸市

店舗数:9商店街等274店舗

(新長田 1 番街商店街振興組合、大正筋商店街振興組合、六間道商店街振興組合、六間道商店街振興組合、六間道商店街友和会、新長田本町筋商店街連合会、西神戸センター街親交会、丸五市場事業協同組合、腕塚食材商業協同組合、久二塚商業協同組合)

商店街の類型:近隣型商店街

URL:

※神戸ながたティ・エム・オー

http://www.kobe-nagata-tmo.com/

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・世界一お好み焼きなど"コナモン"の店 が集積。
- ・世界一巨大なアニメキャラクターオブジェ 「鉄人28号」がこの夏完成。





(こなもん祭り)

地元の特産品である「かばん」を アイテムとした商店街活性化!!

? ここがポイント

商店街を「カバンストリート」と位置づけ、ギャラリー「カバンステーション」を拠点にかばん産地豊岡の情報発信を行っている。



宵田商店街"カバンストリート"

【取り組みの背景】

宵田商店街は、かつては多くの商店でにぎわっていた商店街であるが、近年、モータリゼーションの進展や近郊の大型小売店との競合などにより、活気がなくなっていた。

このような中で、現在、豊岡の特産品である'かばん'に着目しての取り組みが行われている。

この取り組みは、有数のかばん産地でありながら、全国的にはあまり知名度のない「かばん産地豊岡」を商店街がPRすることにより、観光客を商店街に誘導し、活性化へつなげたいという思いから始まった。

【取り組みの概要・経過】

地元の鞄産業と協力し、平成17年、商店街を「カバンストリート」として位置づけた。アーケードに「カバンストリート」の看板を設置するなど、 積極的にPRしている。

同年、ギャラリー「カバンステーション」を商店街振興組合の運営でオープンした。これは、商店街の若手が中心となって検討を重ねたものである。このギャラリーを情報発信元として、かばんのPRが行われている。

ここでは、誕生日別の365種類のトートバック(「365バースデートート」)、近郊に城崎温泉があることにちなんで旅行雑誌とコラボレートして製作した「湯めぐりバッグ」といったユニークなオリジナル商品の販売も行っている。また、かばんの展覧会などのイベントも行われている。

また、商店街の既存の商店の一角を利用して、 その商店の取り扱っている商品や雰囲気にマッチ したかばんを展示し、販売も行っている。

そのほか、自動販売機でオリジナルのかばんを 販売するなど、他に例を見ない活動も行っている。

【取り組みの効果】

かばんの自動販売機などがメディア等にたびたび取り上げられたため、近隣の観光地へ来た観光客がカバンストリートへも訪れるようになっており、「かばん産地豊岡」のPRと、観光客の商店街への誘導が効果としてあらわれている。

【今後の課題など】

「かばん産地豊岡」としてのさらなる情報発信と 取り扱うかばん商品の充実や、商店街のハード及 びソフト面の拡充をしていかなければならない。



(これがカバンの自動販売機!)

【宵田商店街】

所在地:兵庫県豊岡市

会員数:40名

店舗数:23店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:

※商店街

http://www2.nkansai.ne.jp/shop/yoida/

index.htm

※カバンストリート

http://www.cabanst.com/

【この商店街にこの人あり】



理事長 兼先正雄さん

宵田商店街理事長としてカバンストリートの宣伝に努めるほか、兵庫県の大型観光交流キャンペーンを通じて、まち全体を博物館にみたて特産の鞄をPRする「まちごとカバンミュージアム実行委員会」の委員長としても活躍している。

【うちの商店街、ここが自慢】

めずらしいかばんの自動販売機や、かばん の匠の工房がある。工房は見学することも できる。

商業インキュベータ施設などの拠点整備等により、 まちのにぎわいに寄与!!

? ここがポイント

商業インキュベータ施設の開設や、大型空き店舗を活用したスーパーの誘致により、商店街の通行量が3割増加。



(クリスマスイルミネーション) 奈良もちいどのセンター街協同組合

【取り組みの背景】

奈良もちいどのセンター街は、創業100年を 超す商店も多い歴史の長い商店街である。しかし、 以前商店街近くにあった市役所の移転などのため、 1970年代末から客足が遠のきはじめ、平成 12年頃から空き店舗が目立ちはじめた。

このような状況から、商業インキュベータ施設 の開設を行うなど、まちの活性化に向けた事業に 取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

商店街が、廃業したパチンコ店舗跡地を買い上げ、若い起業家のための商業インキュベータ施設「もちいどの夢CUBE」に再生、平成19年にオープンした。現在、この施設には新規開業者の経営するミニ店舗が10店舗集積しており、個性ある店がまちににぎわいをもたらしている。

また、平成20年に奈良市中心市街地活性化基本計画が国に認定されたことを受け、商店街の大型空き店舗を活用して、それまで地元に不足していた食品系スーパーを誘致し、「フレッシュマートオーケスト」として開店した。この店舗前の広場ではさまざまなイベントを開催している。

また、地元の奈良女子大学との連携により、商 店街や市民を招いた出張講義を開くほか、企画イベントなどを実施している。

他の商店街と連携した取り組みとしては、毎年 近隣の奈良国立博物館で開催され多くの人出でに ぎわう「正倉院展」にあわせて、「奈良もちいどの センター街」を含む近鉄奈良駅近辺の8商店街等 が協力し、平成17年からスタンプラリーを実施して地域を盛り上げている。

【取り組みの効果】

平成18年以降、「もちいどの夢CUBE」のオープンを経て、平成20年の通行量は3割増となった。また、徐々に新規出店が増え、一時は10店舗近くあった空き店舗も減少した。

また、それらの新規出店と以前からの商店がうまく解け合って商店街の活性化、地域のにぎわいに寄与している。

【今後の課題など】

老朽化した集合店舗が残る店舗が移転し全体に 空きビルになったので、その新築計画に期待する とともに商店街も協力したい。



(「夢CUBE」オープニングイベント)



(フレッシュマートオーケスト)

【奈良もちいどのセンター街協同組合】

所在地: 奈良県奈良市

会員数: 45名 店舗数: 85店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:

http://www1.kcn.ne.jp/~mochiido/

※ブログ

http://naviblo.navvita.jp/mochiido.php

【この商店街にこの人あり】

松森理事長

- · 中心市街地活性化協議会委員
- ・メールマガジン等での情報発信、問題提起
- ・中心市街地の8つの商店街の集まりである中心市街地活性化研究会の専務理事として、中心市街地における商店街全体の取り組みをはかっている。

魚谷専務理事

- ・商店街の若手後継者
- ・バサラ祭り
- ・正倉院展に合わせたイベントの企画
- ・「校倉な会」リーダーとして、正倉院展 に合わせ、有志で商店街にちなんだ商品 づくり。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・商店街の中に春日大社の大宿所があり、 また理源大師や弁財天が祀られており、 このような歴史に基づいたイベントを継 続している。
- ・24時間テレビ「愛は地球を救う」の中 継基地を20数年来継続している。

「年中夢中! てんりストリート」 でまちづくり!!

? ここがポイント

地元大学とタイアップして商店街のにぎわい拠点を開設するなど、若い力を取り入れて活性化を目指す。



天理本通商店街

【取り組みの背景】

天理市は、天理教教会本部がある宗教都市であり、多くの天理教信者が来訪する。

市の中心部に位置する天理本通商店街は、JR 及び近鉄の天理駅を起点として、奈良県下最長の 約1kmの長さを持つ商店街であり、川原城アー ケード商店街と三島アーケード商店街の二つの団 体から構成されている。店舗数は飲食店、土産物 店、洋品店など約190店舗を数える。

また、商店街周辺には天理教本部や大学があり、 近隣には山の辺の道や石上神宮といった史跡もあるため、天理教の月次祭(毎月26日)を中心に 天理教信者や観光客の来街は多く、空き店舗も全 店舗数の数%以下にとどまっている。

しかしながら、近年、近郊への大型小売店出店の影響などによる地域住民の来街の減少や商店主の高齢化、後継者不足などにより、従来と比較すると空き店舗数も増加傾向にあるため、商店街は活性化に向けた取り組みを始めた。

【取り組みの概要・経過】

平成18年から、市商工会が中心となり、地元 大学、商店街、商工連盟、行政などと連携して「中 心商業活性化実行委員会」を立ち上げ、商店街活 性化に向けた検討を始めている。

その活動のひとつに、平成20年に商店街内の空き店舗を活用したにぎわいづくりの拠点「てんだり-colors」の開設がある。ここは地元大学の学生を中心に運営されており、学生が野菜や果物を販売する青空市や寄席、大学のサークル活動の発表会などのイベントや一般も聴講できる大学のサテライト講義が行われている。

また、商店街マップの作成や商店街内への休憩 スペースの設置、大学の学園祭と連携したイベン ト開催なども行っている。

現在は、平成21年3月のイベント「年中夢中! てんりストリート」の実施に向け、検討を重ねている。このイベントは今後定期的な開催を目指し

奈良県天理市

ており、来街者が楽しみながらまちを回遊するための様々なイベントが計画されている。

【取り組みの効果】

「中心商業活性化実行委員会」は、商店街と地元大学が初めて連携した取り組みである。学生が商店街に入り込み商店主らと意見交換を行うことで、商店街に新たな雰囲気が作られつつある。

【今後の課題など】

「てんだり-colors」のさらなる活用のため、地元大学の留学生による一般向け語学教室の開催といった新しい事業を検討し、実施していくことが課題。

また、来街者に学生や高齢者が多いため、これらの特徴を捉えた事業の構築が必要である。



(学生による青空市)

【天理本通商店街】

所在地:奈良県天理市

会員数:187名 店舗数:187店舗

(川原城アーケード街、三島アーケード街)

商店街の類型:門前町型商店街



(「てんだり-colors」オープン)



(「てんだり-colors」での意見交換)

【うちの商店街、ここが自慢】

・ 奈良県下で最も長いアーケードを持つ商 店街。

「安全で安心な街、歴史と伝統のある商店街」を 地域住民や若い経営者に残すため、 商店街が連携して取り組む!!



今年のテーマを「個店、商店街のファンづくりと、商いは心から」として、商 店街が連携して活動。



ヤーヤー祭りの風景(銀座商店街)



大道芸の演出(宮路通り商店街)

【取り組みの背景】

和歌山県田辺市は、古くは平安の中頃より熊野三山への参詣の要衝として栄え、今日に至るまで紀南地域の政治、経済、交通、文化の中心地として、さらに商店街地域はその中核的な役割を担ってきた。

しかし、近年になり、昭和45年頃より大規模小 売店舗や専門店が郊外に出店し始めると、中心市街 地への集客が減少し店舗の売上げの低下と空き店舗の増加が年々深刻さを増す厳しい状況となってきた。

日増しに危機感が募るなか、平成4年頃より行政・ 商工会議所・商店街関係者等が一体となって、市街 地を東西に走る都市計画道路の整備と沿線の街なみ 景観の整備に取り組み、平成7年に始まった銀座・ アオイ・海蔵寺地区の「沿道区画整理型街路事業」 は平成21年に完了する予定である。

さらに、平成20年には田辺商工会議所に田辺市 中心市街地活性化協議会が設立され、まちの活性化 に向けた取り組みを進めている。

【取り組みの概要・経過】

田辺市商店街振興組合連合会の基本理念を「中心地に人々を呼び戻そう」と定め、今年のテーマを「個店、商店街のファンづくりと、商いは心から」として、歴史と伝統ある商店街を地域住民や若い経営者に残すべく、同連合会が軸になりながら各商店街と共に取り組みを進めている。

◆フリーマーケット「びつくり箱」

商連青年部によりオープンした、空き店舗を活用 したレンタルスペース型フリーマーケット。ここで は一般の方が持ち寄った品々が展示販売されている。

和歌山県田辺市

◆ヤーヤー祭りによる賑わいづくり

昭和46年から実施されている夏の夜の祭りで、 8月に商店街地域全体を歩行者天国にして、各商店街が趣向を凝らしたイベントを行っている。

◆教育助成券付きイルカカード事業

ポイントカードによる販売促進事業であるが、平成18年からは教育振興の目的とカードの利用促進を図るため、10円の「教育助成券」を追加した。

◆アオイ通り商店街の土曜市

平成12年に改修されて広くなった歩道を利用して、定期的に朝市が開かれている。

【取り組みの効果】

フリーマーケット「びっくり箱」には年間1万2 千人~1万8千人が来店し、またヤーヤー祭りは約 4万人の人出があるなど、商店街の集客力は向上している。

また、教育助成券付きイルカカード事業は、子供 達の教育教材等の購入に育友会・学校が活用し、地 域と一体となった取り組みとなっている。

アオイ通り商店街の土曜市は、地域の生鮮産品などが好評で、農村地域と連携したコミュニティの場となっている。

【今後の課題など】

安全・安心なマチ、コミュニティが形成されたマ チ、高齢者や子育でに優しいマチを推進し、「魅力あ る商店街」を目指す。

また、平成21年10月に予定されている第13 回全国商店街サミット田辺大会の開催では、大会テーマを「商店街の務め(役割)」として、全国の商店街関係者から多くの参加者を募り、将来に向けた商店街のあり方を共に探る。全国の商店街の方々と商店街の課題と取り組みを共有すると共に、田辺市のPRにつなげることが課題。

【田辺市商店街振興組合連合会】

所在地:和歌山県田辺市

会員数:10商店街328商店

(駅前商店街振興組合、北新町商店街、栄町 商店街、銀座通商店街、湊本通り商店街、 宮路通り商店街、駅前新通商店街、弁慶町 商店街、海蔵寺商店会、アオイ通り協同組合)

商店街の類型:地域型商店街

URL:

※商店街

http://www.aikis.or.jp/~shouren/

※イルカカード

http://www.irukacard.com/



【うちの商店街、ここが自慢】

商店街振興組合が軸となり、市内商店街が連携して活性化に向けた取り組みを行っている。



(イルカカード)

住民との協働による湯浅町のまちづくり ~身の丈にあった手作りのまちづくり戦略~

? ここがポイント

湯浅のまちづくりは、小さい一つひとつの事業を各関係者・住民と連携協力しながら、着実に真面目に進めてきました。「計画や提言づくり」要は「口だけ」から決別し、「行動すること」「着実に事業を進めること」に地道に必死で取り組んでいる。



シロウオ祭りの風景

【取り組みの背景】

平成9年頃から自主的なまちづくりの在り方が 検討されていた。平成12年度には旧法に基づく 湯浅町中心市街地活性化基本計画が策定され、中 心市街地活性化法に則ったまちづくりが本格化す る。

平成13年度には湯浅町商工会が TMO 構想を作成、平成14年3月、町から TMO としての認定を受けた。TMO 構想は個性的な地域作り、商業中核拠点作り、賑わいと懐かしさが溢れる施設と仕掛け作り、回遊性のある地域作り、癒しのまちづくりを方針として掲げ、人材・財源の制約がある中、実現可能な事業から地道に積み上げる、

身の丈に合った展開を図ることになった。

【取り組みの概要・経過】

町内道町南商店街の熊野古道、北町・中町・鍛冶町では、醤油・味噌の製造に関わる古い町並みを活かし、商店街・自治会と熊野古道研究会・町並み研究会・和歌山大学等が連携し、国や町の補助を活用しながら建物や立石のような道標の保全・補改修・修景等、町並み景観整備に努めている。平成18年10月には、北町・中町・鍛冶町の町並みが重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。

また、町内外の有志の発案と積極的な参画・協力を得て、湯浅祭り、湯浅の鯖ッと鯵まつり、シロウオ祭り等が、町民ボランティア等の協力を得つつ開催されている。地域ブランド形成、イオン・グループとの連携による販路開拓・知名度向上等にも役立っている。

伝統的なシロウオ漁の復活、町内案内地図設置、 回遊ルート・マップ作成、語り部育成等の取り組 みも活発に行われている。加えて、アクセス性や 回遊性を促進するため、JR 湯浅駅前駐車場の無 人化と運営を行ったり、レンタサイクル事業に取 り組んだりしている。

【取り組みの効果】

身の丈にあった活動の結果、新聞社やメディアの取材、他県からの視察なども多く受け入れるようになった。湯浅町を訪れる観光客も以前は26万人だったが、平成19年には36万人までになった。また、平成18年12月には、念願の「重要伝統的建造保存地区」の指定を受け、さらに町全体が盛り上がりつつある。

【今後の課題など】

平成18年度からの第2次アクションプラン事業に着手している。今後とも「身の丈にあった手づくりのまちづくり」を基本方針として、行政、商業者、住民等の各関係者と協働体制の下、数々のまちづくり活性化事業を実施していく。

しかし、観光入り込み客を相手に事業を始め収益を上げるまでに育て上げるという段階に進むためには多くの問題点が存在している。

中心市街地では今もなお商店の閉店が相次ぎ、 老朽化した店舗等が取り壊されるものもあり、未 だ多くの課題が残されている。



古い町並みを活かした「お休み処」の整備



熊野古道へ続く「道南町商店街」の風景

【湯浅町商工会(湯浅町TMO)】

所在地:和歌山県湯浅町

会員数:207名 店舗数:207店舗

商店街の類型:近隣型商店街

URL:

http://www2.w-shokokai.or.jp/ yuasa/tmo/index_tmo.html

「市」と「KIHACHI祭り」で、 商店街ににぎわいを!!

? ここがポイント

おかみさんパワーとDARAZ精神(独創性、チャレンジ精神)で商店街を元気にする市や祭りを開催。多くの出展者と来街者を集め、往時の賑わいを取り戻す。



本通り商店街、元町通り商店街

【取り組みの背景】

平成16年1月、停滞する商店街を活性化させようと、 商店街で商いに携わる女性達が「プロジェクト米子」を組織した。プロジェクト米子では、かつてのにぎわいを取り 戻そうと取り組むなかで、昔行われていたという戸板を 使った商法を「戸板市」として復活させることを企画した。 平成16年7月、商店街の恒例行事である土曜市において 「戸板市」を併催したところ、多数の出店者と集客でにぎ わい、大成功を収めた。

この成功により、平成17年以降も戸板市を開催することになり、プロジェクト米子を核に地域の4商店街が中心となり実行委員会が組織された。また、平成18年春には、米子市出身の映画監督・故岡本喜八氏のダラズ精神(独創性、チャレンジ精神)をよりどころに、ばかばかしいこ

とをやってまちを元気にしよう、と米子高専建築学科の学生と若手経営者でプロジェクトが動き出した。

プロジェクトは、「KIHACHI OKAMOTO PROJECT」と名づけられ(平成19年NPO法人喜ハプロジェクト設立)、商店街を舞台に様々なイベントや事業を行い、平成19年に第1回「KIHACHI祭りin米子」を開催したところ、2日間で1,200人を集め成功に終わったことから、翌20年に第2回を開催し、平成21年以降も開催する予定にしている。

【取り組みの概要・経過】

(戸板市) 商店街の空き店舗の前に板を並べ、フリーマーケットのスペースとして一般市民や商業者に貸し出し、商売をしてもらうというもの。本通り商店街から元町通り商店街に連なる約600mのアーケード内の空き店舗、空地の前面通路及び元町通り商店街のイベント広場を会場に、60枚から90枚の「戸板」(90cm ×180cmのコンパネをビールケース4つで作った台座の上に載せた陳列台)を設置し、食料品、衣料品、農産物、雑貨、手作り小物など、思い思いの商品を販売。現在、年4~5回開催しており、毎回テーマを決め、来街者が飽きないよう企画している。

(KIHACHI祭り) 米子市出身の映画監督・故岡本喜八氏のダラズ精神(独創性、チャレンジ精神)をよりどころに、

商店街を舞台にばかばかしいことをやってまちを元気にしようとするもの。

第1回 (平成19年度) では、「喜ハアーカイブ」 「KIHACHI DESIGN ART EXHIBITION」「聖人バス ツアー」など10のイベントを実施。2日間で、予想を上 回る延べ1,200人を集めた。

第2回(平成20年度)は、戸板市と同日に開催し、商店街のアーケード内をコースに見立て、台車の上で腹ばいになり進む「スイム」、三輪車をこぐ「バイク」、股にボールをはさんで進む「ラン」の三つの競技からなる「第1回DARAZトライアスロン世界大会」の開催や、「喜八映画上映会」など13のイベントを実施した。

【取り組みの効果】

年4~5回の戸板市の開催日は、たくさんの出店者と数多くの来街者で商店街が溢れ、往時のにぎわいが復活している。「KIHACHI祭りin米子」の開催では、戸板市ではみられない数多くの若者が商店街を訪れた。特に、平成20年の「KIHACHI祭りin米子」では、戸板市と同日開催であったとはいえ、2日間で15,000人を集め、テレビを始め各種メディアに驚きをもって取り上げられた。開催5年目を迎え市民に定着した戸板市と、2日間にわたり切れ間なくイベントを繰り出すKIHACHI祭りのコラボレーションにより、商店街関係者にとって、工夫をすれば商店街に昔以上のにぎわいが出来るという自信となった。

戸板市に関しては、プロジェクト米子が商店街の横断的な組織であったことから、戸板市の開催に際して複数の商店街が連携をとって取り組み、KIHACHI祭りも各商店街を横断するイベントであったが、主催者が事前に各商店街に趣旨の徹底を図ったことにより、商店街同士の協力体制をとることができた。さらに、この成功で、市民に対して商店街を再認識させる効果があったと考えられる。

【今後の課題など】

戸板市におけるにぎわいは、戸板を借りて商売に取り 組もうとした外部からの参加者の力によるところも大き い。既存商店主による戸板出店や協力がまだまだ低調で、 せっかくの集客も十分に生かせず、店舗の中に足を運んで もらう工夫が足りなかった。

「KIHACHI祭り」に関しては、第2回目の祭りが大ブレイクしたが、来年度以降、イベントがマンネリに陥らないよう工夫する必要があり、年に1回の祭りだけでなく常時人を呼び込むイベント等の開催も求められる。

また、「市」が開催されていない時は、以前と変わらず

【本通り商店街、元町通り商店街】

所在地:鳥取県米子市紺屋町31番地 鳥取県米子市日野町83番地

会員数:64名、35名

店舗数:95店舗、44店舗 商店街の類型:地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



(左から)下平美智子、松田美智子、 松田和美、藤尾久子 (商店街のおかみさんたち) ながらく低迷する商店街に業を煮やし、な んとか打開策をと、戸板市を発案。 現在も核となって戸板市を仕切っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

停滞する商店街を活性化させるため、連続する3つの商店街振興組合と1つの任意商店会が一致団結。

福の神にあえる街

「あきない中心倉」

!) ここがポイント

地域の歴史・伝統・文化を掘り起こし、仏師という人的な地域資源と商業との 融合により「福の神にあえる街」づくりを目指している。



長谷の観音市 (本町通商店街)

【取り組みの背景】

昭和40年代まで本市で最も賑わっていた中心 市街地本町通り商店街は、近年は郊外の大型店等 にお客を奪われ、後継者もなく空き店舗が増え活 気を失っていた。

停滞の続く中心市街地の活性化を目指し、平成 4年から特定商業集積法に基づく取り組みとして 「成徳地区まちづくり基本構想」を作成し、「先駆的 商店街にぎわい創出モデル事業」として鳥取県及 び倉吉市より助成を受けて街づくりが推進された。

城下町として繁栄した面影が残るエリアを「白 壁土蔵群・赤瓦」と称して、歴史ある商家の町並 みを活かした事業が展開された。江戸から明治期 にかけて建てられた白壁土蔵群内の土蔵を商業拠 点施設として整備し、独自性のある観光商業機能 を付加し、地域への集客と商店街の活性化を図る 取組みがスタートした。

平成10年には「白壁土蔵群・赤瓦」エリアに 第3セクターによるまちづくり会社「株式会社赤 瓦」の設立も相まって、平成9年では、このエリ アへの入込客数は約13万人であったが、平成13 年では約28万人の観光客が訪れるようになった。

しかし、「白壁土蔵群・赤瓦」エリアに集客が 見られるようになった反面、そのエリア外への集 客は以前同様に少ないままであった。そこで更な る飛躍を目指して、平成14年に地元商店主グルー プによる任意団体「あきない中心倉」が発足した。

【取り組みの概要・経過】

あきない中心倉の取組みは、周辺地域の歴史及 で文化を掘り起こし、地域の中の資源として再生・ 活用することで、白壁土蔵群周辺での観光客の回 遊性を創出し、中心市街地の活性化を図っている。 ① 倉吉在住3人の仏師の協力により、各店舗に 木彫りの「福の神」を設置し、福の神に関連し た事業を展開することで「福の神にあえる街づ くり」を推進し、観光客の誘客と商店街の活性 化に積極的に取り組む。

② 大阪豪商淀屋と倉吉の縁や滝沢馬琴作「南房 里見八犬伝」のモデルとなった里見忠義公の史 実を調査研究し、それを登録有形文化財である 「豊田家住宅」において歴史講談として、観光客 をはじめ地域住民にその魅力を語り継いでいる。

【取り組みの効果】

地域住民が主体となった観光客との交流の中で、倉吉の歴史や文化を体感してもらう観光地域づくりが出来てきている。

- ① 平成19年には過去最高の36万人の観光客 が白壁土蔵群・赤瓦周辺に訪れている。
- ② 「福の神にあえる街づくり」事業の推進により、観光客の本町通り商店街全体への回遊性創出に取り組んでいる。
- ③ 歴史講談を通して、倉吉の歴史や文化を県内外にPR出来ている。また、この事業により得た収入を、広告や運営資金とする自立可能なマネジメントシステムの構築に挑戦している。

【今後の課題など】

商店主グループによる「福の神にあえる街づくり」事業は、地元自治体や学校との連携を得て地域に着実に浸透してきている。今後とも広く賛同を得て「住む人が心地よければ、訪れる人も心地よい街」福の神にあえる街を目指していく。



福の神 福禄寿



倉吉の歴史講談

【本町通商店街(あきない中心倉)】

所在地:鳥取県倉吉市

会員数:20名

店舗数:50店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:『あきない中心倉』

http://www.apionet.or.jp/~akinai/



あきない中心倉豊田会長

地元商店主グループ「あきない中心倉」の 会長。各店舗に木彫りの「福の神」を設置し、 観光客の誘客と商店街の活性化に積極的に 取り組んでいる。

松江の歴史と文化を 感じさせるまちづくり!!

? ここがポイント

昭和初期の趣を残した和風旅館を和洋折衷のレトロな空間として松江文化(茶・食)の発信地へ転換。



老舗旅館を改装した「蓬莱荘」

【取り組みの背景】

松江市は江戸時代以来、山陰の政治経済の中心として発展し、2007年には開府400周年を迎えた。中でも殿町地区は県庁、金融機関、新聞社、デパートなどが集積し古くから賑わっていた。

蓬莱荘は昭和初期に松江市殿町に創業し、松江を 代表する高級料理旅館として栄えてきた。しかし昭和 50年代以降、松江市の中心街の空洞化とともに衰退 し、活力をうしなっていった。

松江市では中心市街地の活性化に向け南殿町エリアを重点地区の一つとして旧日銀松江支店を活用した体験工房「カラコロ工房」整備や市道整備を行い、さらに地元でも南殿町再開発ビルの建設など活性化に取り組んできた。

このような状況において、松江市内の企業経営者 有志4名により「松江まちづくり有限会社」が設立さ れ、蓬莱荘を核とした新たな中心市街地活性化計画 の検討を行ってきた。

【取り組みの概要・経過】

平成18年度には松江まちづくり有限会社は広く市民・企業に出資を募り、趣旨に賛同した株主200人からなる株式会社に改組。これにより集まった資金に加え、経済産業省「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」の支援を受け、平成17から18年度にかけ蓬莱荘をリニューアルして松江の食文化の情報を発信する新たな観光スポットとして再整備することとなった。また、併せて「まちづくりワークショップの開催」、町あるき地図「カラコロ散策マップ」の作成や水燈路(松江城周辺堀川端でのライトアップイベン



蓬莱荘でのイベント

ト) と連携したまちの魅力を引き出すためのソフト事業を行っている。

こうした実績により、平成20年6月「第26回まちづくり月間にて」まちづくり功労者国土交通大臣賞を受賞した。

現在は、中小機構の専門家派遣制度を利用しながら、次のまちづくりプロジェクトを検討している。

【取り組みの効果】

「蓬莱荘」の整備により、日本庭園を眺められ、アンティーク家具など和洋折衷の空間で日本海や宍道湖の魚介類が味わえる割烹「蓬莱吉日庵」、島根を代表する特産の出雲そば「一色庵」、蔵を改装したジャズバー「常乃家」と、地域色を活かした店舗が入居オープンし、あまり知られていなかった殿町に残された古きよき時代に造られた建物が見直され、この雰囲気を活かして食(日本酒、そば、抹茶)や音楽をテーマとした各種のイベントが開催されている。また、その趣から古典芸能のイベント会場としても活用されており、当初の目標どおり殿町の活性化に貢献している。

【今後の課題など】

従来、松江の観光は多くが自動車で直接目的地に 乗り付け周辺の散策を行うことのない通過型となって いた。松江城、武家屋敷、小泉八雲旧居、堀川遊覧 船といった「松江城周辺」、カラコロ工房や松江大橋 周辺などいわゆる「カラコロエリア」はそれぞれ年間 20~30万人が訪れる観光地である。このエリアの 中心に位置する蓬莱荘にはそれぞれの観光地を繋ぐ役 割が期待されており、さらに隣接する南殿町、京店と いった古くから続く老舗が軒を連ねる商店街の活性 化、街のにぎわい創出に繋がると考えられる。こうし た効果を引き出すためには周辺商店街との連携強化、 観光施設同士を結ぶ道路や小路の整備による回遊性 の向上など、地域の底上げを図るための取り組みが 必要である。

【松江まちづくり株式会社】

所在地:島根県松江市殿町101番地

株主数:200名

資本金:300万円

商店街の類型:まちづくり会社 URL:http://www.horaiso.com

【この商店街にこの人あり】



坂本拓三(松江まちづくり(株)取締役) 一級建築士・技術士 松江市内で建築設計事務所を経営しており、 蓬莱荘のリニューアル工事を担当。

【うちの商店街、ここが自慢】

蓬莱荘は「松江城」「カラコロ工房」といった松江を代表する観光スポットの中心部に位置する街中にありながら、日本庭園や蔵などの残る「奥座敷」ともいえる場所である。出雲そば、日本海、宍道湖の海産物といった郷土料理を味わえる店舗が入居している。また、商店街には造り酒屋や和菓子店などの松江らしさを味わえる老舗店舗が多くあるうえ古くから残る建築物、庭園などが数多く残されており、城下町松江の文化や歴史を感じることのできるエリアである。

人にやさしい対話のある街をめざして!! ~空き店舗がなくなった~

? ここがポイント

「人にやさしい対話のある街」をコンセプトに環境整備、イベント等各種事業 を重ね、商店街の認知度アップ。



七タフェスタの様子

【取り組みの背景】

平成3年に浜田と広島を結ぶ浜田自動車道が全線開通。大手スーパー、コンビニの進出等により人の流れが変わり、また全国的な少子高齢化による経営者の高齢化も進み、商店街が衰退していった。

このような中、かつての商店街の賑わいを取り戻そうと、消費者を対象にアンケートを行ったところ、商店街のイメージ、サービスについての厳しい指摘も寄せられた。これらの消費者の声を反映する形で、商店街のコンセプトを「人にやさしい対話のある街」と定め、活動方針の基本としてハード・ソフト整備に取り組むこととなった。

【取り組みの概要・経過】

ハード事業は平成10年度以降、レトロ調の街路灯整備、商店街の美化(シャッターペイント、ハーブによる緑化推進)、来客用トイレ「さわやかトイレ」を整備。市道のカラー舗装とあわせて歩いて楽しめる街並みづくりを進めてきた。

ソフト事業では、空店舗を活用したチャレンジ ショップ事業による新規出店者の募集や新規イベント に取り組んだ。

イベントについては季節にあわせて以下のようなイベントを開催している。

3月 春らんまん

4月 浜っこ春まつり

6~7月 土曜夜市

7月 七夕フェスタ

9月 月待ち

10月 秋祭り(未来のピカソ展)

12月 水高市場(水産高校生徒による 手作り商品の販売等)

特色あるものとしては、20年前から市内の幼稚園、 保育園児の絵を商店街の各店頭で展示を行い、優秀作品を表彰しており、現在も「未来のピカソ展」として 継続している。また、子供の職業意識啓発の一環として、市内の学校の児童・生徒を対象に商店街各店舗で 職業体験事業を実施。島根県が実施している子育て支

島根県浜田市

援事業とも連携し、平成19年度から県と商店街との 共催で子どもが商品づくりや販売を体験できるイベン トを実施している。

そのほか、商店街の一角に出店した地域の高齢者人材を活用した総菜販売や高齢者への配食サービスを行う店舗を起業時から支援しており、地域に密着した活動を行っている。

【取り組みの効果】

環境整備や各種ソフト事業の継続的な取組により商店街の知名度、魅力が向上し、来街者が増加した。このことが商店街への新規出店に繋がり、平成14年当時14店舗あった空店舗は現在2店舗まで減少させることができた。

年間を通じたイベントの充実度も高まり、更なるイメージアップに貢献している。

【今後の課題など】

商店街のイメージアップと各個店の販売額増を如何 に調和させていくか。

また、こうした活性化の取組が紺屋町を中心に東西につながる他の商店街へ波及することが期待される。



水高市場



未来のピカソ展

【紺屋町商店街振興組合】

所在地:島根県浜田市紺屋町

会員数:44名 店舗数:41店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL: http://www.konyamachi.com/

【この商店街にこの人あり】



段原良則(段原酒店:宣伝部長)

特に若者の中心的存在であり、各種イベントの企画立案、実施に携わっている。また、イベント実施にあたっては、役員の意見ばかりでなく、女性部の意見も取り入れるなど、商店街全体の取りまとめ役として頑張っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

理事長以下執行部及び組合員の意識の向上 により結束力が高まり、各種事業の継続に つながっている。

表町八ヵ町の個性発揮と大型店との連携で商店街を活性化!!

? ここがポイント

各商店街組合の独自のイベント事業や協同事業、商店街周辺の大型店を巻き込んだ連携事業を実施して、地域が一丸となって商業の活性化に取り組む。



「パリ祭」

【取り組みの背景】

表町商店街は、旧城下町の商人町として栄え、上之町、中之町、下之町、栄町、紙屋町、西大寺町、新西大寺町、千日前の八カ町として親しまれてきた。それぞれが商店街の組合組織を立ち上げ、独自、あるいは協同で事業活動を続けてきたが、近年、郊外大型店の増加や、市内中心部における駅ビル(サンステーションテラス岡山)のリニューアルや、岡山駅前ビルへのビックカメラ出店などの影響で、郊外や駅前地区へ集客がシフトする傾向の中、空き店舗の増加や来街者の減少問題などへの対応が迫られることとなった。

【取り組みの概要・経過】

連盟では、スケールメリットを生かしてカード

一括取扱い業務や商店街の中や周辺に立地する大型店等と連携した共通商品券事業を収益事業として実施し、販促事業などの資金として活用してきた。最近では、「ミンナ表町」というコンセプトで、地元百貨店の「天満屋」や若者向けブランドを集めた複合店舗「クレド岡山」、「岡山ロッツ」と連携し、イベント情報などの相互広告掲載やクリスマスセール、ピンクリボンキャンペーンの共催などにより、販促事業の効果を高めている。また、連盟独自の情報発信ツールとしてホームページを作成し、個店情報やイベント情報などの発信にも積極的に取り組んでいる。



「ポケットパーク」

一方、個別の商店街組合でも、上之町商店街が、 商店街に位置する音楽ホールのコンサートと連携 した「パリ祭」やクリスマスの街路を彩る「キャ ンドルクリスマス」といったイベントを展開して いる。栄町商店街では、アーケード空間に様々な 作品展示を行う「空中美術館」や、独自に整備したポケットパークを活用した毎月23日の定期イベント「半畳市」などを開催している。新西大寺町商店街では、昨年から毎週木曜日に生活市としての「木曜市」を開催し、平日の集客にも努めている。さらに、表町商店街として、岡山市が策定を進める中心市街地活性化基本計画に合わせ、「表町商店街区域中心市街地活性化事業構想」をまとめ、今後、空き店舗を活用したテナントリーシング事業など、様々な活性化事業を検討している。



「木曜市」

【取り組みの効果】

大型店との連携により、表町エリア全体でのイベントを展開することが相乗効果となって集客アップに繋がっている。また、各商店街組合が独自に個性的事業を展開することにより、表町に来れば、いつでも、どこかで、何かをやっているという期待感を抱かせるなど魅力アップが図れている。

【今後の課題など】

商店街には生鮮品などの店舗がほとんどなく、 周辺に進むマンション建設による定住者を顧客と していかに取り込むかが大きなポイントとなって いる。そのため、不足業種の空き店舗への誘致や、 既存店舗の魅力を高めるために経営者の意識改革 を行うことが重要となってくる。今後は、昨年か ら始めた経営者向け「商人塾」の充実・継続開催 やテナントリーシング事業の具体化が課題である。

【協同組合連合会岡山市表町商店街連盟】

所在地:岡山県岡山市 店舗数:約400店舗

商店街の類型:広域型商店街

URL: http://www.omotecho.or.jp/

【この商店街にこの人あり】



横山卓司(商店街連盟 理事長) 親子二代で理事長を務め、商店街のリーダー として、また、新たな取り組みを提案する アイデアマンとして活躍している。表町商 店街だけでなく、商店街や大型店で構成される岡山市商店会連合会の会長や岡山県商 店街連合会の理事長など商店街関係団体の 要職をつとめている。また、行政関係の審 議会の委員を務めるなど行政とのパイプも 太く、連携のキーマンとなっている。

【うちの商店街、ここが自慢】

表町商店街は、約400店舗の多種多様な 専門店で構成され、県下で最大規模の商店 街を形成している。また、ワンランク上の ライフスタイルに応える商店街として、そ して岡山の街の顔として脈々と続いている。

できることからコツコツイベント!!

? ここがポイント

身の丈にあったイベントを実施し、身の丈を大きくしていく「にぎわい商人隊」 の活動。



津山市中心商店街

【取り組みの背景】

津山市の中心商店街は、11商店街が旧出雲街道を中心に縦横に連続し、全長約2kmに及ぶ商店街を形成している。

しかし、近年、モータリゼーションの進展とと もに大型ショッピングセンターが郊外へ立地する など全国各地と同様に中心商店街への影響が生じ ている。

中心商店街は、津山商店街連盟を組織しているが、 連盟には事業部がなく、各種イベントのマネジメン トができていなかった。そこで、商店街のイベント 等を行う部隊として「にぎわい商人隊」が発足した。

【取り組みの概要・経過】

にぎわい商人隊は、現在、11商店街のうち、6つの商店街よりメンバーが加わっており、それぞれの持つ得意分野や情報等の意見交換による相互補完を行い、身の丈にあった活動を継続的に実施している。また、そうした活動により、従前のイベントのほか、地元関係者等を巻き込んだ新たなイベントの取り組みを考案し、賑わいの創出に努めている。

平成19年度は以下のイベントを実施し、商店街の賑わいを創出した。

①2007商店街さくら天国

春に因んだ催しを開催し、併せて音楽会なども 行われている。

②第33回・第34回ガレージセール

商店街でガレージセールを行い、併せて使用済 みの割り箸や天ぷら油を回収するなど環境に配慮 したイベントで、開催回数も多いことから定着し たイベントとなっている。

③2007全日本地ビールフェスタ in 津山

日本全国から厳選した地ビールを集め、地元の 子どもや学生が披露する音楽やダンスを鑑賞しな がら地ビールを楽しむことができる。

④ザ・オキナワ in 津山

沖縄物産展、沖縄の食、エイサーなど、津山と

「縁」の深い沖縄を感じられるイベントであり、 商店街が沖縄ムードになる。

⑤2007歳の市

抽選会などを行う昔ながらのイベントを継続して行っている。

⑥津山一店逸品運動(一店逸品フェア)(一店逸品富札クーポン券)

53店舗が加盟している一店逸品運動の販促イベント等を行い、専門店としての強みを売り込んでいる。



全日本地ビールフェスタ in 津山

【取り組みの効果】

継続的なイベントの実施により、来街者への認知度は増してきている。特に10回の開催を超える「全日本地ビールフェスタ in 津山」では、イベントの浸透性も強く、県外からも来客があり、大きな賑わい創出のひとつとなっている。

【今後の課題など】

現在のイベントは、にぎわい商人隊が主体的に 実施しているものが多く、地元関係者等への波及 効果がまだ十分ではない状況。今後は、他の団体 等と協力した集客力の高いイベントを増やしてい くことにより、相乗効果を図っていく必要がある。 また、取り組みの効果や熱意は各個店に定着し

ているが、イベントの実施時には人手不足が生じるケースが出てきているため、会員の拡充や協力員の補強も検討していく必要がある。

【津山市内6商店街】

津山一番街、元魚町、今津屋橋、新地本町

三丁目、宮脇町の6商店街

所在地:岡山県津山市

会員数:162名

店舗数:188店舗

商店街の類型:地域型商店街

関連URL:

http://www.alne-tsuyama.jp/.

【この商店街にこの人あり】



金田勧(かねだ すすむ) (にぎわい商人隊 隊長、 津山一番街商店街、宮脇町商工会) 地ビールフェスタを始め、各種イベントの 仕掛け人。

【うちの商店街、ここが自慢】

津山一番街商店街では、商店街の女性が「ソシオおかみさん会」を組織し、地ビールフェスタなどのイベントを盛り上げるべく、活発な活動を行っている。

福祉のまちへ生まれ変わろうとする バリアフリー商店街!!

? ここがポイント

郵便局跡地への社会福祉施設の進出をきっかけに医療関係施設が立地。さらに 子育て支援施設が設置され、高齢者から子供まで幅広い世代でにぎわう商店街。



帝人通り商店街

【取り組みの背景】

帝人通り商店街は、JR三原駅から歩いて3分の 位置に立地しており、隣接する帝人三原工場と共に 発展を続け、通りの中央には映画館や郵便局もあり、 最盛期には商店街の店舗数は80店舗もあった。

近年、工場の規模も縮小され従業員は減少、また、 隣接地への大型商業施設の進出や商業者の後継者不 足等により店舗数も38店舗まで減少し、郵便局も 移転し長らく空き地となり商店街は衰退していた。

このような中、平成14年5月に市の公募により社会福祉法人泰清会が選定され、この郵便局跡地にケアハウスが建設される運びとなった。

商店街では、このことを商店街活性化のまたとない機会と捉え、高齢化時代に対応した新しいまちづくりに取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

平成16年11月、郵便局跡地に社会福祉法人 泰清会がケアハウスを開設。翌年そのケアハウス の隣に高齢者向けのマンションが建設され、1階 のテナントには皮膚科、眼科、内科、薬局が次々 に開設され、高齢者に優しい商店街づくりを行っ てきた。

平成19年には、マンションの向かい側に3階建てのビルが完成し、1階は整形外科とカフェレストラン、2階は社会福祉法人泰清会が運営する保育園、3階はデイサービスセンターが設置され、商店街の中の隣接地に遊具を備えた園庭が造られた。

平成20年には、空き店舗に子育て支援施設を 開設し、お年寄りから子供まであらゆる世代が集 う地域コミュニティとしての商店街となっている。



さんさん土曜市

【取り組みの効果】

ケアハウス1階には「地域交流スペース」として小さなステージと広間があるスペースを設置、拳法教室、ヨガ教室、フラダンス教室、商店街の会議、講演会などに利用されており , 地域住民の交流が図られている。

また、毎月第1士曜日には「さんさん土曜市」 として市内の大和町や久井町の農産物を販売し、 併せて「さんさんシアター」と名づけた映画鑑賞 を開催することによりリピーターや固定客が増加 している。

さらに、保育園や子育て支援センターの開設により、ベビーカーを押した母親が商店街を歩き、また、立ち止まって会話をしている姿が見られるようになるなど、僅かずつであるがあらゆる世代の人が行き交うようになった。



ケアハウス前でのイベント

【今後の課題など】

- ①さんさん土曜市の出店業者が固定化しているため、業種を増やす必要がある。
- ②イベントを継続して開催するための費用調達の 方法を工夫する必要がある。
- ③平成20年度からアーケードの撤去や歩道のバリアフリー化の事業が実施されるため、今後、統一的な商店街づくりを検討し実践する必要がある。
- ④アーケード撤去後は、天候を考慮したイベントの開催を計画する必要がある。

【三原帝人通り商店街】

所在地:広島県三原市港町

会員数:41店 店舗数:43店舗

商店街の類型:地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



沼田祐二

(社会福祉法人 泰清会 サンライズ港町 生活相談課長兼施設長代理) さんさん土曜市の事務局として様々なイベントを企画実施している。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・お年寄りと小さな子ども達が行き交うまち
- ・社会福祉法人泰清会が中心となり、毎月 第1土曜日に「さんさん土曜市」を企画 している。
- ・大正14年7月にはじまったといわれる 「三原半どん夜市」が三原商栄会連合会 の主催で例年6月中旬から7月下旬の毎 週土曜日に盛大に開催されており、社会 福祉法人泰清会も積極的にイベントへ参 加して商店街が一体となった取り組みを 行っている。

歴史・文化・自然をテーマに まちづくりを進めています!!

? ここがポイント

『いにしえの里三次物怪(もののけ)・でこ街道』として町並み整備。5年間で空き店舗を活用して13店舗がオープン!



三次本通商店街

【取り組みの背景】

三つの川が交わる三次市は、山陰と山陽を結ぶ 水陸交通の要衝だった。江戸時代前期から約90年間は三次藩の城下町として栄え、今でも三次町 には江戸期の町割りや明治・大正期の町家が残る。 その後も商都として発展した面影は、卯建の似合 う町並みに色濃く宿っている。

江戸時代から伝わっている物語で、実在の人物 稲生(いのう)武太夫(ぶだゆう)が妖怪の出現 から退散までを書き残したといわれ、国学者平田 篤胤(あつたね)ほかに取り上げられてきている。

【取り組みの概要・経過】

数々の歴史的資産を大事にして「まちなみ協定」 による町づくりを続けていこうと、平成11年に 「三次町歴みち協議会」が発足。空き店舗の利用 など、町ぐるみで活性化に取り組んできた。

また、街路の石畳化や電線地中化、街路灯の整備をはじめ歴史的な町並みの再生整備を高め、往時のにぎわいを伝えていこうとの取り組みが進んでいる。

店舗と住居が一体となった建物がほとんどで、 商店街の活性化のため空店舗を利用させて欲しい と、若手の組合役員が中心となって粘り強く説得 してきた。



風季舎 昌平本家(空き店舗活用事例)

【取り組みの効果】

平成16年から市の補助制度を活用し、今まで商店街に無かった業種や購買層をターゲットにした13店舗が開店した。特に、女性がオーナー・店主のケースが多く(9店舗)、女性を中心としたまちづくりが期待されている。補助金を使ってオープンした雑貨店女性オーナーは、「歴史ある町の商店街で新たに商い出来る楽しみがあるが、まだまだ人の流れがないので、今後観光を含め少しでも活性化につながるよう、個店イベント等も実施しながら集客していきたい。」と話す。



さき織り工房 たけ田(空き店舗活用事例)

【今後の課題など】

- ○石畳等のハードに合わせたイベント等の開催。
- ○市営駐車場等の整備。
- ○内部に限らず | ターン後継者の育成。
- ○空店舗になっているが、売却・賃貸など行わない店主への協力要請。

【三次本通商店街】

所在地:広島県三次市三次町

会員数:47名(平成20年10月)

店舗数:47店舗

商店街の類型:近隣型商店街 URL:http://www.mhst.jp

【この商店街にこの人あり】



①松本和男(商店街振興組合 副理事長) 歴史をテーマにまちづくりを進める三次本 通商店街の生き字引,三次人形販売の中心 人物「松本玩具店」店主



②山崎夫妻

平成19年度に造り酒屋だった空店舗に新たに出店され、三次の賑わい創出に熱意を燃やしている。

【うちの商店街、ここが自慢】

江戸時代から伝わる町並み(うだつ)や稲生物怪録,三次人形,鵜飼いなど,時代を超えて伝統や伝説が息づいている。

毎年8月に開催される「みよし物怪まつり」 では商店街に百鬼夜行(仮装パレード)で もののけが大量に出没する。

市民との生活共同体への転換を目指す商店街

(1) ここがポイント

新築「どうもんパーク」は、日々の生活に不自由させない市民のマチづくり拠 点に寄与!



「デニムDEどうもんデザインコンテスト」

【取り組みの背景】

山口市の中心市街地を約800mにわたって南北に 貫くアーケード街の南半分の大部分(約300m)を 占めるのが、山口道場門前商店街である。北の端は山 口駅通りに面して商店街中央部に接しており、南の端 は西門前商店街と橋で結ばれ、歴史文化に富む山口市 を代表する商店街となっている。

アーケード街の北半分の核店舗は老舗の地元百貨店 であり、南半分の山口道場門前商店街ではダイエーと サティであった。双方それぞれの牽引力で、中心商店 街全体の均衡が保たれていた。山口道場門前商店街(振 興組合)として、アーケードの連結整備、立体駐車場(9 60台収容)の新設、カラー舗装など、経営環境の変 化に対応すべく努力が続けられていた。

平成10年、ダイエーとサティが相次いで撤退し、 また、この頃から空き店舗の発生が急激に目立つよう になった。これまでの間に6割強の店が新旧入れ替わ ることになったが、現在の経営者の7割は40代~ 50代、2割が20代~30代、従って60代以上は 1割に止まるという稀な若返りを果たしてもいる。

なお、ダイエーとサティの撤退後もアーケードの改 修やイベント広場の開設などハード面での改善事業が 継続するが、平成17年6月には「有限会社どうもん」 (出資比率90%)を設立して「特産品ショップやま ぐちさん」の経営に踏み出した。

【取り組みの概要・経過】

撤退したダイエーの跡地(650坪)を山口市が購 入、平成13年に「コープやまぐち」が入店して営業 再開したものの、すでに老朽化していた建物は寿命が 見えていた。加えて敷地面積の関係上、ワンフロアー 260坪が限界という売場では満足な品揃えが不可 能。というわけで、商店街振興組合は平成18年に周 辺の土地150坪を買い取り(一部賃借契約)、40 ○坪の売場面積を確保できるよう条件整備をし、「ど うもんパーク」建設に踏み出した。この事業は「教養 文化施設、食料品店などの機能を持った中心商店街の 西の拠点を整備する事業 | として山口市の中心市街地 活性化基本計画に位置付けられていた。因みに、山口 道場門前商店街振興組合における本件事業費約5億円 については、国 1/2 の戦略補助金及び市の補助金、入 居テナントコープやまぐちからの長期返済の建設協力 金、財投による低利融資等により資金調達をしている。 " どうもんパーク " は平成19年12月にコープや

まぐちが入店してオープン、歯科医院「MKデンタル

山口県山口市

オフィス」も開院した。平成20年3月には2FにN HK山口文化センターと屋上芝生広場がオープンした。

屋上芝生広場には藤棚や砂場、子供の遊び場が用意されている。また、環境対策として、1Fの食品売場から出る生ゴミを既設の大立体駐車場の屋上で堆肥化して菜園づくりをすると共に、これを屋上庭園の緑化等に還元利用する事業も実施している。

【取り組みの効果】

山口道場門前商店街の通行量は山口市中心商店街全体の動きと同じく漸次減少を辿る中で、日曜日には、北側(山口駅通り側)と南側(どうもん側)で約3倍の差があったものが、近年では南側の増加によってその差が1.8倍程度まで縮んでいる。

山口道場門前商店街(振興組合)の平成20年度の年間販売促進事業を見ると、商店街連合会との共催事業が多いが、独自の事業の中で特異なのは、「デニムDEどうもんデザインコンテスト」とBBQ大会である。前者は先着100名の市民にジーパン又はジージャンを無償提供してオリジナルデザインと加工を依頼、作品を商店街に展示発表して人気投票で20名に賞金を出すというもの。BBQ大会は、夏の行事の締めくくりとして、駐車場の屋上で学生アルバイトや関連業者を加え、組合員と共に慰労の焼肉立食とゲーム大会を催すという内容。

デザインコンテストは、商品づくりを通して消費者の嗜好を探る市民との共同作業であり、BBQ大会には各種行事における作業(労働)協力関係を通じて市民との絆を固めようという狙いがある。

【今後の課題など】

「どうもんパーク」事業に関しては外部コンサルタント等に依頼せず、用地買収交渉も含めてすべてを組合で実行している。組合員の危機意識の高まりを感じとることが出来る。

新築された核拠点「どうもんパーク」は、物販拠点

としては平成20年10月に新規に開店した百貨店(中市商店街)に及び難いところを、市民の日常生活と共存するための(物流以外の)諸機能で補完するという面を大きく前面に打出していこうとしている。若返った組織力、行動力で、高齢化社会における「日常生活に不自由のないマチづくり」を目指すこととしている。

【山口道場門前商店街振興組合】

所在地:山口県山口市道場門前

会員数:46名 店舗数:49店

商店街の類型:広域型商店街

URL: http://www.doumon.net/

【この商店街にこの人あり】



理事長 吉松昭夫

「もっともっと楽しい商店街へ」を目指す 行動力とリーダーシップと包容力を兼ね備 えた山口市商店街の活性化のキーマン。

【うちの商店街、ここが自慢】

情報と文化の発信拠点として、平成19年 にオープンした「どうもんパーク」。レンガ 調の優しい色合いで、地中海風の曲線を多 く用いたデザインが特徴。



地産地消の取り組みで

観光誘客を展開!!



!) ここがポイント

萩市内の農家から直接仕入れた野菜などを販売する直売所と萩沖でとれた魚や 萩の地酒などを味わうことのできるレストランにより、地域経済の活性化と観光 誘客に寄与。



田町商店街

【取り組みの背景】

田町商店街は江戸時代、萩藩主が参勤交代に 使っていた旧お成り道の一角にある。 昭和40年 ~50年代にはアーケードも整備され、萩市で最 も賑やかな通りであったが、その後、大型店の郊 外への進出や自動車社会等の影響を受け、次第に 空き店舗等が増え商店街は衰退してきた。加えて、 中心地の高齢化が進み、お年寄りの買い物等に支 障を来している。このままの状態が進むと、周辺 の高齢化とともに商業機能が脆弱化し、商店街は 単なる通勤・通学路となってしまう。そこで、商 店街は、観光と商業の連携による観光ミックス商 店街を活性化の基本コンセプトに掲げ、活性化に 向けた取り組みを行っていくこととなった。

【取り組みの概要・経過】

田町商店街に新たに進出した、㈱お成り道は、 毛利藩主が参勤交代に使っていた歴史の道ーお成 り道の沿道にある空き店舗、空き家等を活用し、 飲食店やお土産店などを設置、運営するとともに 江戸時代のまち並みを再生することで、新しい萩 観光の構築を目的にしたまちづくり会社である。 ㈱お成り道が手がける事業の総称が「お成り道再 生プロジェクト」。その最初の取り組みが「農産 物直売所」と「農家レストラン」の出店である。



地物の農産物直売所「萩の台所とれたて市場たまち」

平成20年5月にお成り道の延長にある田町商 店街の空き店舗を改修し、地物の農産物直売所「萩 の台所とれたて市場たまち」及び「農家レストラ ン&居酒屋天蔵」を整備し同年10月に開店した この取組は、農家が生産した農産物を中心に近海でとれた魚の干物類を販売し、併せて地物の魚、野菜等をふんだんに使った飲食店を整備したことで、商店街の賑わいの創出と市民や観光客の交流の場として定着しつつある。

【取り組みの効果】

農産物直売所と地産レストランの開店により、 安全で安心な顔の見える野菜を求める市民や、地 元でしか味わうことのできない料理を求める観光 客が増加している。

平成17年には萩市が無料の商店街駐車場を建設し、おみやげ博物館や飲食店、スーパーなどが相次いで出店した。今回の農産物直売所及びレストランの出店についても、駐車場整備を契機とした観光誘客の有効な手段となっている。

【今後の課題など】

安定した旬の食材の確保のため、現在100ある契約農家を150まで拡大させる。また、現在は市民の利用割合が高いが、観光客の誘客を促進するため、インターネットの活用やイベントの開催、旅行エージェントへの情報提供などを積極的に実施する。



市場にならぶ農産物

【萩市田町商店街振興組合連合会】

所在地:山口県萩市東田町59番地

会員数:54人 店舗数:76店舗

商店街の類型:地域型商店街

URL:

http://www.axis.or.jp/~hagitama/

【この商店街にこの人あり】



清水明人 (㈱お成り道 専務取締役) ㈱お成り道をプロデュースしている。独特で革新的なアイデアで商店街の賑わいの創出に貢献している。

休日には自ら賑わい創出マンとなり、観光 屋台の出店による紙芝居の実演や蒸気まん じゅうの販売を行っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

年間を通して様々なイベントを開催している。商店街での夜市を7月の毎週土曜日に開催しているほか、10月には萩を代表する工芸品である萩焼の販売を行う、萩・田町萩焼まつり、12月には商店街をイルミネーションで彩るクリスマスイベントを実施、市民の交流の場となっている。

中心市街地での朝市開催で にぎわい再生を目指す

? ここがポイント

中心市街地の歩道で日曜朝市を開催し、地産地消、観光振興、商店街活性化を図る。



買物客で賑わう"徳島わくわく日曜市"

【取り組みの背景】

徳島市中心市街地は、古くは新町川を運河にした 藍商人の活躍により、地域の特産品の集散地として 賑わっていた。しかし、現在は、空き店舗が目立ち、 通行量も減少している。当時の中心部の賑いを取り 戻すことを目的に、県内の生鮮産品、農産品、工芸品、 郷土加工品等を販売し、『地産地消』、『観光資源開発』 を図り、賑わいと活気のある街づくりをするため朝 市を実施している。"地域活性化"という共通の目 的で徳島県・徳島市も参画し、徳島県内では初めて (祭礼を除く)となる歩道上における商行為を伴った イベント(朝市・日曜市)が可能となった。

【取り組みの概要・経過】

徳島市での大規模な朝市(日曜市)については、

以前から何度かの企画はあったが実現には至らなかった。

平成19年、徳島商工会議所会頭に近藤宏章氏が 就任してから、街路市開催の話が熱をおびてきた。 翌年、朝市研究会が立ち上がり、徳島県、徳島市、 地元『紺屋町共栄会』などの関係者を交えて検討に 着手、事務局を徳島商工会議所とする実行委員会を 組織し、開催にごぎつけた。

開催場所は、いくつかの候補の中から、比較的幅 広の歩道と大型駐車場がある『紺屋町通り』の北側 歩道とした。その後、道路使用に関する関係機関の 同意も得られ、平成20年12月21日に第1回目 の朝市(日曜市)が開催された。

この事業は、空洞化しつつある徳島市の中心市街地に新たなヒトの流れを創出し消費の活性化につなげようと、毎月1回、最終日曜日の午前8時から午後1時30分までの間、『地産地消』を掲げた朝市を開催するもの。安心・安全な地場農水産品を目玉とするため、出店品目の5割以上を地場産品とする決まりを設けた。41の出店者が50区画(1区画:1.8m×2.0m)に出店している。

来場者の駐車場は、会場の地下にある徳島市営駐車場を中心に3つの駐車場(総駐車可能台数:最大約370台)を用意した。朝市開催時間帯は、来場者・出店者は無料で駐車が出来るよう主催者が用意。

その他、イベントとして地場農水産品の良さを

知ってもらうためワンコイン500円で食べること ができるお買い得な食のイベントを実施するなどし て集客を図った。

市の愛称は、一般公募を行った結果、7歳の小学生の『徳島わくわく日曜市』に決まった。

この事業は、中小企業庁の中小商業活力向上支援 事業費補助金を受けている。



行列ができた鱧入りの「とくしまバーガー」

【取り組みの効果】

第 1 回目の平成20年12月21日(日)、会場 となった紺屋町北側歩道は午前8時のオープンから 来訪者であふれ、閉店まで人波が絶えなかった。約 3千3百人の来場者たちは、新鮮野菜・青果、地元 の特産品等を買い物しながら路上で開催される街路 市の雰囲気を満喫し、毎週の開催や規模の拡大を求 める声も聞かれた。また、街路上では火気使用が好 ましくないため、近隣のホテルが玄関前に屋台を出 して温かい料理と飲物を販売したり、地元紺屋町の 商店も早朝から開店したり、両国本町、東新町の商 店街からも市へ出店した店主もいたりするなど、自 然発生的に協力態勢ができてきた。その他、近隣の 籠屋町、東新町等の商店街では、そば米汁の無料配 布、もちつき等のイベントを開催するなど賑わいの 創出に努めたこともあり、近隣商店街にも多数の人 出となった。

【今後の課題など】

将来的には店舗数・区画の拡張等、規模を拡大したり、近隣商店街で開催される他の催しと連携したり、開催頻度も月1回から毎週開催にするなどの構想を持っている。また、「日曜市に来たら楽しいことがある」と思ってもらえるように、好評である食のイベント等の企画を充実させたい。

また、徳島市内だけでなく県外客など、より広い エリアからも呼び込むための観光資源として、地域 活性化を目指したいと意気込んでいる。

【紺屋町歩道における朝市・ 日曜市実行委員会】

所在地: 徳島市西新町 2-5 徳島商工会議所内

URL: http://www.tokushimacci.or.jp/

【この商店街にこの人あり】

徳島商工会議所会頭、近藤宏章さんは、地元徳島の強みは第一次産業だと認識し、そのてこ入れを唱える。その第一弾として、「徳島わくわく日曜市」を行政も巻き込んで実行した。次は、NHK朝ドラ「ウェルかめ」とも連動しての観光資源化も念頭に入れている。

【うちの商店街、ここが自慢】

日曜朝市に隣接する籠屋町商店街には、中 小企業庁の支援で整備した、子育でほっと スペース『すきっぷ』がある。ここでは、絵本・ おもちゃ・授乳やおむつ替えコーナーがあ るほか、専門のスタッフが子育でに関する 相談に応じている。また、子育でに関する 講習を実施したり、中学・高校・大学生な どのボランティアの受入れも行っている。

高松南部の中心商店街からも 目が離せない



地元アーティスト、大学生たちがアート、ミュージックで街を盛り上げている。

【取り組みの背景】

高松市では、高松丸亀町商店街での再開発の取り組みが全国的に有名であるが、中心商店街の南部に位置する「高松常磐町商店街」、「南新町商店街」、「田町商店街」での新しい動きからも目が離せない。

1980年代、ターミナル駅のことでん瓦町駅から西に伸びる高松常磐町商店街(通称「トキワ街」)には、大型店の旧ダイエーと旧ジャスコがあり、映画館が周辺を含めて6館あるなど、若者を中心に高松市内でもっとも賑わいのある商店街だった。しかし、2004年までに両店舗が撤退し他の店舗もどんどん閉店して、現在は空き店舗率が4割近くとなりシャッターが目立つ。

このような中、まちづくりのメンバーや若い アーティストたちが、高松南部のシンボルとして 「南を盛り上げよう!」と商店街、ことでん、高 松天満屋、香川大学などと連携・協力し、ソフト 事業を中心としたまちづくりに取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

□4町パティオの整備

トキワ街、南新町商店街、田町商店街の3商店街、 及び亀井町自治会の4町の中心部はオープンスペースになっている。平成19年、ここにベンチや樹木を設置してコミュニティスペースを整備した。 現在は、アート系イベントが行われたり、カップルの待ち合わせ場所として賑わっている。商店街と地元自治会が協力して整備できたことも全国的に珍しい。



□おいでまい・阿讃ええもんや

周辺5町が高松市と合併した際に、旧町の産品を販売しようと始まった。交流の深い徳島県美馬市(旧脇町)の産品も扱うこととなり、この名前のお店になった。平成20年10月、トキワ街の空き店舗で営業が始まり、新鮮野菜、お総菜、民芸加工品などを販売している。ここの野菜は新鮮と評判で、近所に住んでいる高齢者がこぞって買い求めに来店し賑わいをみせている。

□香川大学やことでんとの連携

地元の香川大学は、トキワ街の空き店舗にサテ ライト型キャンパス『ミッドプラザ』を整備した。 ここで大学の講義やシニアを対象とした生涯学習 講義などを行い、多世代交流型のまちづくりに取 り組んでいる。



ナイトサロン (4町パティオで)

先行的に前述の4町パティオにおいて、まちづくりを討論するオープンキャンパス"ナイトサロン"を開催したところ、学生をはじめ、多くの参加者で賑わった。

また、合計8千人いる大学職員・学生がことでんの発行する交通系カード"IruCaカード"に学生証機能を付与して携帯しており、このカードにはデポジット機能があり、商店街のお店で買い物ができるため、売上げ増加の効果も期待されている。

これらの事業は、経済産業省の戦略補助金で支援している。



□アート系イベントの実施

まちづくりメンバーたちが中心となり、3商店 街やことでんなどと協力して開催。幼稚園児たち が大きいキャンバスに絵を描いて、それらを空き 店舗のシャッターに貼り付ける「まちゆうえんち」 やパリのモンマルトルをまねて、アーティストた ちが街に自分の作品を置いたり、似顔絵を描く『名 もなき画家通り』などのイベントを開催。

【取り組みの効果】

イベントを通じて、個店の店主がアーティストたちと顔見知りになり、例えば、クリスマスの飾り付けで「どうしたらきれいに見えるかいな」と相談したら「イベントで使ったのぼりがあるからそれを持ってきてあげるよ」と飾り付けを手伝ってくれたりと新しい層との交流が進んでいる。

【今後の課題など】

南部3商店街では、多世代交流型の商店街を目指しており、現在は未整備の子育で支援施設の運営も検討している。

【高松常磐町商店街振興組合】 【高松南新町商店街振興組合】 【田町商店街振興組合】

所在地:香川県高松市 合計組合員:285名

※いずれの商店街も広域型商店街

【この商店街にこの人あり】

野澤道雄さん

(瓦町駅周辺まちづくり協議会会長) 商業者、地権者、会議所、百貨店など高松 南部の関係者をまとめ上げるとともに任意 の協議会を立ち上げ、地権者とも個別に交 渉するなど人柄により幅広いネットワーク 構築に尽力している。

【うちの商店街、ここが自慢】

アーティストや学生など 若い人ががんばっている商店街

お年寄りからお子さんまで、 多世代が集まる商店街



空き店舗を活用し、多世代が和気あいあいと交流できる賑わい空間を創出。

【取り組みの背景】

四国中央市川之江町(旧川之江市)は、愛媛県の東端に位置する。製紙業の盛んな町で毎年「紙まつり」が行われるなど、"紙のまち"として名高い。川之江栄町商店街は、JR駅や高校から近く地元住民が行き交う地域密着型の商店街であったが、郊外スーパーの進出、住民の高齢化などにより来街者が減少し、空き店舗も目立ってきた。

平成16年に周辺市町村が合併し、旧川之江市 は四国中央市となった。そのときの合併記念事業 のひとつとして、商店街が各地域の情報発信をす る施設「みんなの広場 四国中央ドットコム」が 開設された。



1階に設置されているレンタルボックス

【取り組みの概要・経過】

□異色のコミュニティスポット

空き店舗を改装したこの施設は、1階にコミュ

ニティスペースと市民が情報発信や委託販売できるレンタルボックスが並び、2階は親子が集う子育てスペースとなっている。高齢者向け機能と子育て支援機能が合体して多世代が交流するのは全国的にも珍しい。



「にこにこルーム」で本の読み聞かせ

□子育て施設の充実

中小企業庁の支援を受け、子育てスペース「に こにこルーム」の運営を始めた。現在は、利用者 が増加し定員がいっぱいになってしまう日もある。 隣県の徳島県や香川県からの利用者もあり、時に は中高学生ボランティアの参加もある。商店街に これまで足を向けていなかった層の来街効果も出 てきている。

□子育て支援マップ・シニアマップ

製紙業の工場が多いこの地域には、転勤で引っ

愛媛県四国中央市

越してくる家庭も多い。地元の母親だけでなく、 そうした「転勤族」の母親が安心して子育てができるよう、「地域情報子育て支援マップ」を作成した。主婦層から情報を集め、市内の託児所・病院・ 公園だけでなく、お得な情報なども掲載している。

また、高齢者が商店街を訪れ安全に町歩きできるよう「シニア支援マップ」を作成したところ、 好評で来街者も増えてきた。



シニアパソコン教室

□アクティブシニアのクラブ・サークル

平成18年に始まったシニアパソコンクラブは 高齢者に大好評で、複数クラスで常時10名以上 の参加があり、定員を超えたり入会希望者に待っ ていただくことも珍しくない。会員どうしで教え あうなど、サークル的な雰囲気の動きも出てきた。 また、他にも紙バンド手芸サークルなどのシニア メンバーが2階の子育てスペースでボランティア として子供たちと関わるといった広がりも生まれ ている。

【取り組みの効果】

施設の中で高齢者、お母さん、子どもの多世代 が自然に交流するようになり、高齢者の生きがい にもなっている。また、商店街に子連れのお母さ んが目立つようになってきて、賑わい創出の効果 が現れている。

【今後の課題など】

四国中央ドットコムへの来館者は定着してきたが、「点」から「線・ストリート」へと商店街内の回遊性向上に向けて、さらに2カ所の空き店舗を活用した拠点を整備した。今後は、NPO法人との協働により「ふれあい物産館」の開設も予定している。これらの拠点のみが賑わうのではなく、商店街全体に人通りを取り戻し、施設名「四国中央・COM(ドットコム)」のとおり「どっと混む」ような商店街にしたいと計画している。

【川之江栄町商店街振興組合】

所在地:四国中央市川之江町 1814-5

会員数:41組合員

商店街の種類:近隣型商店街

URL http://www.shikokuchuo.com/

【この商店街にこの人あり】

高原 茂 副理事長は、本施設の発案から、運営にいたるまで一手に引き受けている。自らも得意なパソコンの技術で高齢者に親切・丁寧に教えており、参加者から好評を得ている。

子育てマップやシニアマップなど賑わいづくりの企画力にも優れており、この商店街の重要な担い手である。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街の中央部にアーケードに隣接して地域の加盟店で運営する無料の駐車場があり、 来街者には非常に利便性が高い。そのおかげで、徳島県や香川県など遠方からの来訪者も多い。

商店街のカラーを打ち出した

「商店街統一販促活動」の推進と実現化!!



!) ここがポイント

周辺商店街の地域特性に沿った商業機能の再構築と賑わい創出を目指し、学校・ 町内会・行政・関係団体等との連携はもとより、組合員である地元大型量販店と の密な協力体制による販促活動を実践。



万々商店街振興組合

【取り組みの背景】

昭和44年の組合設立以来、高知市人口の外延化等により周辺 商店街の中では売上高1・2位を争うまでに大きく発展。組合員数 も設立当初の54名から平成6年には74名まで増加したもの の、近年は厳しい経済情勢を背景に脱退や廃業等が相次ぎ、年々 減少傾向にある。

一方、周辺部に大規模団地が出来たことにより、周辺人口は増 加傾向にあり比較的車の交通量も多いといった明るい材料も見 られる。また、組合員に地元大型量販店のサニーマート、TSUTAY A、ダイソーを擁し、各種イベントにおける相互連携・協力体制を 築いており、現在も商店街のキャッチフレーズ"ふれあいと愛着 のある商店街"を目指した活動を展開している。

こうした中、元気な商店街としての再生を図るべく、平成19 年度高知県商店街振興組合連合会の助成事業(元気な商店街ビ ジョン策定支援事業)を活用し、商店街の特色を打ち出した活性 化策や今後の方向性に関するビジョンを策定し、特に「商店街統 一販促活動」を積極的に推進していくこととなった。

【取り組みの概要・経過】

平成19年度は、当該助成事業によるビジョンの策定だけで なく、迷惑駐車が問題になっていた組合駐車場の2台分の駐車 スペースに「憩いの場」を設け「商店街マップ掲載看板(万々商店 街千客万来 万々歳まっぷ)」を設置した。また、学生にデザイン を依頼し、商店街のイメージキャラクター「クマーマ」の制作も 行った。

平成20年度は、商店街執行部のみならず専門家や行政関係 者、町内会等を交えて定期的(月2回程度)に会合を開き、必要に 応じ県·市·全振連の助成事業を活用しながら、商店街統一販促活 動を始めビジョンに明記した活性化策の推進・実現化を図った。

これまでの具体的な取り組みと しては、平成20年7月16日よりお 客様感謝デー「クマーマの日(毎月第 1、3水曜日)」をスタートさせた。当 日は各組合員店舗が一つずつ目玉 商品やサービスを用意し、商店街一 斉の売り出しを実施している。



◆クマーマの日のチラシ

そして、全盲のシンガーソングライター堀内佳氏に依頼し、商 店街のイメージソング「クマーマと一緒に」の制作を行い、クマー マの着ぐるみも制作して販促活動や各種イベントおいて効果的 に活用している。

また、シーズンイベントの実施についても検討を進め、8月に は12年ぶりとなる「土曜夜市(夏祭り)」を開催し、12月には

高知県高知市

シーズンイベント第2弾として、商店街内を約2千個キャンドルとLEDのイルミネーションでライトアップする「キャンドルフェスタ in mama」を開催した。共に市民参加型のイベント事業となり、多くの集客で好評を博した。

さらに、年末にはサニーマート中万々店の協力のもと、各組合員より総数333個の景品を出し合い「スタンプラリー」を実施した。それぞれ異なった3店舗で買い物し、各店のスタンプを集めると抽選で景品が当たる仕組みであり、応募総数も1,200通を上回るなど、初回としては大成功であった。

【取り組みの効果】

①地域特性に沿った商業機能の再構築

商店街の特色を打ち出した販促事業の実施により、組合員の 販促に繋がることはもとより、地域特性に沿った商業機能の再構 築及び賑わいある街づくりの創出に寄与した。

②商店街全体の話題性や付加価値化による知名度向上·イメージ アップ

クマーマやイメージソングを、各種イベントや「よさこい祭り」 などで上手く活用することにより、多くのマスコミに取り上げて もらい、まち全体のイメージアップが図られた。

③周辺住民や学校との連携体制の構築

事業推進にあたっては、会合に周辺町内会の方にも時折参加 してもらいアドバイスをもらったほか、シーズンイベントの開催 にあたっては周辺の学校に備品を借り受けるなど、これまでに無 い新たな連携・協力体制を構築できた。

④組織の再活性化(※組合員数の増加)

年々組合員数が減少傾向にある中、特に販促活動において、組合員以外の企業にも一定の期間(お試し期間)無料での参加を呼びかけることにより、組合員数が大幅に増加した。(※本取り組み以前と比較し7名増加。36名→43名)

【今後の課題など】

クマーマの日の一斉売り出し並びにスタンプラリーについては、定期的に開催していく販促活動であり、シーズンイベントについてもこれらとの相乗効果を生み出すものであることから、一過性のもので終えることなく、地域に根付くよう今後も継続させていくことが重要である。

また、来年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映に伴い開催され

る「土佐・龍馬であい博」を意識し、龍馬の生きざまに影響を与えた「田中良助邸」を訪ねるツアーの企画など、商店街振興に観光振興を結びつける新たな取り組みが検討課題となっている。

来年度についても、"地域との共生協働"の意識を忘れることなく、より一層充実・強化した内容にて実施していく方針であるが、将来的に助成金が無くても独自開催できるよう、新たな財源確保策等についての検討も併せて行っていくことが求められる。

【万々商店街振興組合】

所在地:高知県高知市南万々28番地3 会員数:43名(平成21年3月末現在)

商店街の類型:近隣型商店街

URL (携帯): http://idomov3.netfarm.ne.jp/~bg012639/2//

【この商店街にこの人あり】



理事長 丁野信二氏

当組合の役員構成は、下は30代から上は70代までと年齢も男女比もバラバラ。丁野理事長は、強力なリーダーシップと柔軟な発想力により、こうした個性的なメンバーを牽引し、取り組みの実現化を図っている。

【うちの商店街、ここが自慢】



万々商店街「千客万来 万々歳まつぷ」





商店街イメージキャラクター 『クマーマ』

スタンプラリーPOP

おかみさんの元気が

商店街を元気に



商店街の垣根を超えて、おかみさんたちが結束して活動を展開

【取り組みの背景】

高知県四万十市は、室町時代に下向した一条氏が京都を懐かしんでつくった町で「土佐の小京都」として、いまだに独自文化が残っている。また、"日本最後の清流"で有名な四万十川の河口に位置し、雄大な自然も有している。

県都高知市から100km以上離れていることから、周辺市町村を含めてひとつの商圏を形成しており、四万十市はその中心となっている。最近は、郊外に大型店の進出が著しく、中心部にある商店街は少しずつ衰退し始めている。

このような中、"中心市街地活性化法に基づくまちづくりをしよう。ついては、その裏方部隊として、おかみさんの会が必要になってくる"との認識のもと、平成17年、四万十市商店街振興組合連合会の呼びかけで6商店街からなる女性部が発足した。メンバーはもちろん女性ばかり。

【取り組みの概要・経過】

□中小機構のアドバイザー制度を活用

平成18年から中小企業基盤整備機構のアドバイザー制度を活用し、江島康子先生(福岡市)を講師に招き月1回の勉強会を始めた。お店の関係で夜間の勉強会となったが、これまで1回も欠かすことなく継続している。このなかで、メンバー

たちは啓発され、「単なる物まねではなく、四万 十オリジナルの企画を工夫しよう」と強いこだわ りを持つようになってきた。



□玉姫様の小箱

勉強会のなかで、この地域らしい情報として発信できるものは何だろう?と、みんなで考えた結果、この地に嫁いできたお姫様、"玉姫様"の名前が挙がった。この名前を付けた小箱に商品とメッセージを入れて販売しようと「玉姫様の小箱」が生まれた。縦14センチ、高さ・横8センチの小さな赤い箱に、それぞれのお店の手づくりのおすすめ商品を詰めて、価格は買いやすい千円前後とした。ネーミングや箱の可愛らしさも手伝って、商店街のお楽しみ小箱として人気が出て、マスコミにも取り上げられた。

□美人のお守り

昔から、高知県西南部には美人が多いと評判で

高知県四万十市

あるが、中心部の一条神社境内に湧く井戸は「お 化粧の井戸」と呼ばれ、女官たちはこの井戸を水 鏡にしたという言い伝えがある。この井戸の水で 清めた5円玉を包んで「美人のお守り」とし、会 のシンボルにもして「玉姫様の小箱」に入れたと ころ、さらに売上げがアップした。



□手づくり「今月のお得情報」

個店のお買い得品の情報を手づくりのポスターに描いた情報掲示板を、商店街空き店舗前・銀行横・バス停待合室などに設置させていただいた。 手書きの文字は暖かみがあり見た目も楽しく、「面白い!」と評判を呼び、この掲示板が購買意欲の増進につながっている。



【取り組みの効果】

勉強会を重ねて、明らかにメンバーの意識改革 が進んだ。女性部のメンバーが次々と企画を発案 し創意工夫を重ね、それをマスコミが取り上げる ことで元気の相乗効果が出てきた。

また、活動を通じてお店どうしのコラボレー ションも生まれてきた。例えば、お弁当屋さんが 食器店の「マイ箸」を勧めたり、薬局がダイエット関連グッズをスポーツ店や電器店に紹介したりするなど。

そして、なにより売上がアップすることで、お 店の中でおかみさんの地位がちょっぴり上がっ た。これは一番の効果かも。。。

【今後の課題など】

まちづくり会社や親組合とも連携して、事業効果を高めていこうとしている。

【四万十市商店街振興組合連合会 女性部】

所在地:高知県四万十市中村京町 1-2

会員数:29名

商店街の類型:地域型商店街

URL:

http://www.40010tmo.com/rengoujos

eibu.html

【この商店街にこの人あり】

四万十市商店街振興組合連合会 女性部 通称「四万十玉姫の会」部会長 (平成21年1月現在)

木戸 和美さん

四万十市連女性部のエンジン! 事業企画から運営、後片付けまで、すべて に関わり、バイタリティ溢れる、スパーウー マンです。

【うちの商店街、ここが自慢】

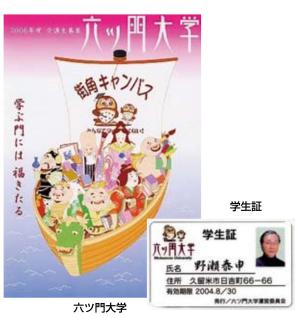


中村の見どころを手作りマップに

人が「集まる」コミュニティ創り

? ここがポイント

誰もが安心して出かけることができる商店街。 「街なか」ならではのゆっくりとした時の流れを楽しめる、人にやさしい街づくりをめざす。



市民の「学ぶ力」と「考える力」そして「教える力」を育む

【取り組みの背景】

久留米市の中心商店街は東西800mのゾーンに2つの大型商業核と10の商店街が集積している。近年は、郊外の大型商業施設や福岡市天神地区へ顧客が流出し、賑わいが失われつつある。

この2核1モールの中心商店街の西側に位置する「六ツ門商店街」では、衰退が顕著となり始めた200年から「人に優しい街づくり」をテーマにした様々な取り組みを始めている。

事業推進のポイントは次の3点である。

- 街の活性化と市民力の向上
- 高齢者に優しい商店街
- ・NPO、地域医療との協働

【取り組みの概要・経過】

①六ツ門大学

≪人が集まるコミュニティ創り≫

六ツ門商店街では、商業者を始め、市民やNPOなど が連携したコミュニティ創りを重点的に取り組んでい る。

中心部の賑わい創出拠点として久留米六角堂広場が整備された2004年、商店街の空きビルを活用した生涯学習拠点「六ツ門大学」が誕生。安全で安心な街に「人が集まり」、「学び」、「癒される」商店街らしいコミュニティの充実を目的に商店街有志が中心となり「六ツ門大学設立準備委員会」を組織。街づくり会社ハイマート久留米がバックアップして開校した。

大学での講義の内容は、六ツ門商店街に因み6つのカリキュラムで構成、年間500回を超える講義が行なわれ、約6千人が受講している。大学は、実行委員会方式で運営され、メンバーは商店主の他、大学教授、地域ボランティア、商工会議所や久留米市の職員などで構成されている。

学生には学生証が発行され、入学の特典として学生証 や受講券の提示により、商店街の協力店での割引サービ スや百貨店駐車場の無料サービスが受けられる。

②タウンモビリティ事業

≪高齢者に優しい街づくり≫

超高齢社会が目前に迫り、2025年には3人に1人が高齢者となる。年をとっても障害があっても、毎日を

福岡県久留米市

活き活きと暮らすために買物したり、食事をしたり、街 なかで誰もが楽しい毎日が送れるようにする。それがタ ウンモビリティの考え方である。

六ツ門商店街でのタウンモビリティ事業への取組みは、NPO「こうれい研」の提案をきっかけに2000年から開始された。

タウンモビリティは毎週木・土・日に実施。ドアトウドアで高齢者を送迎し、買物サポートやコミュニケーション活動を行っている。利用者は年間千人を超える。

また、身体状況に合わせて電動スクーター、車椅子、シルバーカー等を無料で貸し出している。各医療・福祉団体等の協力で健康相談、福祉相談、介護相談などを定期的に実施している。

【取り組みの効果】

六角堂広場の集客力を軸に六ツ門大学やタウンモビリティなどの連携事業により、商店街に新たな人の流れが生まれ、商業者の自主的な取り組みの中、市民・大学・NPOなどの様々なネットワークによるコミュニティ形成が図られている。

2000年のタウンモビリティ事業開始以来、「パートナーシップ活動」という様々な連携が地域全体に広がりつつある。これらの街づくりモデルのストックを活かし2009年 "まちなか連携施設"「街の駅一番街プラザ」がオープンした。前出の街づくり会社ハイマート久留米が、1,400病床の総合病院のグループである聖マリア学院大学と協働し、同プラザ内に「まちなか保健室 ほっとステーションマリア」を併設。休憩スペースや多目的トイレ、授乳室、キッズコーナーなどの利便機能や聖マリア学院大学による健康相談のほか、定期的に健康や子育てをテーマにしたセミナーを開催し、生活支援・多世代交流の拠点として市民から大きな期待が寄せられている。

【今後の課題など】

「六ツ門大学」「夕ウンモビリティ事業」の共通の課題は

財政的自立である。両事業とも年々、受講者数・利用者数は増加傾向にあるが、一方で、ランニングコストの一部は補助金によってまかなわれている。

特に、六ツ門大学については、財政基盤の確立とともに「商店街の大学」という強みを活かし、より多くの学生をどのように増やしていくかがポイントであり、このことは商店街の顧客の増加にもつながる。更なる講座内容の充実や、自分の経験・知識を教えることに生きがいを感じる市民講師の育成も図っていかなければならない。

そのためには、個々の商店が六ツ門大学を顧客にPR し、応援していく姿勢をさらに強めていくことも重要である。「経営の視点」と「街づくりの視点」を合わせ持ち、地域生活者の「商店街満足度」をより高めていかなければならない。

【六ツ門商店街】

所在地:福岡県久留米市 会員数:32組合員

商店街の種類:コミュニティタイプ

関連URL:

http://www.kurume-mutsumon.info/uni/index.html



タウンモビリティ 送迎ボランティアが ドアトウドアで

タウンモビリティ 利用者とボランティア の交流



大町町から一店逸品で元気発信!

? ここがポイント

意欲あるメンバー同士が消費者の視点で互いに意見を交わしながら逸品を練り上げていきます。



フェア直前の内覧会の様子

【取り組みの背景】

佐賀県杵島郡大町町は佐賀県のほぼ中央に位置し、JR佐世保線を境に北部が商業・住宅地、南部が農業地域を形成しており人口7,500人、高齢化率30%の町である。

大町町は炭鉱の町として栄え、当時は日本一のマンモス小学校と呼ばれるほど人口が多い町であった。しかし、昭和44年に炭鉱は閉山。職を失った炭鉱労働者やその家族などが町外へ流出し、以降人口は減少の一途を辿っている。

このような中、消費者ニーズへの対応の遅れや 競争環境の激化、さらには後継者不在による廃業 などにより、商店街の空き店舗は年々増加する一 方である。このような厳しい現状を何とか打破し ようと様々な活性化事業に取り組んできた。

具体的には、高齢者にやさしい商店街を目指し、電動スクーターの貸出し実験事業や、ちょっと一息入れる休憩場所として空き店舗を茶屋に改装し、様々な体験教室を実施するなど来街者の利便性を高める事業、さらには、商店街の店頭に広告版であるイーゼルを設置したり、一般の方が趣味で作られた手作り品などを店頭で展示販売する『手作り品出前店舗事業』にも取り組んでおり、商店街の魅力向上を図っている。

しかし一方で、各個店の商品やサービスの向上 といったお店本来の魅力アップへの取り組みは個 店まかせになっており、消費者の視点に立った品 揃えやサービスを提供していくことが必須の課題 である。

【取り組みの概要・経過】

①一店逸品運動

逸品とは、お客様に喜んでいただけてなおかつ お店らしさを表現できる商品やサービスのことで、 それらの商品やサービスを研究会の中で継続的に 開発・発掘し、逸品フェアというお披露目を定期 的に開催していく一連の活動を一店逸品運動と呼んでいる。

この取り組みは、平成18年度に商工会が主体 となり、商店街の商店主などへ参加を呼びかけ、 意欲ある16名のメンバーでスタートした。以来 今年で3年目を迎え、地域の消費者の方々にも徐々 に浸透しはじめてきた。

今年行われた第3回一店逸品フェアでは、初めての試みとして商店街の逸品参加店を巡る『ワンコインコース、まんぷくコース』の2コースを企画。町内外より約30名の参加を得た。具体的な内容は、『魚のさばき方教室』、『ソムリエによるワインテイスティング』、『一級写真技能士による美しく写る魔法のレッスン』、さらには、空き店舗を利用して『ミニ畳作り体験』や『手作りみそ作り体験』をしながら、数時間かけて商店街を練り歩いていただいた。途中、昼食として逸品メニューに舌鼓を打ちながら、家庭で簡単に出来る料理のコツなどを教授した。

さらに、逸品を広くPRするためホームページ 「大町版逸品がばいよか」を開設し、全国へ向け て大町の逸品を発信している。

(http://www.gabaiyoka.com/)

【取り組みの効果】

地元にいながら商店街を利用したことがない消費者が意外と多く、ツアーの参加者からは『商店街を普段歩くということがなかったのでいろんな発見があり良かった』との声や、メンバーが積極的に商品やサービスをオススメする姿を見て、『大町にもこんないい物があるんだと思った』など嬉しい声が聞かれた。

一方、参加したメンバーからも『お客様の反応はかなり良かった』『お客様とコミュニケーションが深まり商売に発展した』『メンバー間で仲間意識が芽生えた』『また商売を頑張ろうという気になった』など前向きな意見が多く出された。

また、逸品フェア前後における集客数と売上面 を比較すると、『増加した』と答えた店舗が半数 を超えた。

【今後の課題など】

食品の産地や消費期限偽装事件などの影響により今まで以上に消費者の目が厳しい中、地に足をつけ安心安全の商品やサービスを提供する個店を 嗜好する消費者が増えつつある。

今後、一店逸品運動を継続する上では、更なる加盟店の増加による商店街全体の一体感の醸成や各個店の更なる商品力・サービス力の向上、さらには、PR活動を強化していくことが課題であると思われる。

こうした中、逸品メンバーのうち食品関連のメンバー同士で、それぞれの逸品を組み合わせて新しい大町ブランドとして商品化していこうという 構想もでており、今後の発展に大いに期待したい。

【大町商店街】

杵島郡大町町大字福母419-3 一店逸品研究会加盟店 16店舗 http://www.gabaiyoka.com/



逸品巡りツアーの様子



空き店舗での味噌作り体験の様子

銀聯カード導入など

国際観光文化都市の再生



長崎とゆかりの深い中国からの観光客を呼び込むため、「銀聯(ぎんれん)カード」対応の端末機を商店街全体で導入し、国際観光文化都市の再生を目指す。



(出典元:レスポンス)

長崎浜んまち商店街(ランタンフェスティバル) 長崎在住の華僑が始めた、中国色豊かな灯の祭典。 冬を彩る一大風物詩。



長崎さるく ガイドの説明を受けながら、名所旧跡を歩く。 専門家による講座も開催。

【取り組みの背景】

長崎市は、1571年のポルトガル船入港以来、海外諸国との貿易・交流を通じて、国際観光文化都市として繁栄してきた。その中心市街地の中核となる長崎浜んまち商店街振興組合連合会は、5つの商店街振興組合で構成されており、様々なイベント等に一体となって取り組んでいる。

長崎では、国際色豊かな名所旧跡をガイドの説明などを受けて歩く「長崎さるく」が年中行われており、さらに、ランタンフェスティバル、長崎くんち、ペーロンなどのイベントも頻繁に開かれている。また、いち早く中国からの観光客の誘致にも取り組み、上海からの国際クルーズ船の寄港地にもなっている。しかしながら、近年、人口減少や近隣大型店の進出などの影響で、商店街は商店数、売上高ともに減少傾向にあり、観光客誘致を踏まえた消費拡大への取り組みが急務となっている。

【取り組みの概要・経過】

同連合会は、「浜んまち・ストリート・カルチャー」 として、「浜んまち映画祭」の開催や、音楽、演芸 などのイベントを実施するとともに、月刊フリー ペーパー「ハマスカ」を発行し、観光客を含めた 集客交流事業を主体的に取り組んできている。

こうした中、商店街を訪れる幅広い年齢層の多様な決済ニーズに対応するため、さらに、最近増加している中国人観光客の決済にも対応するため、後払い電子マネー「i D(アイディ)」、プリペイド型電子マネー「Edy(エディ)」、中国人観光客向け決済サービス「銀聯(ぎんれん)」に対応する共用端末の導入による決済システム「長崎ぶらっと」を2008年2月に開始した。

このサービスを開始したのは約300店舗にの ぼり、商店街としては全国でも最大規模となる。

【取り組みの効果】

中国では人民元や外貨の持ち出し制限があり、 海外旅行で高額な買い物ができない環境にあるが、海外旅行先が銀聯カードに対応していれば貴重な持ち出し現金を使わずに買い物が可能となるため、中国人観光客にとっては大きなメリットとなり、中国人観光客の増加と相まって商店街の売上拡大が期待される。

また、i DやE d y はカードだけでなく、最近利用者が急増している「おサイフケータイ」にも対応しており、すでに長崎で開始しているバスや路面電車の運賃支払への利用拡大と合わせて、商店街のにぎわい創出に大きく貢献するものと見込まれる。

【今後の課題など】

同連合会では、周辺駐車場の満空情報などを携帯電話やパソコンに発信するシステム「とむ~でドットコム」、また、ファッション、音楽、食文化などの講座を各店舗で開催する「長崎県民大学・浜んまち界隈キャンパス」といった取り組みも行っている。さらには、外部からマネージャーを招へいして、商店街が抱える課題の整理や今後の取り組みの方向などを検討し、浜んまちの特長を生かしたまちづくりを進めている。



(出典元:レスポンス)

中国人観光客向け「銀聯(ぎんれん)カード」 などに対応した端末機

【長崎浜んまち商店街振興組合連合会】

所在地:長崎市浜町、万屋町、古川町、

鍛冶屋町

会員数:5商店街

長崎浜市商店街振興組合 長崎浜市観光通商店街振興組合 長崎浜市電車通商店街振興組合 長崎浜市万屋通り商店街振興組合

店舗数:約300店舗

商店街の類型:広域型商店街

URL:

http://www.hamanmachi.com/index.php

長崎鍛冶市商店街振興組合



長崎くんち (龍踊り)

1634年に始まった奉納踊りを披露する長崎の代表的なお祭りで、国内はもとより海外の観光客にも堪能いただいている。



1665年に在留中国人が海神を鎮めるために競漕したことが始まりで、近年は中国との

親善交流も行われている。

市街地再開発事業で「国境の島」を活性化

? ここがポイント

商業施設と公共施設の複合により暮らしやすさの向上と韓国との国際交流拡大 を目指して中心市街地に大型再開発ビルを建設。



対馬市交流センターの外観

【事業実施の背景】

対馬市は玄海灘に浮かぶ南北82km東西18kmの細長い島で、面積708kmと佐渡島、奄美大島に次ぐ日本で3番目に大きい島である。南は対馬海峡を隔てて福岡市まで138kmに対し、北は朝鮮海峡を隔てて韓国釜山市まで49.5kmの近い距離にある。

このような地理的条件もあり古来より朝鮮半島との交流も非常に盛んで、鎖国時代にも交易の窓口は開かれていた。対馬の中心市街地厳原町は、主にこの交易の利益により古くから島の政治経済の中心地として繁栄してきた。

しかし、古い城下町の市街地は、老朽化した木造家屋が密集し道路も狭いうえ駐車場不足のため利便性も悪く、加えて平成6年以降郊外の幹線道路沿いに大型店が相次いで出店したことにより、急速に中心市街地商店街の求心力が低下し空洞化が進んだ。

空洞化し魅力を失った中心市街地を活性化させるために、平成8年度の「特定商業集積基本構想」を経て平成12年度の「中心市街地活性化基本計画」を策定、平成14年3月には「TMO構想」の認定を受け TMO機関㈱まちづくり厳原が設立されたことによりショッピングセンターと市民交流の場である公共施設の一体的な整備を目指した。

【事業の概要】

①城下町にふさわしい重厚な外観

平成18年度第一種市街地再開発事業の手法により、地下1階地上4階の対馬市交流センターが建設された。施設の外観には「瓦葺の大屋根」や「石垣」を取り入れ古い城下町の景観を崩さない配慮がなされている。

②暮らしと交流の拠点

施設の機能については、地下1階に150台収容の「市営駐車場」を設置し、商業床を所有する (株まちづくり厳原が管理運営を行うことにより、駐車料金90分無料を実現して好評を得ている。 1階2階には「ショッピングセンターティアラ」を設置し、事業の推進にあたっては数回実施したアンケート調査をもとに、必要とされた大型食品スーパーを核とした16テナントを導入した。 2階には750席の「イベントホール」を設置した。 3階の「公民館」には使い勝手のよい様々な広さの会議室、展示室、実習室を設置し、市民の交流

の場となっている。4階は「市立図書館」で6万 冊の蔵書がある。

③「韓国人観光客支援センター」の設置

1階に「韓国人観光客支援センター」を設置し、 韓国語の通訳を常駐させて中心市街地全域での韓 国人観光客の買物案内やトラブルに対応してい る。このほか施設内では関係者向けの韓国語講座 を開催し、韓国人観光客向けのサービス向上に努 めている。

【事業の効果】

①新たに140人程度の雇用創出。

②店舗で年間115万人、施設全体で年間約131万人(1日あたり約3500人)の来館利用者。 駐車場は年間約36万台(1日あたり約1000台)の利用実績。

韓国から対馬に来る観光客(年間6万5千人)のほとんどが施設に来館して土産品購入や飲食、休憩のため施設を利用。(韓国人観光客支援センターの活用)

③1階の「ポケットパーク」での地元生産者による「城下町朝市」、周辺商店街による「スタンプ会福引抽選会」その他販売催事、ミニライブ、写真展、健康維持のための「街の保健室」などのイベントの開催。(中心市街地の賑わい創出)

【事業の課題】

現状は商業施設の売上も好調で、図書館やイベントホールの利用者も予想を上回る実績で推移しているが、離島という閉鎖的な商圏である上、急激に人口が減少しており集客数や売上の減少が予想される。このようなことから商圏内の消費者に留まらず毎年大幅に増加している韓国人観光客(平成18年4万人→平成19年6.5万人)をより多く取り込むための商品構成や接客サービス、イベントの実施などを行う必要がある。

【対馬市交流センター】

所在地:対馬市厳原町今屋敷661-3 施設概要:鉄骨造一部鉄筋コンクリート造

延べ床面積19888㎡

B1 駐車場150台(90分無料)

1F~2F ショッピ ング センターティアラ 1 6店舗

(物販11飲食3サービス2)

2F~4F イベントホール750席

3F 公民館(会議室·和室·実習室)

4F 市立図書館



亙豊大屋根下の「城下町朝市」会場



賑わい創出の場「ポケットパーク」



ショピングセンターティアラ内

少子高齢化に対応した

医商連携型まちづくりの実現

? ここがポイント

「人にやさしく、地域に愛されるショッピングモール」を基本コンセプトとし、 誰もが何不自由なく買い物ができる次世代型まちづくりを推進。



七夕笹飾りの様子

【取り組みの背景】

昭和20年に水前寺より健軍まで市電が延伸され、古くから民家が多数集積して、我が健軍商店街は熊本市東部地区発展の起点となってきた。しかし、高度経済成長、バブル崩壊などにより社会が複雑化し、近郊には大型ショッピングセンターの建設等により、近隣住民のライフスタイルも大きく変化してきており、地域での商店街の役割そのものが変化してきており、地域での商店街の役割そのものが変化してきている。とりわけ隣接校区の高齢化が熊本市の中でもトップクラス(市平均より6%程度高い)で進行しており、少子高齢化の時代に向けて、地域の暮らしを支える商店街として、そのあり方を模索していくことが重要となってくる。このような流れの中で、地域に密着し力がありモデル性のある商店街づくりの活動を続けている。

【取り組みの概要・経過】

(1)いきいきショッピング推進事業

高齢者、障害者や買い物をされた方が、重かったり、かさばったりする荷物をスタジオで預かり、自宅まで直接宅配するシステム(タクシー宅配事業)。午前中買い物された商品をお昼12:00より、午後買い物された商品は16:00よりタクシーで自宅まで配達するシステムで1個300円で配達、うち商店街より20円の補助券を発行し利用して頂いた。現在は肥後タクシーに事業を譲渡し宅配料300円のうち100円の補助を行っている。また、電動スクーターの貸し出し、相談コーナーや休憩スペースを設置して、高齢者等が安心して買い物ができる空間を構築した。

②商店街振興ビジョンの策定

健軍商店街では隣接する4つの商店街と合同で「健軍まちづくり推進協議会」を設立し、夢のある魅力的なコミュニティを創ることを目指す「商店街振興ビジョン」を商店街が自らの手で策定した。ビジョンでは「人にやさしく、地域に愛されるショッピングモール」を基本コンセプトとし、7つの基本方針を掲げ17事業を策定し随時事業に取り組んでいる。中でも最初に取り組んだ事業として地域マップを作成、地域の医療機関28医院を記載し連携を図り好評を得た。

③健軍・まちの駅の開設

高齢者の方々の要望を受け、空き店舗を活用し県内 の道の駅・物産館・小規模作業所など15事業者に順

熊本県熊本市

次出店して頂き、特産品や加工品の販売を行った。現在は商店街事務所1Fにて商工会連合会青年部の協力を得て前青年部長が「まちの駅」の事業運営を行っており、大変喜ばれ集客に繋がっている。

④ やりがいビジネス創造事業

熊本市商店街モデルプラン策定に協力し、健軍商店街において「やりがいビジネス創造事業」としてピアクレスキッチンを運営している。ピアクレスキッチンは空き店舗を活用、1日1,000円の使用料で地域の方々により趣味を生かした総菜やパンなどの自慢とする料理を販売して頂く事業で、お買い物されるお客様に大変好評を得ている。

⑤若者サポートステーションの開設

「NPO 法人お~さぁ」と連携をして、地域の方々とともに設置した「健軍地域福祉塾」が若者達の居場所がないという声に応えるため、平成18年7月に「夢・サポート健軍」をオープン。平成19年5月には厚生労働省からニート就業支援の委託事業として「くまもと若者サポートステーション」を開設。必要に応じ、臨床心理士やキャリアカウンセラーによる専門相談を実施している。

【取り組みの成果】

地域の方々の声を反映させ、生活に密着した事業の 実施により成果が上がっていることを実感している。 特にタクシー宅配事業においては、当初3ヶ月間の利



タクシー宅配

用が429件であったのが平成19年度の1年間においては14,877件の利用があり、現在まで毎年伸びている。また、「健軍・農村地域間交流フェスティバル」「まちの駅」「ピアクレスキッチン」などの事業は、熊

本国府高校など様々な団体・行政・地域の方々との連携により成り立っており、健軍商店街に対するまちづくりの気運がさらに高まっている。熊本市・熊本商工会議所が毎年行っている商店街通行量調査においても、20年度は若干ではあるが日曜・平日とも増加している。

【今後の課題など】

高齢者等にとって、真に安心できる街として認知されるには、更なるハード面・ソフト面の整備・充実が必要である。子供からお年寄りまでが健康でハツラツと暮らせるように、「医」と「商」が連携した機能を商店街に持たせる必要がある。先ずは、医食同源を地でいく取り組みとして、安心安全な食材を提供し心のふれあいを大切にした医商連携型まちづくりを更に推進したい。

【健軍商店街振興組合】

所在地:熊本市若葉1丁目35-18

組合員数:56店舗

URL: //www1.ocn.ne.jp/~kengun



【ピアクレスキッチンの様子】



【まちの駅の様子】

点(店)から線(散策)そして面へ、 参加交流型プログラムで活性化新展開へ

? ここがポイント

再生途上にある別府温泉の中心街で、地域資源を磨いて参加交流型の集客プログラムづくりを行っている。このいわゆる「オンパク・モデル」は全国の中心街活性化の手法としても注目され、現在10地域にわたり移植されている。



中心街の集客プログラム「夜の竹瓦路地裏散策」

【事業の背景】

別府市は温泉観光地としてのピークを70年代中半に迎え、その後長期にわたり宿泊客は微減傾向を示した。この 当時、その中心は別府に八つある温泉エリア(別府八湯と呼ばれる)のなかの別府温泉であった。

別府駅を中心とし、商店街や旅館街がひしめく中心街工リアが最高の賑わいをみせた時代である。

その後、90年のバブル崩壊、97年以降のデフレ経済などの影響を受けて、観光客と近隣の人々や市民で殷賑を極めたエリアも過疎化・高齢化問題、空き店舗問題、旅館ホテルの再生問題などを抱えることになった。

中央資本のチェーン店など中大型店も郊外に進出、車社 会のなかで中心街の疲弊度は高まった。

この問題に解決策を見いだそうとする動きは、90年代 中半から町づくり運動として起こってきた。94年に始まっ たクリスマス HANABI ファンタジアは中心街活性化のイベントとして始まり、通り会、旅館ホテル業界が一体となって行われ、今では別府最大のイベントに成長した。

しかし、問題の抜本的な解決策としてはあまりに非力であったことから、その後、息の長い町づくり運動の人材が 輩出してくることになる。

98年に別府温泉のシンボルである「竹瓦温泉」を中心 とした町づくりを行うグループが結成された。「別府八湯竹 瓦倶楽部」である。町を活性化するのは、その町を愛する人々 が集い、憂い、活動が生まれ、人材が持続的に育っていく こと。

このような動きのなか中心街のテーマとして、1. 竹瓦温泉や波止場神社、竹瓦小路(木造アーケード)などの近代化遺産を拠点化する、2. 共同湯を維持して温泉文化を守る、3. 路地裏空間を有効利用する、など今までの集客事業とは全く異なると言ってよい民活事業が生まれることになった。

99年以降は「路地裏散策事業」「路地裏文化祭」「ゆかた DE ピンポン」などが立ち上がる。

【取り組んだ事業】

中心街に今ある魅力を磨いて集客プログラムを作っていくという動き全体をプロデュースしていったのが、01年から始まった「ハットウ・オンパク(=別府八湯温泉泊覧会、NPO法人ハットウ・オンパク主催・代表 鶴田浩一

郎)」である。

「オンパク」は春と秋に約1カ月に渡り開催され、地域資源を発見・発掘して、磨いて、参加体験型プログラムにしていくという、地域活性化のための町づくりイベントである。

同法人の運営理事野上泰生や女性スタッフを中心とし、 商店・飲食店や旅館、NPO など様々な地域事業者の協力を 得て、中心街で多くのプログラムが作られ、集客効果をあ げ個店の顧客獲得にも成果をあげている。とくに町歩き系 のプログラムは日常化され観光客を年間約七千人集客する ようになった。

プログラムは主に4つのカテゴリーに分けられるが、その一部事例は下記のとおり。

- 商店相互の連携モデル
 「浴衣美人でフルコース」; 呉服店と化粧品店とカメラ店が連携
- 2. 中心街の旅館ホテルや共同湯などの連携モデル 共同湯とホテル・コンサートなどの連携
- 3. ガイド付き散策と飲食店等との連携モデル 「B級グルメの町歩き」; 飲食店と散策の連携
- 4. ウエルネスモデル

「身体の内と外からきれいになろう」; 医院と 温泉施設との連携

【中心街のこれから】

このように商店、飲食店、旅館ホテル、医院などやる気のある事業主が連携し、集客効果も見えるようになり、なによりも個店の顧客獲得に役に立つことになった。

オンパク顧客は5千名に達しており、これらの人々にいかに中心街の魅力を体験してもらうかが今後のリピーター 獲得の重要な要素である。

08年7月に中心街活性化計画が認可され、1.間口改良 事業、2.実験的事業として空き店舗で現代アートのプラットフォームの構築事業なども行われていることから、各事業が相乗効果をあげ、徐々に面的にも集客を期待できる水準までに達してきた。

さらに、地域資源の商品化や起業の人材育成事業も実施

しており(中小機構の補助事業)、来年度にかけて中心街で 事業展開する新規事業者が輩出するものと期待されている。

【別府市中心部の商店街】

○8つの商店街

駅前商店街

西法寺商店街

やよい銀店街

ソルパセオ銀座商店街

別府民衆駅南名店街

流川通り会

海門寺通り会

楠銀天街

○所在地

別府駅周辺

○中心商店街統計(H18、大規模店除く)

店舗数 211店

売り場面積 11,300㎡

○NPO 法人ハットウ・オンパク

〒874-0920 別府市北浜2-10-19 4F



B 級グルメ店が持ち寄る試食会



まちなか温泉散策プログラム

~若手の情熱がつなぐDoまんなか コミュニティ~

? ここがポイント

「Doまんなかモール委員会」は「活性化イベント事業」を通して組織の強化、 販売促進、そして様々な人々の集う「Doまんなかコミュニティ」の形成を目指 しており、そこには若手の熱い想いが注ぎ込まれている。



早朝ミーティング:多い時には参加者が20名を超える (中央が錦田委員長)

【~商店街をひとつのモールに~】

平成17年4月、橘通3丁目周辺の商業者が宮崎市の中心市街地(ど真ん中)を維持、再生、発展させる為に周辺の7商店街、5大型店を中心としたエリアを一つのショッピングモールと見立て「Doまんなかモール」と名づけた。Doまんなかモールでは各商店街、大型店の代表からなる「Doまんなかモール委員会」、さらには外部の学識経験者、行政関係者、市民団体関係者からの助言、協力を得るための「Doまんなかモール協議会」も発足した。月1回開催する委員会では各商店街・大型店の情報交換やイベントの予定、反省、今後の取り組みなどが協議される。また実際のイベント実施に係わる委員会内の販促部では、毎週月曜日の午前8時から早朝ミーティングを行い情報の共有

化を徹底している。

委員会発足に際して、先ず共通認識として中心市街地の置かれた厳しい現状を真摯に受け止め、「街の文化はどうあるべきか」、「お客様の求めている街・モノとは?」など様々な議論を徹底的に行った。その結果、街が統一してどの店舗でもホスピタリティを持って最高のサービスを来街者へ提供でき、イベントにおいても見るだけではなく、参加することで街を楽しんでもらう居心地の良いモールをつくることを目標とした。

【~イベントによる情報の共有化と組織の強化~】

平成17年度は構成商店街代表である橘通中央商店街振興組合が経済産業省の「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」を活用し、商店街、大型店の垣根を越え、NPOや市民団体等を加えた共同イベント(103イベント、28, 100人の集客)を実施した。初代販促部長であり、2代目委員長であった村岡浩司氏はこの「イベント」をただ実施するのではなく、「誰でも参加でき、誰でも楽しめるイベントシステムの構築」について徹底的に議論を行なうことで、中心市街地活性化へ対する意識の統一、中心市街地衰退への危機感の共有化、また「街に来られるお客様は、みんなのお客様である」ことを委員会内に根付かせた。その想いは2代目販促部長、現委員長の錦田雅哉氏に受け継がれることになる。

宮崎県宮崎市

【~街に来られるお客様は、みんなのお客様である~】

来街者の利便性の向上を目指して、平成19年4月より宮崎 商工会議所と連携して「30分無料共通駐車券」(Doまんなかパーキングシステム)を開始した。このシステムは、来街する お客様のために商業者は駐車券発券により駐車代金を負担、駐車場は商店街が負担しやすいように、駐車代金の割引、といった利害調整から成り立ち、関係者全員で支えるものとなっており、6,000枚からスタートした発券枚数も20年10月は2万枚に達している。さらにはお客様へのホスピタリティの向上を目指して、商工会議所で実施している検定「販売士3級」の資格取得を目指す「Doまんなか大学」もスタートさせた。

いかに売上につなげるのか」に対する手段として商店街と大型店の共同販促イベントを「Doまんなかモール赤札市」として20年9月に実施した。Doまんなかエリアの商店60店舗と2つの大型店が合同で大売出しを行なったこのイベントは、中心市街地に大きなインパクトを与えた。厳しい経済情勢の中、中心市街地の活性化に明確なゴールや答えは存在しない。しかし、街に対する熱い想いがつながる限り、「Doまんなかモール委員会」の挑戦は主役を引き継ぎながら続いていく。

【~Doまんなかコミュニティの形成~】

イベントは季節ごとにテーマを決め、各団体と連携を強化し ながら回数、参加者とも着実に増加を続け、平成18年度は 168回、集客72, 150人、平成19年度が222回、 92,600人と着実に「誰でも参加でき、誰でも楽しめるイベ ントシステムの構築」は進んでいる。平成20年度は錦田氏が 委員長に就任、その中で現在の販促副部長である甲斐輝一氏は、 今後の街の宝である「大学生、高校生」のイベント参加を積極 的に支援している。これまでの成人式祝福イベントに加え、4 月には宮崎大学の新入生歓迎スタンプラリーの実施。また「D oまんなかダンス天国」と題したダンスコンテストを開催した。 この2つのイベントの主体はいずれも学生であり、Doまんなか モールはサポート役として参加している。「街での楽しい思い出 を一緒につくることで街のファンが増え、街に対する想いが次 の世代につながる」と甲斐氏は語る。また「Doまんなか大学」 も昨年度は商業者27名の受講であったが、20年度は69名の 受講申込みがあり、そのうち福祉関係者が17名、大学生が4 名参加するなど、コミュニティの輪は広がっている。

【~つながる・ひろがる街づくりへの熱い想い(販促強化へ向けて)~】

このようにイベントを通じて、「情報の共有化」(村岡氏)、「Doまんなかコミュニティの形成」(錦田氏)、「街を愛する次世代の育成」(甲斐氏)と「Doまんなかモール委員会」は進化を続ける。そして、かねてからの命題であった「イベントの集客を

【Doまんなかモール委員会】

(宮崎市橘通3丁目周辺の7商店街、 5大型店から組織される任意団体)

·店舗数:約350店舗

·URL: http://domannaka.jp/

【平成20年度スローガン】

「つながる ひろがる Doまんなかコミュニティ」

【主な事業】

- ·Doまんなかファッションショー
- ·Doまんなかウェディング
- ·Doまんなか大学
- · 一店逸品
- ・まちかどギャラリー
- ·Doまんなかパーキングシステム
- ・Doまんなか赤札市



[村岡前委員長(右)と甲斐販促副部長(左)]

定期朝市「トロントロン軽トラ市」

? ここがポイント

軽トラの荷台及び軽ワゴンの室内が店舗に早変わり!軽トラ約100台が一列に並んだ光景は圧巻です!







たくさんの人、人!

【取り組みの背景】

川南町は宮崎県内のほぼ中央に位置し、背に尾鈴山系を拝し、眼下に唐瀬原・国光原大地を有し、そして太平洋に面した日向灘に県央最大の通浜漁港と、農業・畜産・漁業を基幹産業とする町。戦後軍用地を開拓地として解放したため入植者が全国より集まり一大農業地帯となった。この事により日本3大開拓地の1つとなり別名『川南合衆国』とも言われ、『フロンティアスピリットの町』として知られている。また中心部2kmに商店街が形成されており約100店舗余りが並ぶ、人口約17,200人余りの調和のとれた町である。基幹産業である農業・畜産・漁業は食料基地としての機能を有する県内屈指の町として発展を続けて

きた。しかし輸入自由化・近年の燃料、飼料等の高騰によって厳しい経営状況になっている。この様な状況の中で、平成16年6月に本町より「川南町中小小売商業高度化事業構想」の認定を受け、商工会がTMO(まちづくり機関)として発足した。その後、複合施設建設に着手し平成18年3月に完成。施設は特にコミュニティ施設として活用されている。さらに平成18年9月からは、商店街活性化を目的として、600 m の中心市街地を利用した定期朝市「トロントロン軽トラ市」を実施する事となった。

【取り組みの概要・経過】

平成18年5月に『(財)宮崎県産業財団平成18年度宮崎県中心市街地商業活性化基金事業助成金』及び町の助成を受け、平成18年9月に中心市街地を歩行者天国とし、道路の片側に1台あたり7mの間隔で軽トラックの荷台又は軽ワゴンの車内に農産物・海産物他を陳列し販売する方法で、毎月第4日曜日の朝8:00~11:15まで朝市を開催する事にした。第1回は各種団体(JA,漁協他団体)等が協力要請に出向き又、近隣商工会にも協力頂き64台の出店者を確保した。第1回目、天候の事、出店者・お客様が来てくれるかなど心配しながらの準備となったが、販売準

備が終わった軽トラの並ぶ状景を見た時、その壮大さに思わず感激した。第1回目の状況は新聞にカラーで大きく取り上げられ、その後各メディアによって大々的に取り上げて頂く事となった。

【取り組みの効果】

市は回を重ねる毎に出店者・来場者共に増加を 続け、現在では出店申込台数限度107台を越す 月もある。来場者も推定5~6,000人の朝市 へと成長。商店街も出店する店、自店前で商品を 販売する店と、これだけの来場者に対し何とか自 店に引き込もうとする動きも活発になってきてい る。平成19年度経済産業省の直轄事業である「全 国展開支援事業」において特産品開発に取組んだ。 平成20年度においても同じように採択を受け軽 トラ市を軸とした観光開発に取組んでいる。遠方 からのお客様を少しでも当地・近隣町村にとどめ、 経済効果へ結びつけようと「グルメマップの作成・町 内観光地のバスツワー」等を実施している。なお、こ のトロントロン軽トラ市によって県内外から視察 研修が相次いでおり、全国の商店街にとって、何 らかの活性化策への糸口になればと願っている。

【今後の課題など】

これまでは、マスコミ報道等により軽トラ市事業を始めとした本町の宣伝ができた。しかし今後はニュース性も薄れ、今までの様には取り上げて頂けないと思われるため、どの様に広報するか、お客様をどの様に誘導するか、商店街を軽トラ市とどの様に融合させるかに関し、現在全国展開支援事業の中で取組んでいるが、3年目のこの軽トラ市が本町及び宮崎県の観光資源となり得るかが今後の軽トラ市、地方商店街再生のカギを握っていると思われる。

【トロントロン商店街】

· 所在地: 宮崎県児湯郡川南町大字川南

13680-1

・会員数:約400人・店舗数:約100店舗

· <川南町商工会URL>:

http://www.miya-shoko.or.jp/kawaminami/



<川南町商工会>

小さな街でも量販店に負けない 地域密着型商店街づくりを実践!!

? ここがポイント

「まちの駅 宇宿(うすき)」や「うすきエコステーション」を鹿児島県内で初めて設置。それによる全国商店街連携物産展の開催。市電沿線商店街連携ツアーを催行。「商店街が無くなったらどうなるか」街路灯の消灯を実施等、鹿児島の商店街では初となる企画を次々と実施し、地域密着型商店街として小さいながらも近隣の量販店に対抗しながら効果を上げている。



宇宿商店街振興組合

【取り組みの背景】

同商店街は鹿児島市の交通の拠点である鹿児島 中央駅から3駅のJR宇宿駅と鹿児島市電脇田電停 を最寄りとし、鹿児島市内の中心地からは南部寄り の駅前商店街であるが、近年近隣地区の幹線道路沿 いにイオンをはじめ大型店が次々と出店している。

【取り組みの概要・経過】

宇宿商店街では地域密着型商店街として生き残るため、鹿児島県の商店街では初となる企画を次々と実施している。

「まちの駅 宇宿」

商店街の情報発信基地、人と人との交流拠点と して地域住民と会員店舗とを結んでいる。



全国商店街連携物産展の開催

連携する全国各地の商店街のお勧め逸品を展示・ 即売、大学生と中学生との協働事業として定着している。

うすきエコステーション

空き缶回収に協力すると加 盟店の割引券が当たるマ シーンを設置。まちの環境 美化に加え、地域住民と会 員店舗の一体化に効果を上 げている。



鹿児島県鹿児島市

街路灯消灯実験

街路灯を一斉消灯し、商店街が無くなれば街の 灯が消えることを市民にアピール。

市電沿線商店街連携ツアー

参加応募型で宇宿商店街及び連携する市内の商店街を市電で巡るツアーを実施。各商店街の魅力や頑張っている個店舗を再認識してもらう企画。

宇宿ワールドアパートメント

空き店舗対策として旧民家を改装した店舗に2 坪のチャレンジショップを設置。



宇宿十日えびす祭り 毎月十日戎(縁日)を開催

【取り組みの効果】

特色ある企画は来街者の引き留めにつながっており、マスコミにも頻繁に取り上げられ、商店街の宣伝にたいへん効果をあげている。また、大型店の隣接地区で頑張る商店街として市民や行政の評価も高く、県外からの視察も多数訪れ、最寄商店街のリーダー的存在となっている。

ちなみに空き店舗率は、4年間変わらず7.4% を維持。量販店開店(H19.10月)前後の商店街 駐車場入庫台数はH19.5月7,450台、H20. 5月7,468台と健闘している。

【今後の課題など】

様々な取り組みを地域の活性化と組合員の売上 増に効果的に結びつけていくことが、組合活動を円 滑に推進していくために必要である。(地域内資金 還流を研究中)

また、これらの活動を継承する後継者を発掘し 育成していくことが課題である。

【宇宿商店街振興組合】

所在地:鹿児島県鹿児島市

会員数:36名 店舗数:97店舗

商店街の類型:地域型商店街

http://www.usuki.or.jp/index.html

【この商店街にこの人あり】



理事長 河井達志

斬新な企画を豊富な人脈とまちの応援団「え びすサポーター」を駆使し、次々と実現して いく商店街事業の仕掛け人。

【うちの商店街、ここが自慢】

中心商店街でなくても次々と企画を実現させることで地元の楽しい商店街をアピール。 高齢者や交通弱者に優しい商店街。どこに も負けない、団結のある商店街。

商店街交流ひろば コザBOX!!

? ここがポイント

トイレ休憩スペースの整備と拠点づくり、こどもたちとの協働でコニュニティ 回復!



【取り組みの背景】

コザ商店街連合会の会員である一番街商店街振 興組合は、30年以上前に建設したアーケードの 老朽化、経営者の高齢化などが見られ、空き店舗 対策も課題となっている。また、商店街のトイレ や休憩場所となる施設、まちづくりの拠点整備が 求められていた。そうした中、コザ商店街連合会 が主体となり、賑わいを創出し、空き店舗を開け る呼び水効果を目的に、沖縄市の「商店街再生チャ レンジショップ事業」として「商店街交流ひろば コザBOX」を設置した。

【取り組みの概要・経過】

コザBOXは平成20年7月にオープン、夕ウンマネージャーとアルバイトスタッフを配置し、常連客となる年配の方々やこどもたちを中心に広く利用されるようになっている。2階の「きぼう

館」は、商店街の会議や1時間あたり1,000円で利用できるフリースペースとして貸し出している。ここでは自主企画講座「コザ講座」をはじめ、人気を博す教室を生み出し商店街に賑わいを創出している。この他にもレンタサイクル事業や酢を使ったドリンクバー「酢多Bar」の運営を行うなど、自立経営を目指している。また、スタッフを常駐にしたことにより、地域のこどもたちとのコミュニケーションが活発になり、「一番街ガーディアンエンジェルス」の発足に至った。一番街ガーディアンエンジェルスとは、近隣の小学校低学年のこどもたちが中心となり、商店街内の迷子探しやゴミ拾いを行っているグループである。



【取り組みの効果】

オープンから約6ヶ月で延べ利用者は1万人を超えている。トイレや休憩スペースができたことにより、滞在時間が大幅に増加するなど、まちの賑わい創出に効果がみられた。また、来館者の属

性データを蓄積し、商店主への公開も行っている。 さらに、活発に議論を交わすことのできる場所(2 階「きぼう館」)とタウンマネージャーの存在によっ て、商店街独自の計画「一番街・サンシティ商店 街活性化基本計画」を策定し、市が策定中の中心 市街地活性化基本計画と並行する形で商店街が自 ら先導してまちづくりに取り組むようになった。

コザBOXを拠点に行われた大小イベント等で、賑わいの創出や自主講座により周辺の商店への効果、さらにコミュニケーションの場としての効果もみられるなど、地域連携の中心拠点としての役割を果たしている。



【今後の課題など】

若手の新規参入を促し、活性化するにはどうするか議論を重ねているところである。また、現在はタウンマネージャーに業務を負う部分が多いため、地域全体としてコザBOXの運営を円滑に行うための組織体制の構築が求められている。さらに、早期に自主運営を行えるようにするためにも、収益事業の確立を目的に、レンタサイクル事業などのコミュニティビジネスを複合させ、自立的な運営を目指すことが望まれる。

【沖縄市一番街商店街振興組合】

所在地:沖縄県沖縄市中央1-1-15

会員数:63名

店舗数:104店舗

商店街の類型:近隣型商店街

【この商店街にこの人あり】

沖縄市役所 商工振興課 胡屋地区担当タウンマネージャー 由利 充翠

商店街交流ひろばコザBOXにおいて、通りの清掃、トイレの掃除、自主講座の企画、チラシやパンフレットのデザイン、また会議のファシリテーターの役割を果たし、民間主導のまちづくりへ舵取りを行う。「商店街の基盤は顔が見える関係でコミュニケーションがとれること。いつも挨拶と掃除が基本です。」と笑う。現場にいる専門家としてコミュニケーションをとりつつ輪を広げ、商店街を盛りたてている。

【うちの商店街、ここが自慢】

こどもたちが独自の商店街応援グループ「ガーディアンエンジェルス」を結成し、活発に活動している。「こどものまち宣言」を行っている沖縄市は、15歳未満の子供たちの割合が日本一多い。この特徴を活かして地域活動を継続し情報発信していくことで、地域コミュニティの再生を図っている。



食とアートと交流のまちづくり!!

? ここがポイント

食とアートを中心に老若男女が集う地域再生の拠点!



【取り組みの背景】

かつて130名の組合員がいた銀天街商店街振 興組合は、現在では37名となり、組織力は低下し、 空き店舗も目立っている。そうした中、昨年より「食 とアートと交流の街づくり」を目指した事業を実 施、当時の状況を取り戻そうと、従来の惣菜を中 心とした地域の台所としての機能に加え、若者や アーティストによりユニークな活性化に取り組む など、独自の地域再生を図りつつある。大型店に はない「まちぐわぁー」(市場)の雰囲気が再び注 目を集めている。

【取り組みの概要・経過】

平成19年度において、地域交流の拠点となる「銀天大学」をオープンした(沖縄市商店街再生チャレンジショップ事業として実施)。さらに平成20年度は、「食とアートと交流の街づくり事業」を実

施しているところである。具体的には、空き店舗を活用し、新たに屋台村を新設したほか(3店舗)、銀天大学を拠点として、寺子屋講座などによるこどもとお年寄りの居場所づくりにも取り組んでいるところである。美術、三線、囲碁など、ユニークな講師による多彩な講座を実施している。また、11月には全国アートNPOフォーラムを開催したほか、インドネシアから招聘したアーティストが1か月滞在し、創作活動の拠点として作品を発表した。さらに、東京理科大学建築学科の学生20名が長期滞在し、商店街の活性化について提言を行ったほか、アーケード撤去後の活性化策について具体的な提案が行われた。

また、毎月第三土曜日は「銀天街まつり」を開催し賑わいの創出を図っている。インド料理やヤギ汁、串焼きなど、屋台が立ち並ぶほか、地域のこどもたちのダンスや民謡、カラオケなど、地域住民を中心とした商店街応援団による手づくりのステージが繰り広げられるなど、地域密着のイベントとして定着している。



【取り組みの効果】

天ぷら、惣菜など、中食を中心とした地域の台 所として次第に来街者も増えつつある。また、アートによるまちづくりが全国でも注目され、県内外の大学生やアーティストなどが長期滞在する機会も増えている。

また、こどもたちの居場所づくりとして、平日の夕方は寺子屋に集まるこどもたちで賑わい、また学校帰りの高校生もたこ焼きや天ぷらなどを求めて立ち寄るようになっている。夜は歌声ライブなどを実施することにより、毎月の「銀天街まつり」のほか、大小イベントの実施により次第に近隣のみならず、市外からも来街者が増えつつある。



【今後の課題など】

アーケードの一部撤去を控えているため、今後のアーケードリニューアル後の商店街をどうすべきかなど、組合としての将来ビジョンを描く必要がある。実際の組合は会員数が減るなど弱体化が著しく、また高齢化が進んでいるため、若手の新規参入者も促進する必要がある。銀天街としては、こどもからお年寄りまで、近隣住民を対象に、食品、衣料、雑貨などを提供する「安くて買いよいみんなの街」というコンセプトを打ち出しているが、地域密着商店街、あるいは生活街として、改めて課題を整理する必要がある。

【沖縄市銀天街商店街振興組合】

所在地:沖縄県沖縄市

会員数:37名 店舗数:58店舗

商店街の類型:近隣型商店街

【この商店街にこの人あり】

「そうざいの店 三幸 城間幸隆さん」 銀天街の惣菜通りにあるそうざいの店「三幸」の城間幸隆さんは、銀天街が打ち出す「食 とアートと交流」を一人で体現している。 ふらりと銀天街に散策にきたお客様を見か けると、エネルギッシュで高らかな笑い声 とともにゆんたく(おしゃべり)をはじめ、 沖縄の旧暦文化の話などで楽しませてくれ る。お店の空き時間には城間さんの三線の 音色が響く。こどもたちにエイサーを教え たり、惣菜を一緒に作ったりと、こどもの 居場所づくりにも貢献している。店舗のほ か、組合の専務理事としても、その活躍は

【うちの商店街、ここが自慢】

幅広い。

レトロな風合いがコザのまちに溶け込み、 商店街独特の風景を醸し出している。天ぷらや惣菜など、老舗店舗を中心に屋台村も 立ち並ぶ。銀天街の取り組みをブログで見たという北京の方(日本人の夫と中国人の妻)とのメールでのやり取りから、実際に ユニークなアジアンエスニック料理店がオープンし人気を博している。老若男女、 国籍など、あらゆる制限を超え、誰でも受け入れる商店街、生活街として、再びその活動に注目が集まっている。

中小企業政策審議会 中小企業経営支援分科会 商業部会 事例検討小委員会

委員名簿

委員長	石原 武政	関西学院大学 商学部教授
委 員	武田 憲人	株式会社交通新聞社 「散歩の達人」編集人
"	玉沖 仁美	株式会社リクルート旅行カンパニー じゃらんリサーチセンター客員研究員
"	服部年明	株式会社まちづくり長野参与
"	藻谷 浩介	株式会社日本政策投資銀行 地域振興部参事役
"	渡辺 達朗	専修大学 商学部教授
		(50音順、敬称略)

【お問合せ先】

経済産業省

中小企業庁 経営支援部 商業課03-3501-1929
北海道経済産業局 産業部 流通産業課 商業振興室 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
東北経済産業局 産業部 商業・流通サービス産業課・・・・・・・・・022-221-4914
関東経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 商業振興室・・・・・・・048-600-0318
中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 商業振興室・・・・・・・052-951-0597
近畿経済産業局 産業部 流通・サービス産業課・・・・・・・・・・・06-6966-6025
中国経済産業局 産業部 流通·サービス産業課······082-224-5653
四国経済産業局 産業部 商業·流通·サービス産業課·····087-811-8524
九州経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 商業振興室・・・・・・092-482-5456
沖縄経済産業部 商務通商課098-866-1731

【編集】

中小企業庁

〒100-8912 東京都千代田区霞が関1-3-1 電話03 (3501) 1929 http://www.chusho.meti.go.jp/



